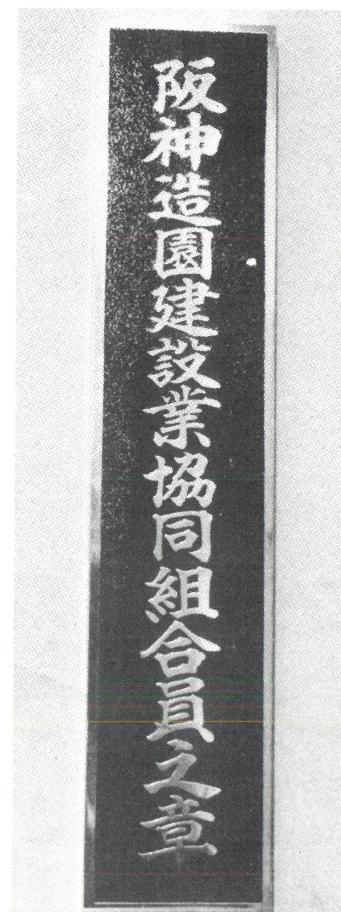
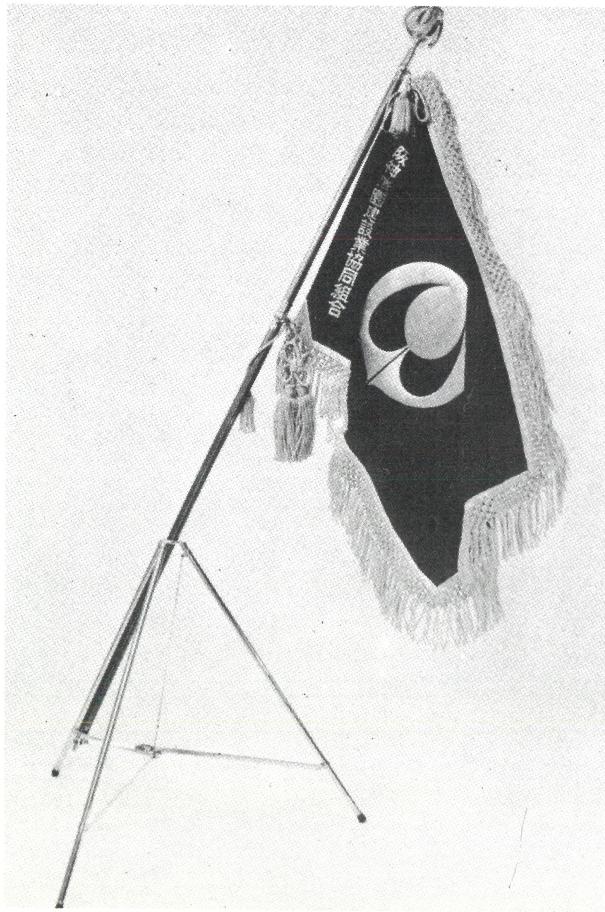
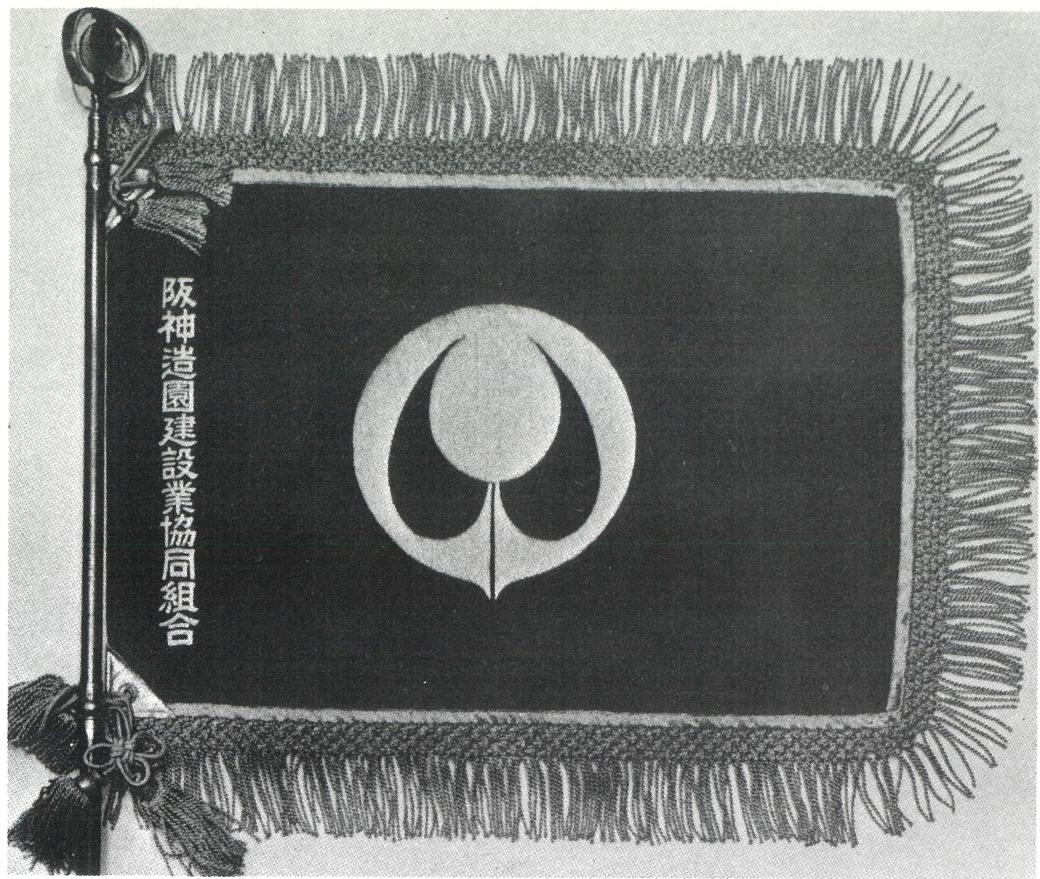


組合二十年のあゆみ



目 次

ごあいさつ.....	1
お祝いのことば.....	2
大阪府知事②兵庫県知事③大阪市長④	
歴代理事長.....	5
第1章／あけぼのから礎へ.....	13
組合の設立⑭造園会館の設立⑮日本万国博工事⑯	
樹木の協同購入や調査事業など⑯技能検定⑰阪神	
造園高等職業訓練校の設立⑯協賛事業や機関誌発	
刊などの活動⑯海外研修⑯創立10周年、さらなる	
飛躍へ⑯	
第2章／興隆から安定期へ.....	29
■事業活動.....	30
教育厚生活動⑯企画渉外活動⑯事業活動⑯技術活	
動⑯広報活動⑯全国都市緑化フェア⑯	
■協賛事業.....	62
■海外造園研修.....	70
■阪神造園高等職業訓練校.....	81
■組合の記録.....	98
第3章／成熟期への展望.....	111
造園業界の展望を語る.....	112
創立20周年記念式典.....	120
編集後記.....	124



御 挨 捶



理 事 長 竹中 榮治

十年一昔の諺の通り、組合10周年を今は亡き当麻第4代理事長指揮の下、盛大に挙行されて以来更に10年。時は移り、人は変り、時代の流れに激しくもまれて、組合も漸く満20才の成人式を迎える事が出来ました。

去る60年9月28日には、大阪コクサイホテルに於て、組合創立20周年記念式典が盛会裡に挙行できましたことは組合の欣事でありますし、改めて組合を今日迄、育成して戴いた諸先輩、並びに関係各位に対し深甚なる感謝と敬意を表する次第であります。

20周年の記念事業の一環として、「組合20年のあゆみ」が上梓されるに当たり、10年前に編さんされました「組合10年のあゆみ」をひもとき懐古致します時、感慨無量の思いでいっぱいござります。

「組合20年のあゆみ」を御読み戴く時、如何に組合としての仕事が多く増える来ているか、お判り戴ける事と存じます。これは偏えに組合に対する御関係先の御信頼の表れであり、業界としての進展のバロメーターでもあります。

組合と致しましても、皆様方の御負託に応えるべく使命感に燃え、更に一致団結して21世紀えの新たな道を歩んで参りたいと存じます。

終りに「組合20年のあゆみ」の編さんを御担当戴き、大変御苦労をおかけ致しました記念誌委員会の皆様始め御関係各位に、心からの感謝の意を表し、発刊の御挨拶と致します。



お祝いのことば

大阪府知事 岸 昌

阪神造園建設業協同組合が、設立以来目覚しいご活躍、ご発展を遂げられ、ここに創立20周年を迎えられましたことに対しまして心からお祝いを申し上げます。

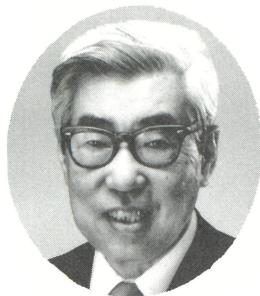
貴組合は、昭和45年の大阪万国博覧会が開催されたのを契機として大阪府下並びに兵庫県下の造園建設業者の方がたにより国土緑化の推進を図るため、昭和40年に設立されたものと承知しております。以来、社会情勢の変化に的確に対応し、順次活動領域を拡大され造園業界の健全な発展に顕著な業績を挙げてこられました。このことは、ひとえに歴代理事長の方々はじめ組合員各位のご努力の賜ものであり、深く敬意を表する次第でございます。

最近における我が国の経済情勢は輸出の好調と設備投資の盛り上りに支えられ、拡大傾向を呈しておりますが、国の公共事業予算は、依然抑制傾向が続いており、大阪府の財政も厳しい状況下にございます。その中で本府といたしましては、来るべき21世紀に向けて「定住時代にふさわしい大阪」を目指して、「安全でゆとりとうるおいのある人間環境」を創造するため、自然とのふれあいの場の創造と緑豊かなまちづくりを府の重点施策として、公園緑地の整備、道路の緑化、緑の保全等に積極的に取り組んでいるところでございます。

また、府民の緑化意識を高め都市緑化を推進するため、国土緑化運動の中心行事として昭和61年春には堺市の大仙公園において「都市の未来を緑に託して」をテーマに全国植樹祭を開催することになっております。

さらに、昭和65年には、花と緑の人間生活の関わりを幅広くとらえ、21世紀に向けて一層うるおいのある豊かな新しい社会の創造を目指し「花と緑の博覧会」が大阪市の鶴見緑地において開催される予定になっております。どうか、これらのイベントに対しましても皆様方の絶大なご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに臨み、貴組合が、栄えある創立20周年を契機に技術の改善等を通じて一層造園業界の飛躍に尽くされるとともに、貴組合の今後益々のご発展とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



豊かな環境づくりの 担い手として

兵庫県知事 坂井 時忠

阪神造園建設業協同組合創立20周年おめでとうございます。

この20年間、経済が高度成長から安定成長へと移行する中で、県民をとりまく生活環境は大きく変ってきました。県民の意識も物質的豊かさだけに満足することなく、生活の質を見直し、うるおいのある快適な生活をもとめるようになりました。

このように社会的環境が変遷する中で、緑に対する人々の欲求はますます高まっているこの時に、貴組合が創立20周年の大きな節目を迎えたことは、きわめて意義深いものがあります。

創立以来、組合員が相互に強い連帯感で結ばれ、業界の地位向上と優秀な造園技術者の育成に努めるとともに、緑化事業に大いなる足跡を残されたご努力に、深く敬意を表します。

いま兵庫県では、うるおいとやすらぎに満ちた県土を創出するため、全県全土公園化構想の推進に全力を傾注しています。

これは、兵庫県全土を一つの公園とし、県内にある恵まれた山野、湖沼、河川、海辺、鎮守の森、神社仏閣を始め、学校、庁舎などの公共施設などを公園の中のそれぞれとして整備し、快適な環境にしようとするものです。

この趣旨を実現するため、1億本植樹植林、公共施設の公園化、うるおいといこいのある県土づくりなどさまざまな施策を展開しています。

この運動は、県民こぞって推進するのですが、中でも、造園関係の皆さんのご活躍に期するところ大なるものがございます。

どうか、今後とも、21世紀の豊かな環境づくりの担い手として、なお一層ご活躍下さるよう、心から念じてやみません。



祝　辞

大阪市長 大島 靖

阪神造園建設業協同組合の結成20周年を心からお慶び申しあげますとともに、今日の発展を築かれるまでの関係各位の並々ならぬ御苦労に対しまして深く敬意を表する次第であります。

貴組合には、昭和40年に結成されて以来、本市の緑化推進のために、造園技術のみならず、多方面にわたって積極的な御協力をいただきましたことに対して厚くお礼を申しあげます。

本市におきましては、この一世紀の間、先人達の英知とたえまい努力により、現在の都市基盤を構築してまいりました。

公園緑化の分野におきましても、大阪城公園や、鶴見緑地などの大公園の整備をはじめ都市景観形成の重要な要素である街路、街園の積極的な緑化推進をはかり、近年では市内の緑もかなり目立つようになってまいりました。

私は、これらの基盤をさらに確固としたものにし、来るべき21世紀にむけて、都市緑化を市政の重要な施策の一つとして、市民の皆様と一緒にって、花と緑溢れる美しい都市景観を整え、魅力ある国際都市大阪を実現するため努力してまいる所存であります。

また、すでにご承知のことと存じますが、昭和65年に鶴見緑地で「花と緑の国際博覧会」を計画いたしておりますが、この博覧会は、「都市」「花」「文化」をテーマに「花と科学」「花と生活文化」「花とあそび」などのかかわりを示すことにより花と緑と人間生活の関りを幅広くとらえ、市民の花や緑への関心を高めるとともに、世界の人々と、国際的な交流、相互理解を深めていき、21世紀にふさわしい町づくりを進めようとするものであります。

このような情勢の中で皆様方には、この20周年を契機とされまして、今日までの数々の成果を礎として、さらに技術の向上に励まれ、大阪の町を花と緑でいっぱいにするため、なお一層の御支援を賜りますようお願い申しあげます。

最後に、貴組合のますますの御発展と、組合員各位の御繁栄を心からお祈り申しあげましてお祝いのことばといたします。

歴代理事長

初代 森 俊一

自 昭和40年9月28日 至 昭和43年11月28日

略歴（別紙）

2代 木原五市

自 昭和43年11月29日 至 昭和46年6月6日

略歴（別紙）

3代 木村源次郎

自 昭和46年6月7日 至 昭和48年5月24日

略歴（別紙）

4代 当麻英夫

自 昭和48年5月25日 至 昭和52年5月20日

略歴（別紙）

5代 阪上秀雄

自 昭和52年5月21日 至 昭和56年5月29日

略歴（別紙）

6代 竹中榮治

自 昭和56年5月30日 至 現在

略歴（別紙）



歴代理事長（初代）

森 俊一

自 昭和40年9月28日

在任期間

至 昭和43年11月28日

略 歴

生年月日 大正4年7月10日生。

最終学歴 昭和12年3月、千葉高等園芸学校卒業。

経歴

自昭和12年4月 家業（樹木養生、販売、造園工事）に従事。森三芳園自営

至‘’26年3月

昭和26年4月 株式会社三芳園を創立。代表取締役に就任。

昭和40年4月 日本造園緑地組合連合会理事に就任。

昭和40年9月 阪神造園建設業協同組合創立と共に理事長に就任。

昭和43年11月 病気の為同上辞任理事に就任。

昭和44年11月 日本造園緑地組合連合会副会長ならびに近畿支部長に就任。

昭和45年5月 阪神造園建設業協同組合理事に再任。

昭和46年5月 同上理事に再任。

昭和46年10月 日本造園緑地組合連合会副会長ならびに近畿支部長を辞任。

昭和48年8月26日死亡。

賞 罰

1. 昭和45年11月12日公園緑地折下功労賞（第2会）受賞。

1. 昭和47年7月10日造園事業貢献につき受賞

建設大臣 木村武雄



歴代理事長（第2代）

木原五市

自 昭和43年11月29日

在任期間

至 昭和46年6月6日

略 歴

生年月日 明治37年7月15日生。

最終学歴 大正11年3月、東京府立園芸学校卒業。

経 歴

大正11年8月	宮内省内匠寮勤務。
昭和12年1月	宮内省京都地方事務所へ転勤。
昭和21年3月	宮内技師に任せられ退官。
昭和21年5月	東京植木株式会社に入社
昭和22年5月	同社関西支店長に就任
昭和27年9月	同社退社
昭和27年12月	日本緑地株式会社取締役に就任
昭和29年3月	同社退社
昭和30年1月	京阪神建設株式会社取締役に就任。
昭和32年3月	同社退社自営。
昭和35年9月	株式会社ドリームランド入社。
昭和36年12月	同社退社。
昭和37年2月	阪急園芸株式会社入社。
昭和40年5月	同社退社。
昭和40年6月	阪神造園建設業組合勤務。
昭和40年9月	阪神造園建設業協同組合創立につき引き続き勤務。
昭和42年7月	同上専務理事に就任。
昭和43年11月	同上理事長に就任。
昭和45年5月	同上理事長に再任。
昭和46年6月	理事長辞任、参事。
昭和56年7月20日	退職。
昭和60年8月3日	死亡。



歴代理事長（第3代）

木村源次郎

自 昭和46年6月7日

在任期間

至 昭和48年5月24日

略 歴

生年月日 明治42年2月27日生。

最終学歴 大正15年3月、大阪大倉商業学校卒業。

経 歴

自大正15年4月	至昭和21年6月	家業造園業（商号植源）に従事。
自昭和17年5月	至昭和18年5月	大阪府造園工事工業組合理事長。
自昭和18年6月	至昭和20年8月	大阪府緑地工事統制組合理事長。
自昭和21年9月	至昭和42年5月	大阪造園土木株式会社取締役。
昭和42年6月	同上	代表取締役に就任。
昭和58年10月	同上	退任。同取締役相談役に就任現在に至る。
昭和43年5月	同上	阪神造園建設業協同組合理事に就任。
昭和45年5月	同上	理事に再任。
昭和46年6月	同上	理事長に就任。
昭和46年11月	同上	社団法人日本造園建設業協会理事ならびに近畿支部長。
昭和48年5月	同上	退任。
昭和48年4月	同上	阪神造園高等職業訓練校運営委員長（役員）に就任。
昭和48年5月	同上	阪神造園建設業協同組合理事に就任。
昭和49年5月	同上	日本造園建設業協会 相談役就任今日に至る。
昭和56年5月	同上	阪神造園建設業協同組合相談役就任。
昭和57年10月	同上	日本造園修景協会大阪府支部会計監事に就任。

賞 罰

1. 昭和48年10月12日都市公園制度制定 100周年記念業績表彰受賞

感謝状 建設大臣 金丸 信

1. 昭和49年7月10日造園事業貢献につき受賞

表彰状 建設大臣 龜岡高夫

1. 昭和53年4月29日 黃綬褒章受章 内閣総理大臣 福田赳夫

1. 昭和60年11月3日勲五等瑞宝章受章 内閣総理大臣 中曾根康弘



歴代理事長（第4代）

当麻英夫

自 昭和48年5月25日

在任期間

至 昭和52年5月20日

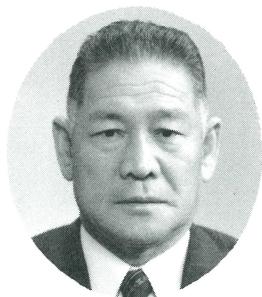
略 歴

生年月日 明治43年8月23日生。

最終学歴 昭和4年3月、大阪市立西区商業学校卒業。

経歴

- | | |
|------------|----------------------------|
| 昭和4年4月 | 株式会社奥村組入社。 |
| 昭和32年5月 | 同上常務取締役に就任（経理担当）。 |
| 昭和35年5月 | 病気の為辞任。 |
| 昭和36年4月 | 三容興産株式会社創立、代表取締役に就任、現在に至る。 |
| 昭和43年5月 | 阪神造園建設業協同組合理事に就任。 |
| 昭和45年5月 | 同上理事に再任。 |
| 昭和46年5月 | 同上理事に再任。 |
| 昭和48年6月 | 同上理事長に就任。 |
| 昭和48年6月 | 社団法人日本造園建設業協会理事に就任。 |
| 昭和49年6月 | 阪神造園高等職業訓練校運営委員長（役員）に就任。 |
| 昭和50年6月 | 阪神造園建設業協同組合理事長に再任。 |
| 昭和52年5月 | 同上理事に再任。 |
| 昭和53年9月13日 | 死亡。 |



歴代理事長（第5代）

阪上秀雄

自 昭和52年5月21日

在任期間

至 昭和56年5月29日

略 歴

生年月日 大正11年12月21日生。

最終学歴 昭和15年3月、大阪府立園芸学校卒業。

経歴

- 昭和15年4月 植捨組入社。
昭和40年2月 宝塚市造園組合理事に就任、現在に至る。
昭和42年6月 植捨組が株式会社植捨組となり、専務取締役に就任。
昭和43年7月 阪神造園建設業協同組合理事に就任。
昭和48年3月 阪神造園高等職業訓練校常任指導員に就任。
昭和48年5月 阪神造園建設業協同組合理事退任。
昭和48年6月 阪神造園建設業協同組合副理事長に就任。
昭和51年6月 阪神造園業協会会长に就任。
昭和52年5月 阪神造園建設業協同組合副理事長及び阪神造園業協会会长退任。
昭和51年7月 大阪府造園緑化組合連合会副会長に就任。
昭和52年5月 阪神造園建設業協同組合理事長に就任。
昭和52年7月 (社)日本造園建設業協会理事に就任、現在に至る。
昭和52年8月 大阪府造園緑化組合連合会副会長退任。
昭和53年5月 (財)日本造園修景協会評議員に就任、現在に至る。
昭和53年10月 大阪府職業能力開発協会理事に就任。
昭和55年6月 (社)日本造園建設業協会近畿総支部支部長に就任。
昭和56年5月 同上退任。
昭和56年5月 阪神造園建設業協同組合理事長退任。
昭和56年5月 大阪府職業能力開発協会理事退任。
昭和57年6月 阪神造園建設業協同組合相談役に就任、現在に至る。
昭和57年6月 (社)日本造園建設業協会兵庫県支部支部長に就任、現在に至る。

賞 罰

- 昭和53年9月25日 組合運営の功労により大阪府中小企業団体中央会太田会長より表彰せらる。
- 昭和55年5月28日 (社)日本造園建設業協会二階堂名誉会長より建設功労賞。
- 昭和56年10月15日 都市公園事業の推進に尽力した功績により斎藤滋与史建設大臣より表彰せらる。
- 昭和56年11月18日 産業技能功労者として坂井時忠兵庫県知事より技能顕功賞。
- 昭和59年4月29日 中曾根康弘内閣総理大臣より黄綬褒章を受章。



歴代理事長（第6代）

竹中榮治

自 昭和56年5月30日

在任期間

現在に至る

略 歴

生年月日 昭和5年9月1日生

最終学歴 大阪府立園芸高等学校 園芸科卒業。

経 歴

自昭和24年4月 至昭和32年6月 家業竹中庭園工務店に従事。

自昭和32年6月 至昭和52年10月 株式会社竹中庭園専務取締役に就任。

昭和40年、父榮太郎、阪神造園建設業協同組合理事就任後、代理として組合業務等に参画

昭和48年5月 阪神造園建設業協同組合副理事長に就任。

自昭和49年4月 至昭和50年3月 阪神造園業協会会长に就任。

昭和52年10月 株式会社竹中庭園代表取締役に就任現在に至る。

自昭和54年4月 至昭和55年3月 阪神造園業協会会长に就任。

昭和56年5月 阪神造園建設業協同組合理事長に就任(社)日本造園建設業協会大阪府支部長に就任現在に至る。

昭和57年5月 大阪府中小企業団体中央会 理事に就任現在に至る。

昭和57年6月 大阪府官公需適格組合協議会副会長に就任現在に至る。全国官公需適格組合受注確保協議会理事に就任現在に至る。

昭和58年5月 阪神造園建設業協同組合理事長に再任。

昭和60年5月 同上再任現在に至る。

賞 罰

- 昭和53年9月25日組合運営の功労により大阪府中小企業団体中央会 太田十会長より表彰。
- 昭和57年11月2日組合運営の功労により岸昌大阪府知事より表彰。
- 昭和60年11月1日大阪府中小企業労務改善事業推進功労者として大阪府中小企業労務改善集団連合会 工藤芳春会長より表彰。

第1章

あけぼのから礎へ

東海道新幹線が開業し、東京オリンピックが開催された39年。日本経済は高度成長時代の絶頂期を迎えるようとしていた。

すべての企業体は活性化し、それぞれの目標に向けて一丸となり、大なる槌音を響かせていた。

こうした社会的背景のもと、造園業界でもひとつの組織体をつくろうという呼びかけがなされていた。

そして、東京に呼応して大阪でもパイオニアの人達が多大の苦労を重ね、漸く昭和40年9月「阪神造園建設業協同組合」の結成にこぎつけたのである。

そして、時を同じくして万国博公園の造園修景工事および「日本庭園」の造成工事に向けて急ピッチで準備が進められた。

昭和45年、世紀の祭典・万国博は華々しく開会した。当組合が取り組んだ初事業は、まさに世界中の人々の注目に値するものであった。

翌年には「造園会館」が設立された。そして樹木の協同購入や調査事業をはじめ、技能検定業務の受託、昭和48年の「阪神造園高等職業訓練校」の開校など本格的な活動を始める。

今日に至る組合のダイナミックな行動力と団結力の礎は、すべてこの時代に培われたといっても過言ではないだろう。

組合の設立

●設立の気運高まる

大阪にまだ造園業者の組合組織が無かった昭和39年前後、「何か、まとまった組織を作らなければ」という気運が、大阪府・市その他官公庁関係の造園工事でグループ活動をしている指名業者の間で醸成されていた。しかし、具体的に組合設立となると、なかなか踏ん切りのつかない状態であった。

一方、この頃関東方面では全国を7ブロックに分けて造園組合の連合体づくり（社団法人・日本造園建設業協会の前身である日本造園緑地組合連合会）が進展しつつあった。もちろん近畿方面にも各単位組合ごとの加入の呼びかけがもたらされた。大阪へは、組合組織の古い伝統をすでにもつ京都府の佐野藤右エ門氏の斡旋で、まず（株）三芳園社長・森俊一氏を通じて申し入れがあり、同氏がその旨を大阪の業者に呼びかけて、組合結成を早急に促進するよう強調されたのであった。

また、時を同じくして、日本万国博覧会が千里丘陵で開催されることが決定。この世紀の祭典の造園工事に参加し、日本の造園技術の大集成を完

成するためには、地元造園業界の総力結集が緊急事であるとの声がおこり、いよいよ組合結成の気運は急速に高まっていった。

●ついに組合設立へ

前述のような要因が複合作用して、当時の管・公需工事指名業者間の長老格であった大阪造園土木（株）岩田社長と加茂佐造園（株）稻沢社長を旗頭に、ついに組合結成が着手されることになった。

その実行部隊として、（株）昭和造園土木・坂上種博、京阪神建設（株）・木山匡司、（株）三芳園・西谷作太郎、植村造園土木・植村一郎、阪急園芸（株）・稻治清、（株）竹中庭園・竹中栄治、大阪造園土木（株）・植木巖の諸氏が多忙な業務のかたわら、幾日も会合を重ね、また、加入者の説得に奔走して、ようやく設立認可申請手続の着手段階にまでこぎつけることができた。

しかし、弁護士に委任した手続の進展が思うようにはかどらず、むなしく約一年が経過してしまっ



造園会館の設定

た。そこでやむなく素人なりに木原五市氏が専属的に書類手続を担当することになった。上記実行部隊の諸氏も協力して、再三再四、建設省へ通いつめ、建設省や大阪府中小企業団体中央会の親切な指導もあって、全く専門家の手を借りずに昭和40年8月、ようやく認可申請手続完了にこぎつけたのである。

この間、昭和40年3月には大阪市北区茶屋町にマンションの2室（計13坪）を借り、5月14日からまがりなりにも組合事務所を開設。そして6月15日には、創立総会を開催した。

●阪神造園建設業協同組合発足

かくて、昭和40年9月7日、組合設立認可が、同年9月28日には登記が完了。11月19日には待望の発会式を大阪市東区のコクサイホテルで開会することができた。

当日の会は、大阪府知事、兵庫県知事、大阪市長、神戸市長をはじめ、各衛星都市関係者、公共団体等の関係者など約74名の方々の御出席を得て盛会をきわめた。式は初代理事長・森俊一氏の挨拶に始まり、大阪府知事・兵庫県知事へいちょう各70本を寄贈する記念植樹目録の贈呈、来賓祝辞と進行し、万歳三唱をもってめでたく終了した。

こうして、ここに相互扶助の精神に基き、協同地位の向上をはかることを目的として、「阪神造園業建設協同組合」が正式に発足した。それはまた、造園業界の近代化と発展、花と緑の府民運動の推進、さらに昭和45年開催予定の日本万国博覧会への寄与に対する各界の期待を一身に受けた出発でもあった。

●マンションから出発した組合事務所

組合創立当初、経理上の問題から大阪市北区のアパート内に設けられた組合事務所も、日本万国博の工事受注が具体的になるにつれ、関係者の組合への立ち寄りが多くなり、手狭になってきた。

そこで、早急に地の利のよい大阪駅周辺で広い事務所をさがすことになった。そして、国鉄・阪急・阪神の梅田駅から徒歩数分の大坂市北区高垣町86番地に福田ビルを捜し当て、直ちに役員会にはかって借り受けることを決定、昭和42年3月14日新事務所へ移転した。

事務室約8坪、会議室約20坪のこの事務所は、その後4年間、日本万国博をはじめとする造園の受注業務や連日の深夜におよぶ協議など、組合の事業活動の拠点として大いに活躍した。

一方、今後の組合事業の安定を図るために組合もこのまま借家住まいではなく、小さくとも独自の事務所（造園会館）を持てたら、という声が出はじめていた。たまたま、万国博が無事終了し、各社が当初工事施行用として出資していた資金の返済処置が役員会の議題として検討されることになった。そこで、この資金を造園会館の設置に当ててはという声があがり、時期尚早という一部の意見をおさえ、この機会を逃して会館の設立はないとの意見が大勢を占め、ついに「造園会館の設立」が実現へ一步を踏み出したのである。

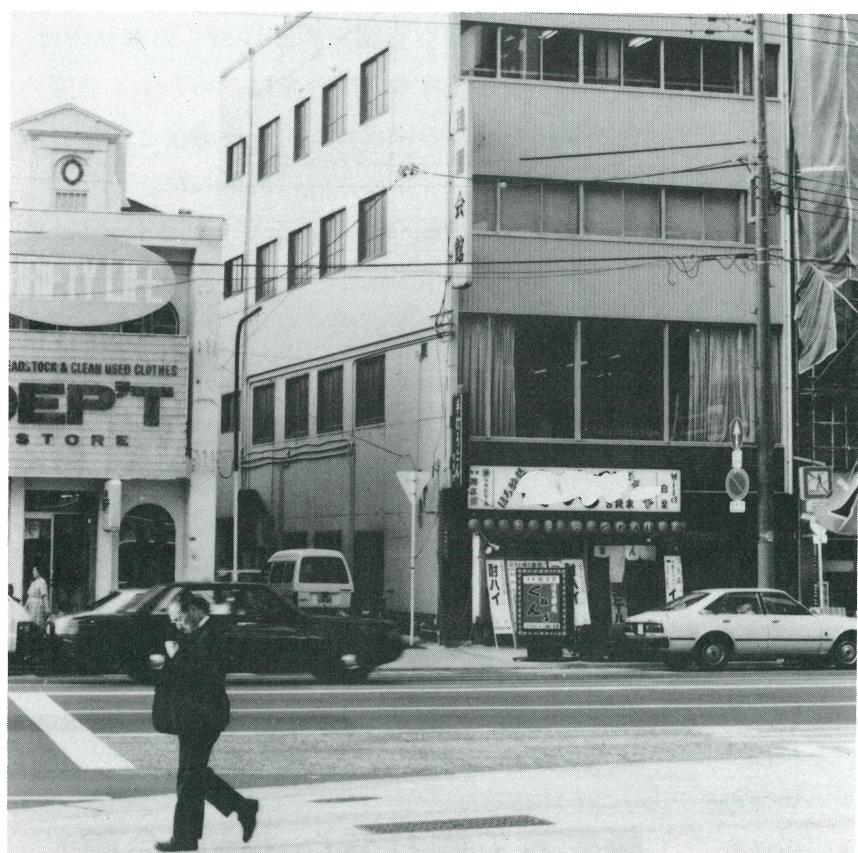
●熱意で勝ち得た「造園会館」

理事長（木原五市氏）は臨時総会を召集し、詳細な計画説明を行い、設立委員会が発足した。各

方面に物件の紹介、斡旋を依頼するとともに、用地の問題、建設費の検討など協議が連日夜遅くまで続けられた。委員達は物件を追って文字どうり東奔西走の日々をおくった。そんなある日、キタの中心地である太融寺に兼松江商所有の敷地70坪の4階建鉄骨造りの物件があるとの情報が委員会にもたらされた。委員会では直ちに下見し、都市再開発問題等を研究して将来性を確認。そして役員全員で物件を視察し、さらに検討を加え、現物件、価格、改装費、設備費、税金および今後の運営等に関して相談が重ねられた。

当時、この物件は松下電器が譲渡交渉を始めていたので、代表数名が兼松江商に足を運び、組合の事業と資金面の実情を訴えた。兼松江商では、当組合の熱意と活動に対して深い理解を示され、ついに松下電器が提示した価格より下値をもって商談が成立したのである。

そして昭和46年5月1日、ついに念願の「造園会館」は組合事業の拠点として、組合の設立、日本万国博工事の成功に次ぐその後の発展の大きな礎となったのである。



日本万国博工事

●世紀の大イベント

日本万国博覧会は、昭和45年3月15日から半年の間、「人類の進歩と調和」をテーマに、世界72カ国のほか4国際機構・1政庁・6州・3市が参加し、海外からの170万人を含む入場総数6400万人の人々を集めて開かれた。

当初10年間の組合事業のうち、最も顕著な活動として特筆すべきものは、この万国博覧会会場の造園修景工事および政府出展の「日本庭園」造成工事を完成したことであろう。

万国博終了後も記念公園として、組合員の指導管理のもとに現在に至る「日本庭園」が、日を追つてしまさを増し、世界の人々の平和ないこいの場となっていることを目のあたりにするとき、わが組合員の総力結集の真価を遺憾なく發揮したこの協同事業の輝かしい成果をいまもなお誇ることができるのである。

●受注体制を整える

茶屋町に事務所を置いた昭和40年の後半頃のことである。万博工事用大樹の使用樹種、規格数量等の虚実とりませた情報や、工事規模の大きさから、万国博協会では大手財閥商社に一括受注させ、それを各業種毎に分割下請させる方式をとるようだとか、すでにその受注運動がひそかに行われているといった類のうわさが流布されていた。

しかし、われわれ組合員は開催地元の専門業者の名誉にかけても、この大事業に挺身協力し、総力を結集し、何としても世紀の祭典を成功に導きたいとの熱意に燃えていた。このため、万博協会当局と折衝を重ね、強力に意見具申を行うとともに



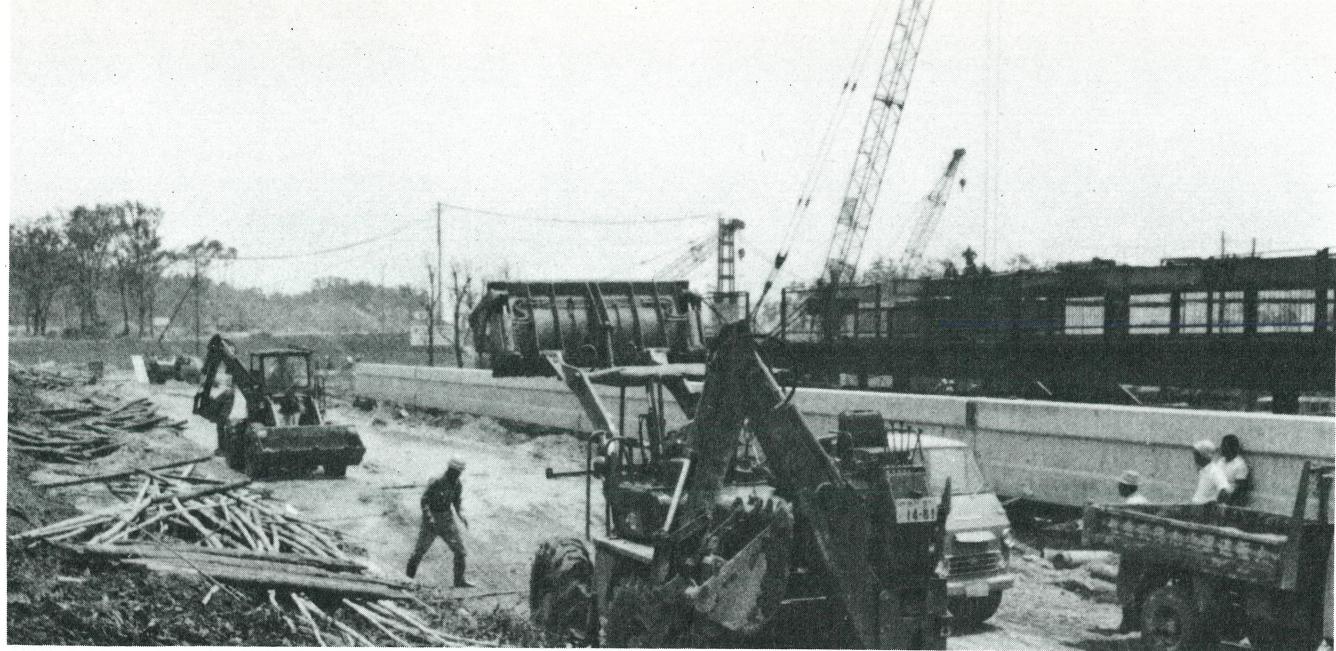
に、組合の持論である相対契約方式を陳情し続けたのであった。

一方、自主的には万博工事に使用されると予想される大樹類の調査に乗り出し、昭和41年4月には組合員が5地区を分担して、関東から九州にわたって綿密な調査をするかたわら、大樹の手持ち及び調達可能な樹種・数量について数回におよぶ大調査を行うなど、予測される発注に対応する準備態勢を着々と整えていった。

また、受注対策に万全を期するために、組合内部の陣容強化を兼ねて万博対策委員会を設置するとともに、企画・渉外・情報宣伝・資材・財務の各委員会を設けて活発な活動を開始。41年4月には工事対策の完備をPRするパンフレットも発行して宣伝活動を進めた。

さらに、これと同時に、万博工事に対する認識と知識を得る目的から、当時カナダ・モントリオール万国博建設工事の見学を企画し、大阪府議会議員・酒井朋三氏（故人）を総団長とする視察団一行に当組合から12社15名が参加、建設中の現地の状況をつぶさに見学した。

こうして工事発注の日が近づいた。当組合では各個々の業者単独指名、組合指名、さらに日本庭園工事受注のため、組合員3~4社を単位とする8つの造園共同企業体を編成し、いずれの発注にも対応し得るよう体制を整えて入札の日を待ったのである。



●発注額の半分以上を受注

昭和42年2月5日、万国博覧会協会より待望の大樹類現場説明の連絡があった。指名には組合、組合員の全社、および北は埼玉県から南は宮崎・鹿児島県に至る総数70数社が入り活気を呈した。

組合では、組合および組合員が受注する工事は樹木検査、根廻検査、樹籍簿調整、現場搬入、植栽に至るまで、すべて組合の指導・統制の下において円滑、有效地に運営することにし、積算や打ち合わせ会などを重ねた。

そして2月16日に入札当日となった。入札は午前9時30分から順次行われた。

『万博の大樹発注の第1回入札の際、組合名義の入札のために、森理事長と私が同道して入札に臨んだところ、当時としての造園工事の規模としては金額が大き過ぎ、入札金額記入のとき組合を代理しての重責と重圧を意識し、緊張のあまり、ペンを持つ手のふるえが止まらなかつたことが印象に残っている—（株）京阪神グリーン・木山氏〔組合十年のあゆみより〕』

そして入札の結果、組合および組合構成員は発注額の半分以上を占める9件の工事を受注することができたのである。

●大造園工事に取り組む

こうして、いよいよ万国博覧会場の造園工事が開始された。

樹木の調達は宮城県のミヤギノハギを北限とし福島県から北関東のモミ、レンゲツツジ、ヤマザクラ、長野県のコブシ、そして南端は九州佐多岬のイスマキに至るまで、ほとんど全国的な規模で進められた。

これらは組合決定の単価で、それぞれの組合員より調達可能なものの報告を受け、担当樹木を決定したのであるが、しかしこれに至るには大変な苦労があった。仕入れ不可能なものが数多くあるため、再三全員が集会を行い、不足数は樹木検査を受けながら集めることにして進行した。

『樹木納入については一本の樹について下見に1回、役所の検査に1回、根廻し検査に1回と前後3回現場に出向することとなり、大変だった。ある時、シデザクラ、ノリウツギ、レンゲツツジなどの検査のため、日本海ぞいの山の中をくる日もくる日も樹探しに明け暮れて、一週間あまりを歩き廻り、検査にきた係官とどちらが先にダウンするかの意地くらべとなり、とうとう最後まで双方頑張り通して、大変苦労したことがあった。—（株）三芳園・西谷氏〔組合十年のあゆみより〕』

また、景石類の集荷も大変であった。とくに日本庭園では滝口、流れ、主庭池の岩組に約1万トンの石が使用されたが、その色・型・大きさなど設計になるべく合致する自然石が求められた。かくして、ある班は岐阜県イビ川の上流に探索に入り、他の班は徳島県の阿波・奥祖谷の渓谷に景石を求め、またある班は鳥取県佐治川の急流を遡っ

て景石を確保したのであった。

そして昭和43年10月27日、いよいよ日本庭園の石組工事が始まった。進入路の整備や池・流れの排水を進め、44年の春の訪れとともに工事は本格化した。同2月には、近年にない降雪のため石の搬入は至難を極め、一時は会場外にストックするという事態も起きたが、各員、雪と泥にまみれ、極寒を克服しながら工程の調整に努力した。

『雪の降った日に日本庭園内の石据現場を検分に行く途中、大丈夫と思って通ったところが、雪のためにわからなかつた軟弱地盤の泥の中へ腰まではまり込んで、抜け出るに出られず、ちょうどアリ地獄のようだった。近くに落ちていた板片を拾って、それに腕をつっぱってやっと抜け出したが、冷氣と泥んこで全く困った。また、蓮池までを随分遠いと感じた。—三容興産（株）・当麻氏〔組合十年のあゆみより〕』

春暖となるにつれ、作業工程はようやく順調に進みかけたが、今度は連日の降雨に見舞われた。そして真夏、木陰ひとつないカンカン照りの中で真剣な努力が続けられていった。

植栽工事についても同様のことがいえる。植栽にあたっては、8つの共同企業体を結成して分担作業に当たったが、昭和44年2月初めに北ゲート駐車場付近よりポプラ植栽の指示があり、中・下旬には殆ど各工区とも着工した。しかし、工事各工区とも苦労の連続で、トラブルも頻発した。雨のため、地内はヘドロ化して人も入れなかつたり、植穴を掘った後に雨が降れば1～2週間も水が引かないなど、作業は難渋を極めた。

また、万博会場は着工前から土質の硬度が取沙汰され、難工事の覚悟はしていたものの、実際に

施行してみると植穴は熟練した造園工10人で1日に1ヶ所余りしか掘れない状態であった。そこで当時としては造園工事にはあまり取りいれられなかつた機械力を利用して乗り切ることになった。

『ケヤキの大樹を植栽することが万博工事の第2号であったが、何分植穴が大きく、またツルハシなどでは歯が立たない土質のため、工期的にも人力掘りではおよびもつかず、機械力を利用することとなり、まず竹中庭園が独自で購入しようという結論に達した。そしてペイローダーを購入して機械掘削をしたが、これがきっかけとなって造園業界も重機を使用するようになったのだと思う。—（株）竹中庭園・竹中氏〔組合十年のあゆみより〕』

このペイローダーが万博工事に大活躍したことはいうまでもないが、竹中氏の話にあるように、この工事を契機として重機械類が活用されるようになり、今ではほとんどの造園会社が保有し、大規模工事の省力化や、工期短縮に大いに力を発揮しているのが現状である。



●万国博ついに開幕

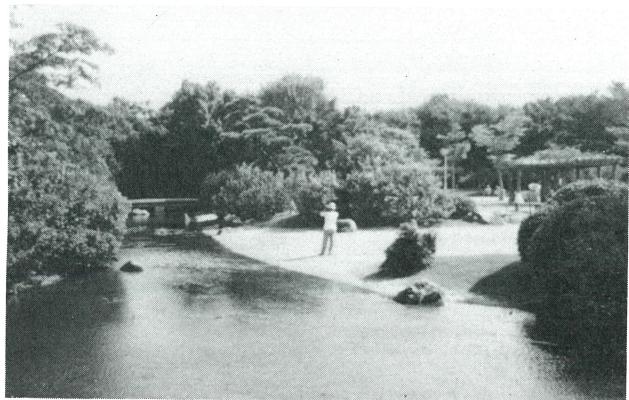
ともかく造園工事はこのような苦労の中で続けられたが、昭和45年2月末日、組合員の総力を結集して取り組んだ昭和期最大の作品はついに完成了のである。

緑の木木に囲まれ、水をいっぱいにたたえた日本庭園は、世界各国の人々の来場を待った。そして3月13日、ときならぬ春の美しい雪化粧に飾られて開場式が行われた。

『まさに祭典の門出を祝うかのように美しい光景で、感激はクライマックスに達した。クス玉は割れた。式場に満ちた参列者からの一斉の拍手は鳴り止まない。感激は涙となって頬を濡らす。—(株)植捨組・阪上氏〔組合10年のあゆみより〕』

こうして、汗と螢雪の苦労がいま実り、後世に残る一大作品ができあがったのである。

しかし、これで我々の任務が終わったわけではなかった。会期中の日本庭園の管理という重大で



かつ未経験の任務が開場と同時にスタートしたのである。

いかに管理運営すれば日本独特の庭園を世界の人々に鑑賞し、理解してもらえるだろうか…組合では全員の団結をさらに強くしてこの任務に当たることにした。作業は会場の運営上、日中は出来ないので閉場直後から作業に入り、翌朝の開場までに行うという過酷な夜間作業が数十度におよんだ。雨季には土砂流出で雨中の夜間作業を続け、台風の来襲では倒れた樹木を復旧し、猛暑には灌水作業に全力を注いだ。

『竹林は毎日数回も巡回して観察を続けたが、葉の萎むのを見る時には身を切られるよりも辛かったし、緑の竹林の所々に見られた立枯竹をいかに処理すればよいのか。閉場後の竹林にひとり頭をかかえる淋しい姿もわれながらあわれてであった。—阪上氏〔10年のあゆみより〕』

全組合員は睡眠不足の体に鞭打ち、組合のメンツにかけてもと庭園の維持に全力を尽くした。花木類の摘花、菖蒲園の摘花と、息つくひまもない雑草との戦い、芝生の刈り入れ、枯死樹木の撤去と補植…。こうして目まぐるしい半年間が過ぎて、ようやく9月13日、万国博は無事幕を閉じたのである。

ちなみに、組合員各社の団結力と伝統の技術で造りあげた日本庭園は、今日も組合員がその管理運営に当たっている。また、重機械類や土壤改良、資材の使用など、この万国博工事施行の経験は、その後の造園工事施行や種々の材料開発の大きな推進力となっていることはいうまでもない。



樹木の協同購入や調査事業など

●樹木の協同購入

昭和46・47年当時、クスの使用量は非常に多く関西方面での栽培品はごく少数のため、大多数のクスは九州方面から仕入れられていた。しかし、そのクスも山堀の荒木や根廻しものといつても上根切だけのもので、現場で植え込んでも過半数以上が枯れてしまう状態であった。こうした時期に鹿児島県鹿屋市と大崎町、志布志町地方で、万国博当時に明治園、龍松園がタブ、クス、イヌマキ等を仕入れ、当地の人々に根廻しを指導したことや、その後、昭和造園土木の坂上氏が植え付け指導を行われたことから、現地の業者と接触が深まり、協同予約購入の話が持ち上がった。

役員会では、全員が賛成し、樹木の下見を行って予約購入と数量を決定する一方、各業者への通知条件として2年後に引き取ることで予約契約を行った。

この他、46年には、組合員各社の事業用資材である支柱用杉、檜丸太(C.C.A注入)の共同購入の要望もあり、日本木材防腐(株)と購入契約を行った。この購入は以後昭和49年までの4年間で69万本にものぼった。



●調査事業

昭和46年4月、大和郡山市住宅公社および土木部から、矢田町に造成の分譲住宅敷地内約10,000m²の造園樹木の移転補償のための調査依頼があり測定調査を実施し、鑑定調査書を提出した。

この調査をきっかけに、豊中市水道局の依頼による柴原浄水場塩素ガス漏出事故による樹木損傷状況調査をはじめ、大阪大学、富田林市、日本住宅公団、日本国有鉄道、大阪府などの依頼による樹木移転補償調査鑑定、栽培樹木調査鑑定等を多数行った。

この調査鑑定は現在も当組合の主要事業のひとつとなっている。



技能検定

●造園技能検定業務を受託

技能の国家検定制度は昭和34年に始まり、逐次職種は増加して、同50年度には82職種にも及んでいるが造園（造園工事作業）が加わったのは、48年度からである。

昭和48年4月頃、当組合員が加盟している（社団法人）日本造園建設業協会を通じて、労働省からの情報を入手した。他職種に比べていさか遅きの感があったが、いよいよ重要性が増大しつつある緑化事業の担い手としての造園従事者が、社会的信望と技術向上をふまえての格付のための門戸が開かれることは喜ぶべきことであった。

当組合は率先してこれに当たることにし、日造協近畿支部の両翼にある兵庫・京都とも緊密な連絡をとりつつ準備を進める一方、大阪府労働部、大阪府検定協会にも折衝を続け、極力進行方を要望した。

そして、同年9月28日、検定協会より昭和48年度「技能検定ならびに技能五輪大会、府予選案内書」が発行され、実技検定試験業務を当組合が受けることになった。検定協会としても、造園業界にたいする検定試験は初めてのことであるし業界の実態も把握されていない関係上、当組合への依存はどうぜんであったし、組合としても、造園界将来のため大切な資格獲得の事業であることから役員会の賛意により積極的に協力することにしたのであった。検定試験の準備と運営に当たる実行委員の決定、検定協会の依頼による検定委員の選任と補佐員の決定等の諸事務を進めた。また、京都造園協同組合主催の検定試行会の見学や大阪の受験者のためのトライアルも計画・実行した。

こうして、昭和48年度の実技試験は、49年1月



21日、23日、25日、28日の4日間、準備の日をはさみ実施した。実技試験会場は、大阪府営久宝寺緑地を借用し、1級・2級あわせて120名が受験した。2月24日には大阪府技能検定協会が直接、東大阪市の近畿大学講堂において学科試験を行い、その結果合格率96.5%という稀に見る好成績をおさめることができた。

昭和49年度の技能検定については、大阪府全域にある地域単位の造園組合を通じて周知することが望ましいということで、それが大阪府造園緑化組合連合会結成のきっかけとなったのである。便宣上北・中・南の3地区を（4会場）に分割したブロック組織とし、事務所を造園会館に置き、統轄事務を取扱うこととし、各地区には夫々近隣にある単位組合を下部組織として検定事務に当たった。このことによって検定試験により多くの受験者を掘り起すことができたのである。

昭和50年度以降は、阪神造園建設業協同組合が、大阪府造園緑化組合連合会の全面的な協同のもとに、実技試験を実施するという極めて強力な仕組みができ上がったことは幸いなことであった。

造園技能検定は労働省所管事項であるが、建設省が実施する造園施工管理技術検定は、建設業法に基くものである。この2つは混同され易いが当組合では、さきに組合の幹旋で結成された大阪府造園緑化組合連合会はもちろん、アウトサイダーの希望者を加え、日本造園建設業協会ならびに全国建設研修センターからの情報を流し、受講・受検手続の指導・幹旋を行った。こうして昭和51年1月から造園施工管理技術検定は実施されたのである。

阪神造園高等職業訓練校の設立

●造園教室の開催

昭和42年、当組合では造園技術の向上に資するために、設計製図等を主眼として当時の組合事務所会議室で造園教室を開設したが、万国博工事が多忙になり、一時休講のまま再開の機会を逸していた。

しかし、わが造園業界も時代の推移と進展に応じて経営面・技術面の格段の改善が、特に老練な技術者の減少による若手後継者の養成が要求されるようになり、組合役員間でも機会あるごとに、教習機関の実現化が話題にのぼっていた。

そこで、昭和47年の春、当時の理事長木村源次郎氏を中心とする理事の総意により、教習機関（職業訓練校）の構想から具体案にいたる一連の調査研究が始められた。たまたま、東都造園建設

業協同組合が、この種養成訓練を実施中であることを知り、さっそく同組合を訪ね、訓練の方法や内容から校則、規約、教科参考書等の資料を入手した。また、訓練は労働省所管の法定訓練に属する関係上から大阪府労働部訓練課に法規、申請手続きなどの指導を受け、当組合としての草案作成に取り掛かったのである。

その試行として同年8月、大阪市長居公園で3日間の夏期造園教室を開催した。講習は造園学概論、工事施工概論、測量学概論等の学課と、炎天下の測量実習が行われたが、62名の受講者は熱心に学習、また、終了後のアンケートでもこの種の勉学を希望する声が多く、意欲の盛んなことが示され、教習機関（訓練校）の開設の大きな布石となった。





●訓練校開設

夏期造園教室の成功で訓練校開設の自信をかためた当組合では、9月9日、組合理事会で職業訓練校の設立を内定、次いで14日の協会役員会でも承認されたので16日には合同委員会を開催、ここに設立準備委員会の結成をみるに至った。

引き続き、校則、規約、細則の制定、機構、予算と運営方針、講師の選定と交渉、指導員の任用など、全般にわたり具体案の作成を急いだが、組合事業として最も大切な定款の改正を行う必要が

あることから、11月4日臨時総会を開催、議案は可決され、設立が宣言された。そして、定款の改正は府中小企業団体中央会を経て建設省に届出、12月に許可が、また、登記申請は翌年2月8日付で認可された。

開校式は昭和48年4月5日、午後2時から造園会館3階会議室で行われ、大阪府職業訓練課長から認可証が田治六郎校長、（財）大阪市公園協会常務理事へ授与され、ここにめでたく「阪神造園高等職業訓練校」が船出したのである。

協賛事業や機関誌発行などの活動も

●花壇展や庭園展覧会に出品

昭和42年、当組合では緑化運動を積極的に推進している大阪市に、運動推進用として「緑化巡回車」1台を贈呈した。また、44年からは毎春、中の島を中心に行われてきた「花まつり」に協賛して花壇を出品、47年からは出品作を審査して優秀花壇を表彰してきた。さらに同年、堺市緑化協会が泉ヶ丘駅前広場で開催した「堺市庭園展覧会」には、組合員6社が路地式庭園、竹の園などを出品、好評を得た。

●パンフレットや機関誌の発行も

昭和42年8月、日本万国博カナダ館建設に伴う樹木調査員5名が来阪したのをきっかけに、当組合では広く諸外国向けのパンフレットを発行することになった。

そこで、大阪府立大学造園学教室などの協力を得て、同年9月、日本の造園樹木151種の写真と和名、英名、学名、適正条件などの解説を付して紹介した「日本の造園樹木」を発刊、諸外国の大蔵館・公使館をはじめ、この本の発刊に際し、募集して決定したものである。

また、昭和50年には、組合創立満10周年記念事業として組合会報（組合時報）の発刊を企画、8月の役員会で決定、ただちに編集に入り、10周年記念式典当日の9月27日に発刊・配布することができた。

その後「組合時報」は年4回の定期機関紙として、組合員の重要なコミュニケーション・ツールとなっている。

●陳情や要望も

当組合では、造園工事に関して通産省や大阪府・市をはじめとする関係官公署に、陳情や各種要望を行ってきた。この中にはセメント入手難による工事施行延長や旱魃による枯補償、物価高騰による工事費増額など、時局の動きに対応した諸問題の要望・嘆願も数多く含まれている。

これらの事業は、単に当組合事業の円滑な推進をはかるだけのものではなく、土木建設業における造園部門の確立、そして造園業界の社会的信望と地位向上をもはかるアクションとして、大きな役割を担うものといえよう。

海外研修

●モントリオール万国博の準備状況を視察

昭和41年、大阪府議会では日本万国博覧会が千里丘陵で開催されることが決定したことから、42年にカナダで行われるモントリオール万国博の設備や進捗状況の視察の必要性があると議決された。

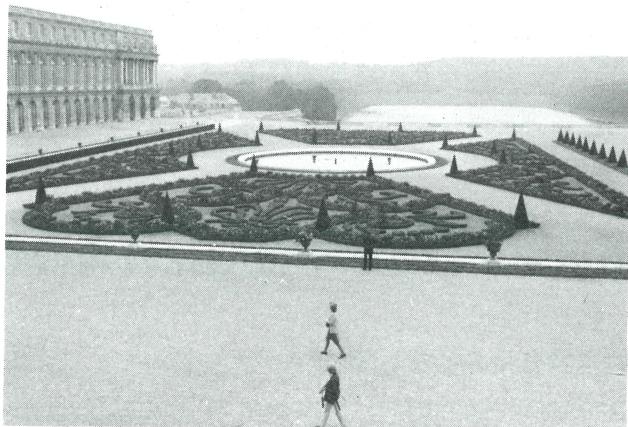
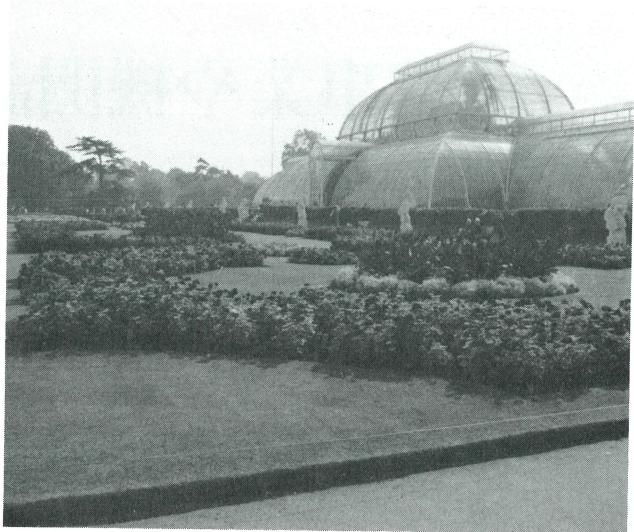
そこで、府議会議長を総団長とする視察団が結成され、関係各階層の参加者の募集が行われた。当組合からは12社15名が同行することになった。

そしてこの年の11月20日、東京羽田空港で結団式の後、一行は空路カナダへと旅立った。カナダでは、まずモントリオール市長を公式訪問し、建設中の万国博会場を視察した。奈良正倉院あぜくら造りを型取った日本館は9分どうり完成、日本式庭園も最後の仕上げにかかっていた。

この日本式庭園は日本のモントリオール博正式参加表明当時から主催者側の強い要望もあって出品されたものであるが、平安時代から今日までの日本の造園の歩みを限られたスペースでうまく表現されていた。しかしながら、樹種、景石、石材などの材料が思うように入手できず、日本から石燈籠を輸送するなど苦心を重ねられた割には、日本庭園のもつ妙味にやや欠けるというのが我々の率直な印象であった。

こうした視察の後、カナダを離れてニューヨークに向かい、世界博跡地の公園修復利用を見学し11月26日帰国、日本万国博の建設工事に資するための7日間の視察の旅を終えた。

帰国後開催された反省会で、当組合員諸氏は造園の専門的な視点から当該視察の感想を語り、来る日本万国博の造園計画に対する意見を具申することができたのである。また、日本万国博の日本



庭園造成工事の成功に、この視察が大きな礎となつたことはいうまでもない。

●西ドイツと欧洲造園研修旅行

昭和48年9月9日から25日までの15日間、組合員を中心とした有志が視察団を結成し、西ドイツを主とした欧州造園研修の旅に出発した。

この旅行は46年10月、西ドイツの造園業者、設計家、樹木栽培業者、造園組合の役員ら60余名が来日した際、当組合員が案内役を担当したことがきっかけとなって実現したものである。

大阪国際空港に集合した総勢28名は、フランクフルトを皮切りに、ハイデルベルグ、ケルン、ハンブルグなど西ドイツの街々を訪ね、イギリス、イタリア、フランス、スイス、オランダ、デンマークなどを回った。ドイツでは9月13日、全欧州国際園芸造園博覧会を見学、（株）京阪神グリーンの木山氏と組合の加藤専務理事、大阪府立園芸高校の吉田氏の3名は、同会場で行われた全西欧州造園国際会議にも出席した。さらに同夜開かれた

パーティには全員が招待され、国際会議に参加された各国の代表と交歓する機会が持てた。

また、ハンブルグ市内の造園会社訪問をはじめロンドンでは世界最古のキューガーデン、パリではベルサイユ宮殿やバンセーヌ公園、ジュネーブのレマン湖畔の花時計、イタリアの植木の村ピストイアなど、多くの有益な専門の対象を視察することができた研修旅行であった。



創立10周年、さらなる飛躍へ



昭和50年9月27日、当組合が設立されてから丁度10年目の奮起と業界発展の願いをこめて記念式典が開かれた。

会場には当組合顧問の衆議院議員・原田憲、原健三郎の両氏をはじめ、大阪府知事、兵庫県知事、大阪市長、同市議会議員や官公庁関係者と造園建設業界の代表者ら70余名の参会者を迎、終始盛会を極めた。式典は来賓の祝辞や創立10周年記念

として公共施設緑化用樹木の贈呈など滞りなく進行し、なごやかなムードのうちにその幕を閉じた。

10年。それは、組合創立の揺籃時代から万国博造園工事の激動と躍動の時代を経て、いまや地域業界の指導団体として堅実に進歩を続けてきた組合のひとつの歴史の節目である。と同時に、それは21世紀に向けての新たなる飛翔の瞬間でもあった。

第2章

興隆から安定期へ

昭和50年から現在に至る10年間は、組合活動のいわば安定期といえるだろう。

前10年のあゆみにある万国博のような大きな事業はなかったものの、大阪府営服部緑地で開催された「都市緑化フェア」や、建設省・大阪府・市等の緑化推進運動に対する各種協賛事業など、地道ながらも堅実な活動を進めてきた10年であった。

また、この時期には、組合員の技術向上やグローバルな眼を養うため、さまざまな研修活動が行われた。技術講習会や諸外国の造園視察も、こうした活動のひとつである。

都市化が進む生活環境の中にあって、人々の花と緑に対する欲求が高まっていったのもこの頃である。

こうした社会的ニーズに応えるため、組合は6つの委員会を設立した。「企画渉外委員会」「事業委員会」「技術委員会」「教育厚生委員会」「広報委員会」「財務委員会」と、それらを結ぶ事務局により、組合活動はさらに充実の度を深めていくのであった。と同時にそれは、組合の意義と存在を各界各層に知らしめた時代でもあった。

組合の事業活動

教育厚生活動

●ソフトボール大会の開催

昭和45年の万博工事の経験により、団結すればどんなことでもできるという自信がめばえていた。そこで、今まで共に苦労をしてきた組合員やその傘下の人々が元気な姿を見せ合える場所と機会はないかと意見交換した結果、ソフトボール大会を開くことが提案された。そしてその案は、万博工事の際に結成された共同企業体の対抗で行うことには満場一致で決定した。

第1回ソフトボール大会が開催されたのは昭和45年10月である。初めての試みとあって選手たちのいでたち素足、地下足袋、ズック靴、そして頭

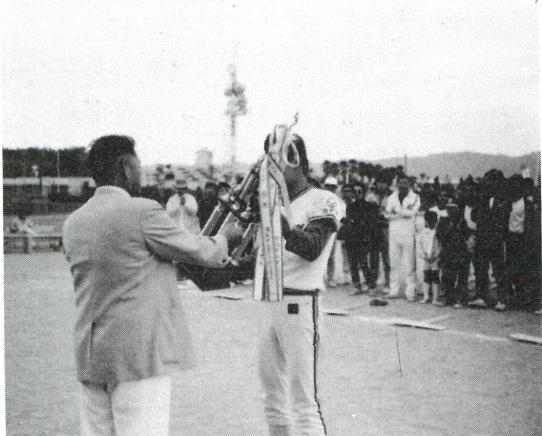
には頬かむり、ハチマキと様々。試合の方も、打てば三振、守ればトンネルというありさまであった。仕事を忘れ、勝敗を忘れての記念すべき第1回大会は大好評のうちにその幕を閉じた。これを契機に大会は毎年1回、恒例開催されることになった。

回を重ねるほどに各企業体とも、技術は格段と向上し、服装も地下足袋、作業服姿から軽快で鮮やかなユニホームに変わっていった。

今後ともこの有意義な親睦の機会を末永く、さらに盛大にしてゆきたいと思う次第である。



ソフトボール会場予約の想い出



阪神造園建設業協同組合のソフトボール大会の日曜日が近づくと、私はいつもそわそわした気持になりました。ソフトボール大会が待遠しいのではなく、大会が行なわれる場所を確保するために梓会のメンバーが苦労？したのに、当日雨が降ればすべて水の泡になるからです。

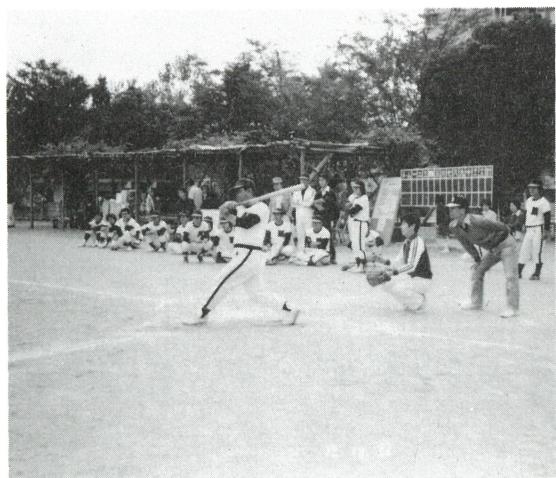
大会は当時は千里の万博記念公園の球技場で9月の中、下旬に開催されました。その場所を確保するのが私達梓会若手メンバーの役割でした。

球技場の使用の申込みは2ヶ月前の7月中頃に行なわれました。予約申込みの日の前日の早朝6時に各社の梓会の会員が集まり並ぶのです。受付は翌日の7時からですから24時間並ぶことになります。私共は通路にシートを敷いて座っていました。マージャンをする人、雑談に興じる人達など様々でしたが、眠い上に、日が高くなるにつれて暑くなり、最初の元気も少しづつ衰えてゆきました。それでも食事どきともなれば腹も空いてますので弁当の買出しなども分担して行いました。

どうしてこんなに多くの人達が並ばなくてはならないのかと申しますと、球技場の使用は時間制になっているため、企業体の各チームがすべての試合を消化するために、一日中協同組合が球技場を占用するためには、数組の申込み団

体をつくって、他の団体が途中に入り込まないように、梓会の若手でガッチリと固めなければならぬのです。小舗石舗装の上に座つてすると尻が痛くなつて来ます。それでも夕刻になると日中の暑さも柔らぎ気持もなごんできます。その頃協同組合の幹部の方々が陣中見舞に来て下さり、ボトルなどを差し入れなどをしていただと本当に嬉しく思ったものです。夜になると蚊とり線香をつけて乏しい灯りの下で、マージャンをする人達、交替で車の中で休む人など様々でしたが、こうして会員が一同に集まって情報交換したりしていますと、日頃お互にしのぎを削って営業活動をしていることも忘れて、同志としての熱い友情も高まり、梓会の結合が深まつたことを今更ながら懐しく思い起こしています。翌朝7時になるとやっと受付が始まります。すべての手続きを終つて、ほつとして喫茶店に飲んだコーヒーの味は忘れられません。当時は辛い役割だと思ったものですが、今思い出しますと本当に楽しい、有意義な時間であったと思っています。今私の回りの多くの梓会の方々やOBの方々と親しくしていただけるのも、あの徹夜の会場予約の集りに負うところが多いと有難く思っております。

近鉄造園（株） 村田善久談



ソフトボール大会の年次記録

- 第1回 昭和45年10月10日（日）
服部緑地ラグビー場
優 勝 兵庫造園共同企業体
準優勝 関西造園共同企業体
- 第2回 昭和46年11月21日（日）
宝塚雲雀丘学園球場
優 勝 京阪神造園共同企業体
準優勝 兵庫造園共同企業体
- 第3回 昭和47年8月29日（木）
服部緑地
優 勝 兵庫造園共同企業体
準優勝 三和造園共同企業体
- 第4回 昭和48年10月7日（日）降雨中止
昭和48年10月16日（火）
万博記念協会球場
優 勝 新大阪造園共同企業体
準優勝 三和造園共同企業体
- 第5回 昭和49年9月15日（日）
万博記念協会球場
優 勝 兵庫造園共同企業体
準優勝 京阪神造園共同企業体
- 第6回 昭和50年10月19日（日）
万博記念協会球場
優 勝 兵庫造園共同企業体
準優勝 京阪神造園共同企業体

- 第7回 昭和51年11月7日（金）
万博記念協会球場
優 勝 京阪神造園共同企業体
準優勝 兵庫造園共同企業体
- 第8回 昭和52年7月10日（日）
塚口グンゼグランド
優 勝 兵庫造園共同企業体
準優勝 第1造園共同企業体
- 第9回 昭和53年10月22日（日）
万博スポーツ広場運動場
優 勝 西日本造園共同企業体
準優勝 近畿造園共同企業体
- 第10回 昭和54年10月18日（日）
淀川河川公園グラウンド
優 勝 西日本造園共同企業体
準優勝 近畿造園共同企業体
- 第11回 昭和55年9月19日（金）
万博記念公園スポーツ広場
優 勝 第1造園共同企業体A
準優勝 第1造園共同企業体B
- 第12回 昭和56年9月23日（水）
万博記念公園スポーツ広場
優 勝 第1造園共同企業体
準優勝 京阪神造園共同企業体
- 第13回 昭和58年10月30日（日）
万博記念公園スポーツ広場
優 勝 京阪神造園共同企業体
準優勝 関西造園共同企業体



●第1回 大運動会

昭和52年10月9日（日）、守口市外島地区の淀川河川国営公園を借用して当組合主催の第1回大運動会を開催。9企業の組合員とその家族が参加した。この催しは、かねてからの和親協力をモットーとして緑化事業に精進しつつある組合員たちが相互親睦を深め一層の躍進を図る目的から企画された。中心は梓会。

老若男女相和して競技を行ない、優勝は関西造園共同企業体、二位は西日本造園共同企業体、三位は新大阪造園共同企業体の順となった。



●研修会-講演会-座談会等の開催

当組合では組合設立の主目的である、造園業界全体の向上発展と組合員相互の親睦、福利の増進を図るために、さまざまな会を催してきた。たとえば、若手従業員に技術のレベルアップを促す研修会や講習会、業界の権威者、著名人による講演会、そして座談会等々。

こうした数々の催しは確実に当組合の血となり、肉となり、ひいては造園業界の躍進への足掛かりとなっていました。

これもひとえに、参加者各位のあくなき向上心のたまものであると確信する次第である。

■雇用管理研修会

昭和52年10月11、12日の両日にわたり、阪神造園建設業協同組合（理事長・阪上秀雄氏）主催、阪神造園業協会（会長・坂上種博氏）協賛のもと、雇用管理研修会が開催された。

この会の目的は、雇用の改善、能力の開発と向上、福祉の増進を図ることであった。

研修内容は、建設労働者の雇用改善のため事業主の方に雇用管理責任者の選任等雇用促進事業団の援助のもとに労働者の雇入れ、および配置等の雇用管理に関して必要な知識を習得させるものであった。

■「竹と笹」講演会

昭和53年8月7日、竹類の権威者で京都大学名誉教授の上田引一郎先生を迎えて、組合・協会の共催による講演会を大阪市西区の厚生年金会館で開催。参加者は大阪府、市、公団の関係者、および神戸の組合からの参加もあり、訓練生も課外勉学のため出席、聴講した。

■建設雇用改善の諸問題説明会

昭和54年2月13日、造園会館3階会議室で組合・協会共催のもと建設雇用改善問題説明会が行われた。聴講者は44名。講師には大阪府労働部職業業務課斧原秀介課長補佐他2名を迎えた。講演内容は近来における国内の労働問題の情勢と雇用改善の必要性、および現況と将来への展望、施策の概要説明など、きわめて意義深い内容の説明会であった。

■「大阪府の公園事業について」の講演会

昭和54年5月7日、組合・協会各員を集め大阪府土木部公園課沢田宗久主幹を招き、造園会館3階会議室で講演会を開催。出席者は70名を数えた。

講演の内容を要約すると、大阪府では公園整備に全力を傾けており、既存公園の整備、泉南地方の公園の整備、風致公園等の計画などの話があり、造園業界もさらに一層の精進努力をしてほしいとの要望があった。

■ 「公共造園推進と業界に課せられた使命」講演会

昭和54年4月13日、日造協近畿総支部主催、関係団体共催のもとに下記の表題で講演会が開催された。聴講者は会員および役所関係者を交え82名が参加した。

[内容]

- 挨拶／(社)日本造園建設業協会・近畿総支部長 阪上秀雄氏
- 企業体质の強化／(社)日本造園建設業協会・会長内山忠男氏
- 公共造園の推進と計画／建設省都市緑地対策室・室長 間瀬延幸氏
- 現場代理人の責務と使命／(社)日本造園建設業協会・技術委員長 北村信正氏
- 厚生年金基金の設立について／(社)日本造園建設業協会・厚生年金準備委員長 御林道男氏

■ 緑化事業講演会の開催

昭和55年7月、緑化事業に関する情報交流をテーマに講演会が開かれた。所は造園会館3階会議室。各々の内容は以下のとおり。

- 第1回（7月7日）講師・大阪府土木部公園課 主幹 沢田宗久氏／要旨①都市公園事業費のうち用地費が大きな比重を占め造園坪費はごく限られる②泉南地方の公園事業の着手③新空港に関連した緑化事業
- 同（7月7日）講師・大阪市公園局建設部部長 佐藤泰氏／要旨①鶴見緑地、南港ポートタウン等の継続整備②全市的に緑地率を8%程度になるように努力している
- 第2回（7月14日）講師・日本住宅公団関西支社専門役 鈴鹿幸雄氏／要旨①都市環境整備事業に基く建設と緑地を推進②接地性という点から庭付き住宅を多くつくりたい③建設後の管理費については前向きに検討
- 同（7月14日）講師・近畿地方建設局専門官 石原憲一郎氏／要旨①都市公園の整備、管理のための組織体制として「公園緑地事業団」（仮

称）」の設立計画がある

■ 造園施工管理技術認定受験対策講習会

昭和51年8月19、20日、大阪市西区の厚生年金会館で(社)日本造園建設業協会主催のもと、上記講習会が開催された。受講者は190名。内訳は、大阪・151名、京都・36名、和歌山・3名であった。

■ 造園施工管理技術検定受験対策講習会

昭和52年8月30、31日、大阪市西区の厚生年金会館で(社)日本造園建設業協会主催、大阪支部代行のもと上記講習会が開催された。受講者は157名。うち35名は京都合流した。

■ 緑化事業座談会

昭和52年10月5日、建設省の提唱による都市緑化月間にちなみ、大阪府政新聞社と提携し、造園会館会議室において同社社長および組合役員、協会役員出席による座談会が開かれた。論旨は下記の通り。

- ①造園材料と樹木生産の現状②官公庁による工事発注問題③造園業者の実態

これらの大要は府政新聞の都市緑化月間特集として2回（10/15、11/5号）にわたり掲載、発表された。

■ 現場代理人研修セミナー

昭和54年開催。日程は6月26日、27日が神戸、同月27、28日は大阪（職業訓練センター会議室）で行われた。なお、京都府、滋賀県は会場の都合で兵庫県で共催。応募受講者は、1・2級造園施工管理技士、建設業法第2条2項の有資格者86名であった。

講師は下記の通り。

- 公共事業の傾向と業界姿勢／近畿地建道路専門官 富田祐次氏
- 事業主から代理人への要望／大阪府土木部公園課都市公園係長 高田誠之氏

●現場代理人の業務／(社)日造協技術委員長

北村 信正氏

●植栽工事施工要領／(社)日造協技術委員長

岩田 宗正氏

■松喰虫被害の防除計画講習会

昭和57年2月13日、組合と協会共催による講習会を開催。「日本の松の緑を守る会」より中原二郎先生を招き、講義とフィルム上映による有意義な指導を受けた。

■造園技能検定学科試験の受験対策講習会

昭和57年1月11日、12日、昭和56年度後期の造園技能検定学科試験の対策講習会が開かれた。所は大阪市北区山西福祉記念会館。

■京都庭園研修会

昭和57年2月23日、組合・梓会の行事として京都庭園の研修会が催された。参加者は18名。見学庭園は竹林公園、青蓮院、城南宮。

■樹幹注入剤ネマノーン取扱技能講習会

昭和57年、樹幹注入剤ネマノーンは劇物であるため注入作業やアンプル回収を専門業者で施行し、安全対策を期すために本講習会を開催した。

講師には大阪府農林部の奥野専門技師、大阪府農林技術センター伊藤技師などを迎えた。講習会は3地区で行われ、およそ1,200名が受講した。日程と場所は下記の通りである。

●11月13日／大阪府社会福祉会館

●11月27日／富田林市農業協同組合

●12月6日／池田市細河園芸農業協同組合

■造園建設業パネル討論会

昭和58年2月12日、造園会館において公認会計士武光威夫氏、技術士新庄秀光氏、ほかの諸氏を招いて討論会が開かれた。

テーマは「中小造園建設企業の現状への提言=諸問題の克服と新しい展望をもとめて」。

討論会は組合員、協会員46名が参加して行われ、造園業界の今後の動向について熱心な討論がつづいた。

■雇用改善の講演会——労働災害と安全衛生

昭和55年3月26日、造園会館において関西労災研究所多田勝利氏、他2名の講師を迎えて、雇用改善に関する講演会が催された。

講演は、労働災害における企業責任が、民事責任、刑事責任、行政処分の分かれることを実例をあげて説明。建設業の常態である元請、下請の関係についても元請側に大きな責任があることを強調された。

■「都市公園の整備計画」講演会

昭和55年10月23日、上記講演会が開催された。この催しは近時益々重要性を増しつつある緑化諸事業にたづさわる業界人の啓蒙と自覚に資するために計画し、当局にも懇意していたもので、当日、60余名が聴講。僅か半日であったが、官庁側担当者の率直な考えを聞くことができ、大いに業者の志気を高揚し得て、またとない有意義な講演会となった。

講師および講演要旨は下記のとおり。

●田辺昇学氏（建設省都市局公園緑地課長）

本年（昭和56年）から始まる第3次都市公園計画では、1人当たりの都市公園面積を5.6m²に引き上げる予定。また、緑化推進委員会や企業などの協力で資金を集め、5カ年で50億円の都市緑化基金をつくり、地方の緑化公園緑地協会への助成、全国的な都市緑化運動の経費にあてるための新たな財団法人を設置したい。業界振興策の一環としては、造園工事業の格付けも考えている。

●服部明世氏（飛鳥国営公園出張所長）

役員の個人プレーをさけ、業界発展のため私欲を捨て、公のための発想転換が必要

●田中斉氏

よい工事をするための技術力向上が業界の利益につながるだろう

●沢田宗久氏（大阪府土木部公園課主幹）

発注者側、受注者側とが胸襟を開いて意見交換の場をもつことが重要であろう。

●佐藤泰氏（大阪市公園局建設部長）

現場代理人にはよき技術者を。また樹木調達については樹木生産者、施工業者、発注者の3者の情報連絡を密にすることが必要。

■経済・緑化講演会

昭和56年7月1日、造園会館において経済と緑化の講演会が行われた。

まず、大阪毎日新聞社論説委員稻田寿夫氏が国内外の経済問題について語り、つづいて大阪市講演局建設部部長佐藤泰氏がグリーン計画について語った。これは、道路や街かど、駅前広場などあらゆるオープンスペースを利用して緑を配置しようというもの。その他、花と緑のターミナル計画、花の名所公園、緑に包まれた遊歩道計画などについて語られた。

■緑化事業講演会

昭和56年5月14日、緑化事業に関する講演会が造園会館で行われた。

講師と要旨は以下の通りである。

●建設省近畿地方建設局公園担当専門官・石原憲一郎氏／①造園事業関係予算、造園工事業の「ランク別」②住宅都市整備公団の発足③公共植栽事業における植樹保険

●大阪府公園課主幹・沢田宗久氏／①都市緑化植物園3カ年計画（大泉・服部緑地）②道路、港湾、下水道関連の緑化予算

■みどりの街づくり講演会

昭和57年11月8日、建設省近畿地方建設局主催。（社）近畿建設協会、（社）道路緑化保全協会近畿支部、阪神造園建設業協同組合、阪神造園業協会の協賛により、山西福祉会館において講演会が催された。 講師およびテーマは以下の通りである。

●日本道路公団名古屋管理局管理事務所副所長・

渡辺裕之氏／高速道路の緑化と維持管理

●朝日放送国際部ディレクター・五十嵐道子氏／地球時代の日本人

■造園技術研修会

昭和58年11月10日、建設交流館において大阪府立大学農学部の岡本謙明による表記研修会が行われた。

演題は「植栽と土壤問題」についてであり、氏が長年取り組んできた実験調査結果に基くものである。たとえば、大阪府道緑化推進のための調査研究については要約すると次の通りである。①土壤改良の対象となる深さは1mは必要②土壤硬度は生育阻害の最大要因であるため土壤の膨軟化は不可欠③還元性土壤が下層に搬入されている地点では早急に良質土壤を入れ替える必要がある④土壤養分は有効磷酸と置換性カルシウム以外は生育の良否に関連性がない⑤歩道部の植耕化および歩道下土壤の改良による根群土壤量の増加が必要、などの提案があった。その他、土壤に適応した土壤改良剤の利用の仕方等々の有意義な研究発表が行われた。

■「造園業と人間商法」

昭和59年2月7日、当組合の自主研修事業のひとつとして、作家の藤本義一氏を招いて講演会を催した。（詳細は別添カコミ記事・組合時報より）。

「造園業と人間商法」

作家の藤本義一氏講演会

去る2月7日（火）建設交流館において、当組合の自主研修事業として、作家藤本義一氏を招いて講演会が開催された。=（写真）=

演題は『造園業と人間商法』で、事業経営のコツともいべきことを身近な例をあげ、しかも弁舌さわやかに説かれたので、参会者に多大の感銘を与えた。

講演の論旨を要約すると

一、事業場の協力体制について十分配慮すること。即ち今の時代は、特に社員の協力の強弱が会社の浮沈を左右するので、経営者たる者は、社員を真底から信頼し大事にするという心構えが大切である。

二、金を貸さず、印をおさず、役につかずを守ること。即ち、金を貸し、金銭賃借の保証人になったために借金に追われる人があったり、また役職についたばかりに自分の会社の仕事ができず業績上がらずといった例はままあることである。

三、開運は自らの力である。即ち運を開くのはあくまでも自分である。自らの努力によって

運は開けるものなのだ。これはどの社会でも同じだと思う。

四、造園業者としての使命を達成すること。即ち造園業は地面に美をつくり出していく仕事なので感覚の鍛磨が大切である。よい仕事つまり如何に美を創造していくか、そこに繁栄衰退の分れ途がある。

五、大阪独自の商法がある。即ち大阪の商法は人間商法と呼ぶべきか、人との関係を非常に重視して拳動でまず人をひきつける。笑顔も拳動の一つである。あらゆる拳動を駆使して相手方をとられることに腐心する。

六、人との接触法を心得ること、即ち人と接触する場合事実だけを述べるだけでは駄目で、一口で言えば虚構、つまり「損になりますわ」「もうかりまっか」と言いながら、勘定があるのでいるこの行き方が大阪では通用する良法なのであり、これが大阪商法の真髄であることを述べられたが、まことに興味ある見方をするものだと感心した次第であった。（山崎生）



企画渉外活動

●活路開拓調査指導事業と推進

昭和60年度、当組合は所属している大阪府中小企業団体中央会より「活路開拓調査指導事業」の指定を受け、事業計画、実施体制等の諸手続を経て現在推進をはかっている。

この事業は、中小企業者が、経済的、社会的環境の変化に対応するため、組合を中心に一定のテーマに関する調査研究・ビジョンの作成及び組合員に対する指導等を行い、組合並びに組合員の事業の新たな発展と組合組織の強化をはかることを目的とし、広く各種の問題を抱える中小企業の組合を対象として行われるものである。

組合は、この指定を受けるに先立って最も重要な「実施テーマの選定」に取り組み、昭和59年12月1日、組合全員集会（於造園会館3F）を開催し各委員会別に討議、テーマ選定の方向を探究した。

調査研究テーマは、「新技術及び新市場の開拓と事業活動の合理化」－造園建設業繁栄の展望－と題し事業計画を策定、昭和60年度4月より調査研究活動を進めているがその概要は次のとおりである。

○調査事業
①組合員等の経営実態調査の実施
②市場調査・需要動向調査の実施
③視察調査の実施
④技術聞き取り調査の実施

○研究事業
①新市場研究
②新技術研究
③合理化研究

○ビジョン作成 調査研究資料に基づきビジョン作成

○講習会の開催 1回
(テーマを選定した理由)

活発な事業活動を展開するために如何にして技

術の向上改善を図るかを追求し、併せて造園緑化事業のシェア拡大の方途を探り、さらに事業活動の合理化、システムを推進し、もって業界の活路開拓をはかる。

●当該委員会の委員

この事業を実施するため、当組合はそれぞれ行政側、専門家の方がたに委員を委嘱申し上げ委員会を組織するとともに小委員会を設け目下着々と事業活動を行なっている。

阪神造園建設業協同組合

活路開拓調査指導事業委員会委員

- 1、下志万嘉彦 大阪府土木部公園課 参事
- 2、小竹 壮一 大阪市公園局建設部 緑化課長
- 3、鈴鹿 幸雄 住宅・都市整備公団関西支社工務検査部造園担当専門役
- 4、久保 貞 大阪府立大学農学部 教授
- 5、中瀬 黙 大阪府立大学農学部 講師
- 6、村田 敏絵 大阪府中小企業団体中央会指導部 主査
- 7、伊藤 幸雄 社団法人大阪能率協会診断部 参事
- 8、大城 英樹 財団法人建設物価調査会大阪事務所 調査一課長
- 9、藤田 好茂 株式会社テデプソ設計研究所 代表取締役
- 10、田中安太郎 阪神造園建設業協同組合 参与
- 11、竹中 栄治 阪神造園建設業協同組合 理事長
- 12、坂上 稔博 阪神造園建設業協同組合 副理事長
- 13、今里 忠夫 阪神造園建設業協同組合 副理事長
- 14、稻治 清 阪神造園建設業協同組合 理事

- ⑯、辻 正俊 阪神造園建設業協同組合 理事
 16、岡田 和夫 阪神造園建設業協同組合 専務
 理事
 17、山崎 太郎 阪神造園建設業協同組合 常務
 理事

(○は小委員会委員を併図)

●主な事業活動

昭60・4・4 大阪府中小企業団体中央会とのヒヤリング

4・18 同 上

5・14 第1回委員会（於造園会館）

6・5 第1回小委員会（於大阪府立大学
 緑地計画工学研究室）

調査業務のフレームとアンケート票の作成について

(1)組合員の経営実態

(2)市場調査・需要動向

(3)合理化 その他

6・19 第2回小委員会（同上）

(1)経営実態調査アンケート票の確認

(2)市場調査、需要動向調査アンケート票

の作成、その他

7・3 第3回小委員会（同上）

(1)経営事項審査申請書の活用

(2)市場調査、需要動向調査

(3)技術聞き取り調査 その他

7・24 第4回小委員会（同上）

(1)経営事項審査申請書の活用

(2)市場調査・需要動向調査

(3)技術聞き取り調査 その他

第2回
 検討

8・28 第5回小委員会（同上）

(1)新技術研究・新市場研究のアンケート
 調査書の作成

(2)活動開拓調査アンケートの解析の方法

(3)経営事項審査申請書の活用

9・25 第2回委員会

以上、各関係委員には、それぞれご多用のところを各般にわたり熱心にご討議ご指導を賜るとともに資料の収集提供などこの事業の推進に並々ならぬご尽力をいただいているところである。今後の実施スケジュールとして調査・研究事業、ビジョン作成、講習会などが計画されており、本年度末には立派な指針を示唆していただくよう念願してやまない次第である。



事業活動

●官公需適格組合

建設業許可 昭和59年12月4日 造園工事業・
大阪府知事許可（特-59）第50516
号 最初は昭和53年12月4日
官公需適格 大阪通商産業局長
組合証明 第1次 昭和54年4月3日
(54大商1246号)
第2次 昭和55年4月11日
(55大商8005号)
第3次 昭和57年5月10日
(57大商1685号)
第4次 昭和59年5月1日
(59大商2433号)

当組合は、大阪府中小企業団体中央会を通じ、大阪通商産業局長あてに、官公需適格組合証明を申請し、昭和54年4月3日付で、その証明書が交付されました。

この官公需適格組合制度は、昭和41年に制定された官公需についての中小企業の受注の確保に関する法律（官公需法）に基づき、建設業については、昭和48年から共同受注体制が整備された事業協同組合に適用することになった。この官公需適格組合制度は、従来、建設業に係る事業協同組合の競争入札参加資格の審査が、一般の建設業者と同様、事業組合の経営内容に限定していたものを、組合及び組合の理事が経営している10社以内の経営内容に拡大し、等級別格付上、適格組合に有利になるよう取扱っていることである。

この官公需適格組合制度では、官公庁が事業協同組合等に物品、工事等を発注する場合において、法令の規定に基づく、随意契約制度を活用するなどして、官公需適格組合等に対する、受注機会の増大を図るものとしている。

当組合は、これをふまえ、下記の官公庁に入札参加資格審査申請書を提出している。

◎指名願 提出先

大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、堺市、建設省近畿地方建設局、運輸省第三港湾建設局、文部省大阪工事事務所、大阪大学、住宅・都市整備公団関西支社、本州、四国連絡橋公団、水源開発公団関西支社、通商産業省大阪通商産業局、等

◎受注対象種目

造園工事 1式 造園資材 1式

●官公需適格組合として受注した主な工事

服部緑地陸上競技場樹木移植工事

-適格組合受注第1号工事-

この工事は昭和56年12月、大阪府服部緑地内の陸上競技場メインスタンドの立替え工事に支障をきたすヒマラヤ杉等の大木を移植したものである。幹周り1.8m、高さ18mが1本、幹周り1.0~1.4m、高さ15~16mのもの6本計7本、掘取、根巻、幹巻等周到な準備と細心入念な施工を行なった。この大木の移植工事の機会に関係機関、当組合ほか団体会員の現地研修を行なった。

ポートピア、81国際広場の植栽工事

昭和56年1月、「ポートピア、81展覧会」会場の植栽工事について神戸市公園部より当組合が受注することになり、直ちに関東九州方面へ調査、同年3月厳選の上細心の注意を払って次の大木類の植栽を完了。記念すべき国際広場の造成に資し得た。

クス H11m、C 150c、W 5m 1本

サクラ H11m、C 80c、W 3~5m 76本

国道43号尼崎地区緑川植栽工事

昭和56年12月、近畿地方建設局兵庫国道工事事務所より受注、国道800mの両側にクス、マテバ

シイ、イチョウ等の高木93本、サザンカ、カイヅカ、サンゴジュ等の中低木7千余本その他の植栽を行なった。

服部緑地樹木移植工事

第1回全国都市緑化フェアが大阪府服部緑地で開催されるため、その会場づくりのため樹木の撤去移植工事が大規模に行なわれた。

当組合はその一部を受注、時期的に難とされたが逐次慎重に施工した。万博当时と違い高度な機械力により作業は容易になったものの生命力の原点である活着に特に万全の注意を結集し緑化フェアを踏まえ最高の技術を駆使したところである。



工事名	工期	発注先
宝塚寮庭園樹木移植その他工事	昭和55年2~3月	大阪市(健康保険組合)
服部緑地陸上競技場樹木移植工事	昭和55年12月~56年2月	大阪府(北部公園事務所)
ポートピア81国際広場他大木植栽工事	昭和56年2~3月	神戸ポートアイランド博覧会協会
宝塚寮造園工事その1	昭和55年7~8月	大阪市(健康保険組合)
宝塚寮造園工事その2	昭和56年3月	大阪市(健康保険組合)
宝塚寮造園及び剪定工事	昭和56年10~11月	同上
大泉緑地植栽修景工事	昭和56年10~11月	大阪府(南部公園事務所)
43号尼崎地区緑川植栽工事	昭和56年6月~57年3月	近畿地方建設局兵庫国道工事事務所
服部緑地樹木移植工事	昭和57年6~7月	大阪府(北部公園事務所)
宝塚寮樹木管理工事	昭和57年6~7月	大阪市(健康保険組合)
樹木剪定枝処理工事	昭和57年6月~58年3月	大阪市(公園局)
ターミナル花卉植付管理工事	昭和57年6月~58年3月	大阪市(公園協会)
服部緑地樹木移植工事(その1)	昭和58年4~7月	大阪府(北部公園事務所)
同上(その2)	昭和58年6~8月	同上
服部緑地修景植栽工事	昭和58年9~10月	同上
第1回全国都市緑化フェア花壇及び郷土の森等整備工事	昭和58年8~11月	第1回全国都市緑化フェア実行委員会
25号中之島緑道植栽工事	昭和58年9~11月	近畿地方建設局大阪国道工事事務所
服部緑地災害復旧工事	昭和58年10月	大阪府(北部公園事務所)
服部緑地都市緑化植物園管理工事	昭和59年4月~60年3月	大阪府(北部公園事務所)
服部緑地都市緑化植物園インドアグリーンスペース管理工事	全上	同上
服部緑地都市緑化植物園々内清掃	昭和59年12月~60年3月	同上
宝塚寮樹木剪定工事	昭和59年12月	大阪市(健康保険組合)
服部緑地花と緑の相談所緑化相談等業務委託	昭和59年4月~60年3月	大阪府(北部公園事務所)

●松くい虫防除 樹幹注入剤ネマノーンの販売

近年「松くい虫」の被害は西日本全域に拡大し公園、観光地、庭園などの惨状は目を覆うものがある。

その対策としての薬剤空中散布も環境汚染等の心配があり思うにまかせない現状にあるが、先般開発された新農薬ネマノーンの取扱いについて当組合は大阪府知事より毒物劇物農薬用品目販売業の登録を受けその普及につとめたところである。

昭和57年10月、大阪府造園緑化組合連合会の協力を得てネマノーンの駆除技能士講習会を開催、約1千名にネマノーン取扱技能士証を交付した。また大阪府の協力により実地施行の研修会を58年3月、服部緑地、浜寺、住吉公園の3会場で市町村も参加して実習研修を行った。

なお、ネマノーンの使用は、上記技能士の所持者でなければ施工できることになっております。

ネマノーン取扱実績

年 度 别	取 扱 本 数
昭 5 7 年 度	10,080 本
昭 5 8 年 度	1,220 本
昭 5 9 年 度	340 本

●樹木の共同購入

昭和53年当時、一部樹種において、品不足となり、官公庁発注の工事を施工するに当たり支障をきたすおそれが生じたため、組合では品簿樹木の確保にのりだすことを決定した。まず組合員のために確保の必要ある樹種について、樹木実態調査等を行い、組合員に先買樹木の申込を受つけ、必要樹木確保のため、全国各地の生産者と委託栽培契約を行うと共に、とりあえず必要な樹木を確保して組合員に提供した。昭54年、55年と3カ年に下欄の樹木を取り扱い、組合員各位の事業推進に資したものである。

●工事写真・フィルムの共同購入

-58年よりスタート-

官公庁の造園工事などの請負に関し必要かつ厖大な数量にのぼる工事写真について各組合員のフィルム・現像・プリント等の実態を調査したところ各社間にかなり単価の差があった。そこで組合として低廉に利用してもらうため共同購入を事業委員会で取り上げることにし、系列の現像所やメーカー数社を検討協議した結果、最終的に現行のイナダカメラ店と単価契約の運びとなった。組合員の会社まで伺い配達しますので有利で安く各位に喜ばれています。

樹木及支柱共同購入一覧表

品 名	規 格 寸 法	53年 度 数 量	54年 度 数 量	55年 度 数 量
クス	H3.5m C0.3m	150 本	500 本	
"	H4m C0.35	150 本	200 本	
"	H4m~4.5m C0.4~0.5	150 本	400 本	
シャリンバイ	H0.4 W0.3	10,000 本	0 本	10,000本
"	H0.4 W0.4	30,000 本	0 本	10,000本
"	H0.5 W0.5	10,000 本	0 本	
ヒラドツツジ	H0.5 W0.4	30,000 本	100,000 本	10,000本
"	H0.6 W0.5	10,000 本	100,000 本	10,000本
CCA 支柱			84,000 本	43,000本

●造園工事等総合賠償保険

—昭和58年12月よりスタート—

企業をとりまく危険は益々多様化しており危険に対する適切な保険措置が必要となっております。

当組合としても少しでも組合員の経営安定のお役に立つべく各社をとりまく危険と既に契約されている保険の内容とを勘案の上、組合事業として取り上げた次第です。

現在、組合員28社が加入されているが、毎年数社において不測の賠償事故が発生しております。この際、未加入の各位もせいぜいご利用の程付記いたします。

なお、各社独自で加入なさるより1／3の掛金でお得です。

契約保険会社 千代田火災海上保険株

住友海上火災保険株

現在保険加入額 70億円

◇お役に立つ場合（保険の内容）を参考に掲げます。

- ・材料、工具などを樹木の上から落とし、通行人が大ケガ
- ・燈籠を積卸し中ワイヤーが切れ付近に駐車中の車を破損
- ・伐採作業中、切れ木が通行人に当たり大ケガをさせた
- など、請負った工事・作業をしている間に生じた事故
- ・資材置場の材料がくずれ落ち子供が下敷になり骨折

など、工事・作業を行なう為に貴社が所有、使用または管理する施設の欠陥管理上の不備が原因の事故

- ・発注主のすでにそなえつけてあった燈籠、石垣、家屋などをこわしてしまった
- ・タバコの不始末で物置などを焼いてしまった
- など、管理下財物（第三者のもの）に対する損害
- ・樹木の植えつけに不備があったため、強風で倒れ家屋を損壊

・燈籠や石垣の設置が十分でなかったため、子供がもたれかかったとき、崩れ、子供にケガをさせた

など、工事終了後その仕事の結果が悪く、そのミスにより発生した事故

上記により、第三者を死傷させたり、第三者（他人）の財物に損害を与えた結果、法律上の賠償責任を負う事になり、こうむる損害が支払われる。

●剪定枝の処理事業

①大阪市域剪定枝処理業務

大阪市の過密が進む中で、防災安全の確保公害の防止、アメニティの向上やスポーツレクリエーション、文化活動などの価値多様化に対応し積極的な緑化空間施策がとられている。街路樹は、昭和42年以降15年間で約3倍増となり、かつ個性的な街路景観を創造するため従来街路樹の主であったポプラより他の樹木類が採択されてきた。

今後とも緑化施策が推進されていく中で、我々造園業界をとりまく環境も公共公園管理工事より生じる剪定枝等の処分について問題となり困窮の度を加えつつある状況である。

一部の自治体ではその焼却施設で引取る所もあるが、大半は自由処分とされ適宜畠や空地などで焼却したりして公害問題とされる現状である。





昭和54年、当組合が官公需適格組合証明取得を契機に街路・公園樹の剪定枝の再利用と処理に関し真剣に取り組んだが、当時は処理する方法に焼却とチップ化が考えられた。しかし前者は用地約600m²を要し、焼却炉を設置するもので、その経費は機械施設のみで3千万～5千万円を要しさらに残灰の処分など種々の問題が提起された。またチップ化についても用地問題があり昭和55年度に剪定枝集積場確保について候補地の詮索を行なったが実現するに至らなかった。

さらに昭和56年度に入り通商産業省として石油依存率を遅減させるための省エネルギー対策を打ち出し、昭和57年度木材による代替えエネルギーの利用シェアの拡大をはかられたこと等に鑑み昭和57年度より剪定枝を単に焼却処分するよりも国策に則った再利用を考え事業化をはかったところである。その取扱量は、57年度23,000m³、58年度25,000m³、59年度29,217m³の実績である。

②一般剪定枝処理業務

前記の処理業務の実績を踏まえ、各現場での悩みを解決するため、昭和59年度より当組合において剪定枝・枯木・撤去木・根・その他廃木材の運搬処理を扱っている。これはコンテナ（荷積台）方式で、4トン車の荷台を取りはずして現場に置くもので電話1本で現場へ直行し荷台が満載になればまた電話で引き取りにいく。このように簡便かつ能率よく運搬と処理一切を行なっている。

なお昭和59年度の処理台数は329台だったが今

後益々利用されるものと事業委員会は期待している。

●第37回全国植樹祭 「式典会場整備工事」

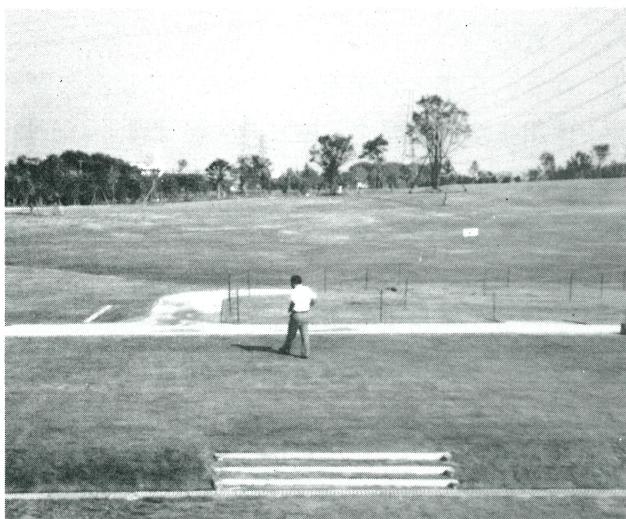
組合事業として施工

大阪府では、(社)国土緑化推進委員会並びに堺市と主催し、昭和61年5月、堺市大仙公園において、天皇・皇后両陛下をお迎えして第37回全国植樹祭を行ないます。「都市の未来を緑に託して」との大会テーマにより、全国で始めて市街地の都市公園で開催することになりました。

この式典会場の整備工事を幸いにも当組合が担当することになり、昭60年2月6日から同年9月30日までの工期をもって組合の京阪神造園共同企業体が整備をはかっております。内容は、土工、舗装工、縁石工、排水工、配管工、階段工、張芝工、移植工、撤去工です。

新しい造成ゾーンであるだけに最も重視される芝生の醸成が問題で、現場代理人はじめ関係者は技術的な対応に苦心しているところであります。

さらに式典会場整備工事にあわせ同管理工事も当組合が受託し会場トータルのメンテを細心の注意をもって進めているところであります。期間は昭60年4月1日から61年3月31日までで、晴れの式典に立派に映えるようグリーンの対策に専念しております。



●万国博日本庭園緑地管理基準の設定調査委託

昭和45年の日本万国博覧会に政府出展として造成された日本庭園は、その開催時に一応の庭園景観を満たすため、濃密度植栽や、早期緑化のための手法がとられた。

その後15年の時を経て、これらの樹木が成長し場所によっては、当初にイメージしたものとは違った景観になってきつつあります。

標記の調査は、こうした景観上の問題点を、当初の設計意図・景観等と現況とを多面的多角的に比較検討しつつ抽出し、今後どのような緑地管理を行なっていくのが適切か、その管理基準及び指針を設定するものです。

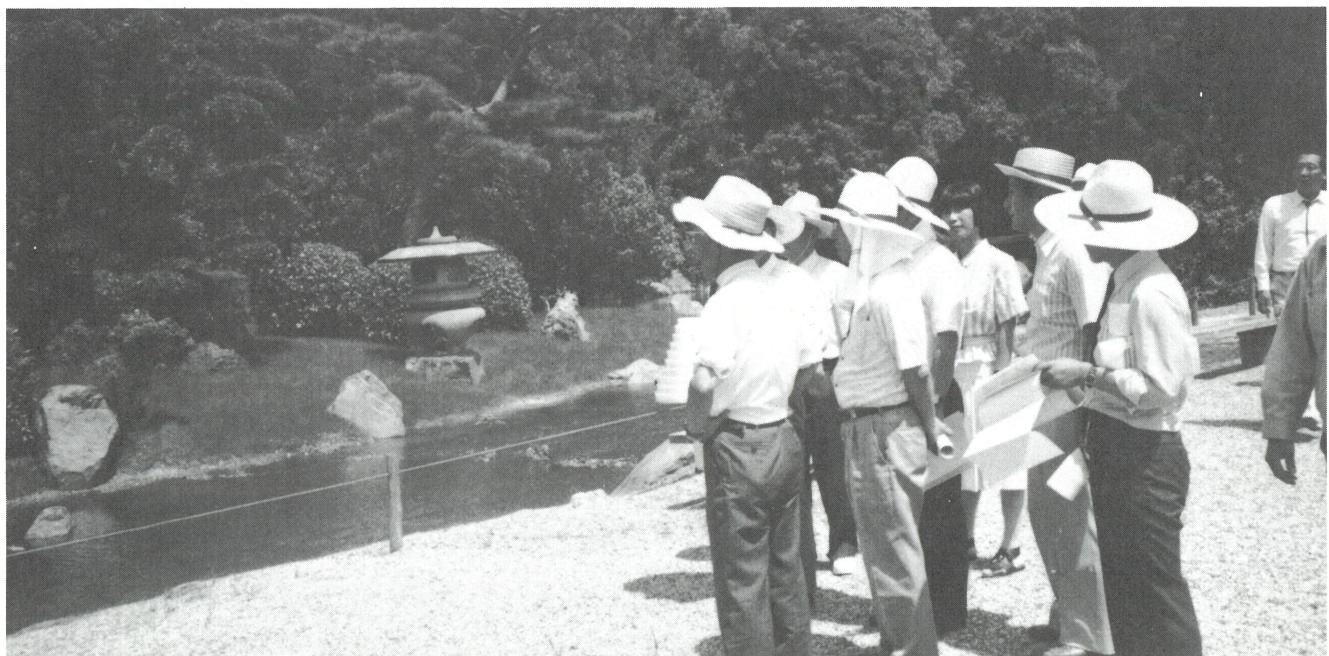
昭和60年6月、当組合はこの調査を受託し、直ちに検討委員会を設置して目下鋭意作業を行なっているところである。

調査の内容を列挙すると、①当初設計の検討
②現況調査 ③当初景観と現況景観との比較検討
④将来目標の設定 ⑤管理方針の策定となっており、①から④までの結果を踏まえ、現況の景観にどのような処置を施したらよいか、また今後の緑地管理をどのように行なうべきか等の「方針」を策定する。



日本庭園ケーススタディ

①実験剪定前 ②実験後



従って「方針」の内容は、間伐の方針、剪定整枝の方針、地被類の管理方針・石組や流れ等の修復、土じょう改良等の必要の有無など多岐にわたるもので今後、将来にわたって極めて重大な示唆を含むものである。

■検討委員会の設置

本調査を進めるため、当組合は早速、日本庭園造成当時の関係者並びに専門家からなる検討委員を委嘱し、本年度3回以上検討会を開催するものである。委嘱申し上げた委員各位は次のとおりです。

氏名	現職	建設時の職
佐藤 昌	(社)日本公園緑地協会会長 (社)日本造園コンサルタント協会会長	日本庭園設計委員会委員
平野 侃三	公害防止事業団常任顧問	大阪府特別公園事務所工務課長
勝浦 康之	(社)日本造園建設業協会常任顧問 (前建設省都市局公園緑地課長)	大阪府特別公園事務所造園一係長
清水 正之	大阪府土木部参事兼公園課長 (建設受託者)	
澤田 宗久	大阪府南部公園事務所長	大阪府特別公園事務所造園二係長
小林 利二	大阪芸術大学講師	日本庭園設計策定委員会委員
中根 金作	大阪芸術大学教授 中根庭園研究所	実施設計者
荒木 芳邦	(社)日本造園コンサルタント協会副会長 荒木造園設計事務所	"
木村 源次郎	阪神造園建設業協同組合相談役 大阪造園土木(株)	建設相談役
田中 安太郎	阪神造園建設業協同組合参与	大阪府特別公園建設事務所主査

■第1回検討委員会の開催

昭和60年7月19日（金）、第1回委員会を万国博記念協会会議室において開催。佐藤昌先生を座長にお願いして“記念映画日本庭園”を上映、現地踏査のあと検討会にはいったが、具さに現況を観察され看過できない諸問題が指摘された。

■ケーススタディ（実験剪定）の実施

9月25日～27日（写真参照）



第2回検討委員会現地調査
(中央は佐藤昌委員長)

■第2回検討委員会の開催

11月6日（水）於記念協会応接室

技術活動

組合は、定款第49条に、組合事業の執行に関し理事会の諮問機関として委員会を置いているが、組合発足以来20年を経過する中でその時期なり時代を背景に変遷をたどって来ている。

組合設立当時は、渉外・文化厚生・金融の3委員会を設けたが、その後に及び渉外・資材・財務・企画・工務・積算・推進などに拡大され、種々変遷ののち昭和54年に6委員会に再編成され現行今日に至っている。

就中、技術委員会は既往の所管委員会を承継し歴年「樹木等積算資料」を阪神造園業協会と共同で発行し、官公需に対する資材歩掛り、積算の参考に資するとともに国・公団公社・地方公共団体等の要請に基づく樹木調査事業を精力的に行なって来ている。

昭和46年より受託した樹木調査事業は、技術委員はじめ各組合員の努力と協力により漸次組合の実績をたかめて来ており、関係諸官公庁等に対する認識と信頼を得ていることはまことに喜ばしいことである。

特に近年、住宅・都市整備公団関西支社における公団施行事業をはじめ大阪府企業局の泉北ニュータウン公園台帳整備事業などの大規模樹木調査事業に取り組むとともに道路・河川等の公共事業が積極的に推進されていく中で公共用地取得にともなう支障物件—樹木調査委託等が累増している現状である。

組合は、技術委員会を中心に綿密な調査計画と周到な準備を踏まえ現地踏査・測量・調査・記録等の実施、さらに調書・図書等の工程を経て評価或いは鑑定結果を報告答申しているところであるが、今後とも一層調査技術と鑑識の向上につとめ、益々多様化する官公需の諮問に応えてまいりたい。

最近の技術活動は次のとおり。

S 59・12・12 (財)建設物価調査会との懇談

S 60・1・19 (財)経済調査会大阪事務所との懇談

S 60・2・20 (財)大阪府都市整備技術センターより受託の泉ヶ丘地区植栽調査につき検討

S 60・3・27 上記調査資料につき検討

つぎに主な樹木調査鑑定業務を列記する

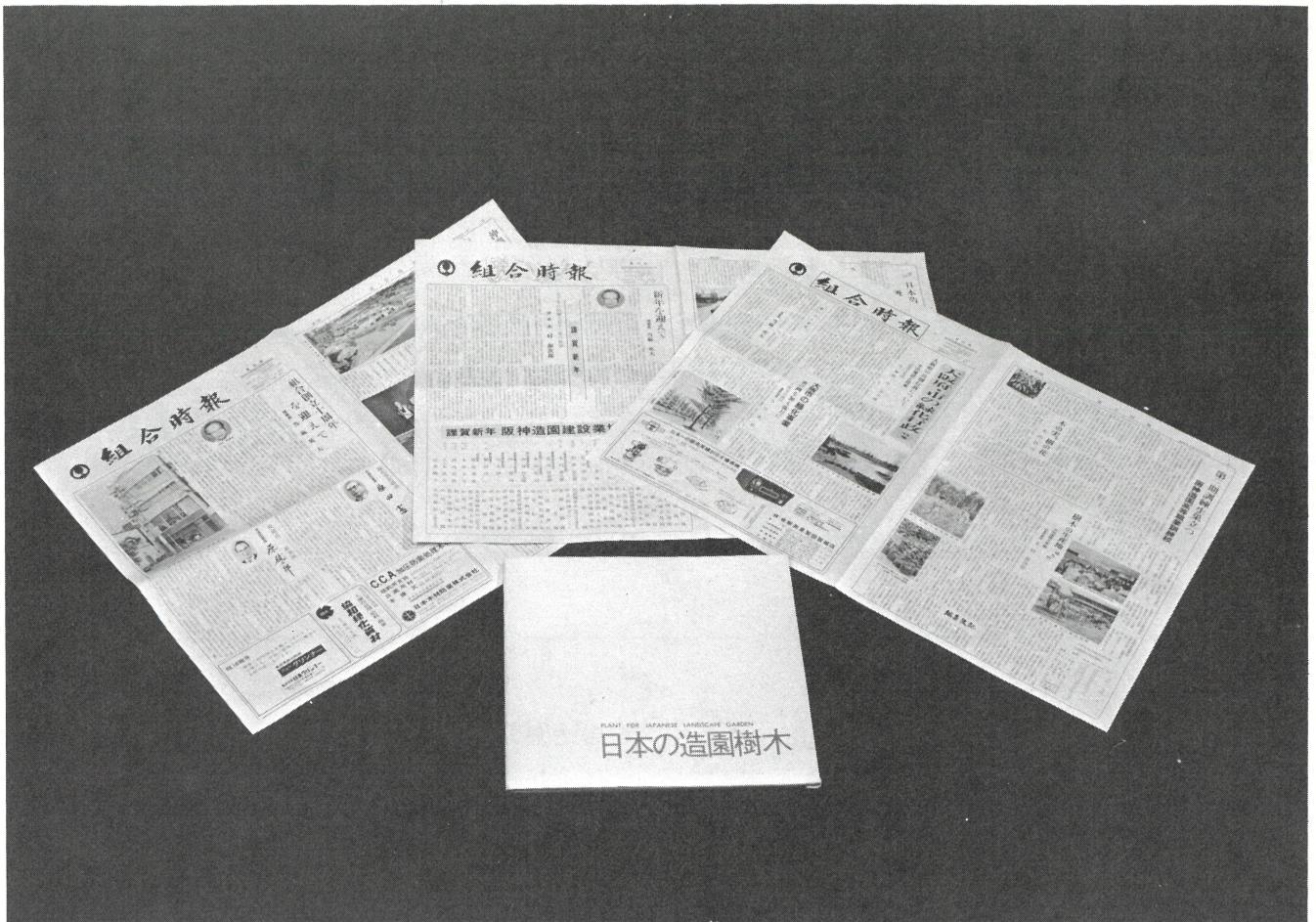
樹木調査鑑定業務（昭和51年度以降）

S 51・12 日本住宅公団関西支社真美ヶ丘宅地開発事務所——奈良県香芝町 真美ヶ丘地区



- S 52・6 日本住宅公団関西支社真美ヶ丘宅地開発事務所——奈良県香芝町 真美ヶ丘地区 4件 995本、498株ほか
- S 52・6 大阪府総務部用度課 公舎石燈籠等
- S 53・3 日本住宅公団関西支社真美ヶ丘宅地開発事務所——奈良県香芝町 真美ヶ丘地区 1件13本ほか
- S 53・3 大阪府土地開発公社——恩智川河川事業樹木調査 大東市御供田 2件庭園一式
- S 53・10 大阪府土木部用地対策室——大阪和泉州南線歩道設置事業 泉南市新家
- S 54・3 大阪府土木部用地対策室——恩智川改修事業 東大阪市水走地区 庭園一式 113本ほか
- S 54・3 日本国有鉄道大阪工事局——宝塚市中筋地区 11筆 16,774本ほか
- S 54・9 大阪府土木部用地対策室——国道309号道路改良事業 富田林市甲田 29本
- S 55・7 日本国有鉄道天王寺管理局——阪和線上野芝駅改良に伴う物件調査 3件ほか
- S 55・2 大阪府警察本部——三重県志摩郡阿児町 4件 247本ほか
- S 55・9 大阪府土木部用地室——常盤浜寺線道路事業 堺市長曾根町 4件 236本ほか
- S 55・10 大阪府住宅供給公社——岸和田天神山計画道路 岸和田市真上町 106本ほか
- S 55・11 大阪府土木部用地室——山ノ井川支流ダム建設事業 柏原市平野地区 2件91本ほか
- S 55・11 大阪府土地開発公社——常盤浜寺線道路事業 堺市上野芝向ヶ丘地区 99本景石一式
- S 55・9 神戸市土木局用地課——神戸市垂水区神出町 59本景石ほか
- S 56・3 日本住宅公団関西支社真美ヶ丘宅地開発事務所——奈良県香芝町真美ヶ丘地区第9工区 5件 299本ほか
- S 56・7 羽曳野市土地開発公社——羽曳野市羽曳野4丁目 4カ所 76本ほか
- S 56・8 日本住宅公団関西支社仰木宅地開発事務所 大津市仰木地区 729本ほか
- S 56・12 住宅・都市整備公団関西支社金剛東宅地開発事務所 富田林市金剛東地区
- S 58・2 大阪府土地開発公社——東除川改修工事樹木調査 8件 7630本ほか
- S 58・2 河南町——中村神山線歩道設置事業
- S 59・1 住宅・都市整備公団関西支社田原宅地開発事務所——四条畷市上田原、下田原
- S 59・2 大阪府住宅供給公社——枚方市津田地区 10本ほか
- S 59・2 大阪府土地開発公社——東除川改修工事樹木調査 南河内郡狭山町東野、池尻 4件 1987本ほか
- S 58・11 (財)大阪府都市整備技術センター——堺市泉ヶ丘地区樹木調査 40ha 荒山、宮山、竹城等4公園、児童公園4、緑地1、緑道4
- S 59・ 関西団地開発(株)——住宅・都市整備公团三日市工事事務所管内樹木調査
- S 59・6 大阪府土地開発公社——近畿自動車道和歌山線貝塚(木積)工区樹木調査 163本ほか
- S 59・10 (財)大阪府都市整備技術センター——堺市泉ヶ丘地区植栽調査 50ha、三原他、4公園、児童7公園、緑道5
- S 59・11 大阪府土地開発公社——近畿自動車道和歌山線堺単独(桧尾地区)にかかる庭園の補償算定
- S 59・12 関西団地開発(株)——金剛東地区樹木調査 富田林市金剛地区
- S 59・12 大阪府土木部用地室——樫井川河川改修事業に伴う樹木調査 泉佐野市上之郷 145本 庭石35トン
- S 60・2 関西団地開発(株)——三日市地区特定区画整理事業地内 河内長野市三日市 670本
- S 59・9 大阪府中部公園事務所——住之江公園内樹木調査 大阪市住之江地区 236本
- S 60・6 (財)大阪府都市整備技術センター——堺市泉ヶ丘地区植栽調査 52ha、田園・晴美公園、緑地2、緑道1 児童公園1

広報活動



● 「組合10年のあゆみ」と 「組合時報」を発行

かねてから、組合の広報機関として機能すべき組合報の必要が話題となっていたが、たまたま昭和50年秋の組合創立10周年を記念する事業の一環として、組合機関紙の発行と、組合創立から10年の経過をまとめた「組合10年のあゆみ」を刊行する事が決定された。

その当時は、組合内部の委員会構成には、広報を担当する委員会が存在しなかったので、企画渉外委員会が担当することになった。

『組合10年のあゆみ』

組合事務局や組合員各社から提出された原稿を、組合登記その他関係、組合員関係、事業活動関係、海外研修交流関係等に分類して一冊の本にまとめた。編集メンバーは本づくりについては素人ばかりの集まりで、プロから見れば、まことにお粗末なものであろうと思われるが、その反面、組合員同志の素人の手造りの持味の凝集したものとの評価も考えられるものとなった

幸い、創立から10年間には、昭和45年の日本万国博覧会（エキスポ'70）の会場の造園修景工事および同博覧会の、日本政府出展の「日本庭園」の

築造といった組合員全員参加の大事業があり、また、組合の主要事業の一つとして、阪神造園高等職業訓練校の創設運営があって、それ等の記事に多くの頁数をあてることが出来、130頁の本としての体制を作ることが出来た。

発行部数300部は、官公庁、学界、業界関係団体、組合員、等に配布した。

『組合時報』

組合時報は、組合創立10周年を記念して、昭和50年9月の発刊以来、年4回（1月・4月・7月・10月の季刊）発行。毎号4～6頁のものを1,200部印刷し、それぞれ関係官公庁、関係団体、組合員、協会員（阪神造園業協会）、阪神造園高等職

業訓練校関係等へ配布し、今年10月号をもって41号を数えるに至っている。

●名称 まず組合広報紙としての機能を發揮するに相当はしい名称をつける為に、組合員各社に対し名称の募集をし、各社からそれぞれ奇抜なもの、情緒的な名称、日常形式なもの等多数の名称を寄せられた中から、組合役員会での選考の結果、「組合時報」と云う名称に決定された。

第1号発刊に際して、組合員各社から、発刊に対して祝意や、機関紙による所感、希望等「一社一言」を寄せて貰って紙面を飾った。

●一社一言

(株) 旭植物園 代表取締役 中西 登

和と誠意をモットーとして、緑化事業に取組んでおります。

責任を負ってこそ自由があり、責任のない自由は許されないと思います。

荒木造園 (株) 代表取締役 荒木芳邦

造園技術者の技術向上に資せられた評価は造園界に価値あるものです。

今後の発展される事を望む次第です。

稻治造園工務所 代表者 稲治 清

創立十周年を記念し、組合報が発行されることになり、その一員として慶賀に存じ上げます。

厳しい経済情勢の中で、造園業界の市場は拡大基調にあるとされていますが、市場構造の変動や、環境の変化も激しいため、造園業界も一致団結して業界の社会的地位の向上を計り、現在の難局を乗り切ることが究極の課題であり、将来に対する基礎作りでなければならない。

(株) 岩辻園芸農場 専務取締役 岩辻 勝

私達社員は常に「細心の注意こそ最高の技術」を合言葉に申し合わせて参りました。

特に植物を取り扱う私達にとりまして、深い愛情にささえられた「細心の注意こそ最高の技術」が植物の生命をあずかる者が一番必要な言葉ではなかろうか。

常に考え「信頼出来る会社」として成長してゆきたいものです。

(株) 植捨組 代表取締役 阪上貞雄

月日のたつのは早いもので、十周年を迎えて過去を振り返ってみると多くの思い出があります。組合は広い野中に立つ一本の大樹であってほしいと思う。

この一本の樹影が多くの人々の憩いの場となり、重宝がられ、皆から慕われ、なつかしがられる。このような組合であり、組合員の各社がこの樹影を利用して立派に育ってゆかなければならぬと思います。

植村高樹園 園主 植村清一

弊社の名前の由来を一言。今から二十年前まで、当地は高安村でした。そこで創業（明治三十九年）時、先々代が社名を付けるにあたって、高安地区の樹木生産販売および造園業者という意味で植村高樹園としたもので、高樹園は、値の高い樹と、高木を扱うの意味ではありません。多言蛇足ながら一言。

植村造園土木(株) 代表取締役 植村三郎

祝・創立十周年おめでとう。

『隔世の感がある』と十年前の造園業界を知る人にとっては感慨深い言葉でしょう。

先人の打ち立てた造園技術を、今に受け継ぐ私達の使命は誠に重大である、と言わねばなりません。地域社会においても国家的地位においても緑化事業は重要視されつつあります。その使命に恥じぬ私達の組合であらん事を願います。

内山緑地建設(株)大阪支店 支店長 樋口 篤

組合創立十周年を迎えた事を心よりお祝い申し上げますと共に、今後のご発展をお祈り申し上げます。

今後も微力ながら御協力させて頂く所存でございます。

福祉の充実を目標に世の中が動き出して、いいよい住環境の整備が重視されてまいりました。

組合員一丸となり、社会に奉仕して行こうではありませんか。

大阪造園土木(株) 代表取締役 木村源次郎

組合創立十周年を記念して、組合報の創刊号を発刊する事はまことに喜ばしい事である。

近代企業において情報を先取りすることは、すなわち経営前進を意味するものと思われる。今後急増する緑化の需要に対応するため企業体质の強化と、多様複雑化する技術革新の格好の指針として、業界への貢献度が大きいものと、多大の関心をもってこの組合報の前途を祝福します。

(株)大阪綠花 代表取締役社長 花原 弘

お客様に喜んでいただける職人。

お客様に喜んでいただける技術者。

お客様に喜んでいただける経営者が造園業を営み、業界を形成しているのが阪神造園建設業協同組合の真の姿であると理解し、組合員としての誇りと、ますます複雑多岐にわたるお客様に、喜んでいただける造園業者としての反省を繰返しています。

加茂佐造園(株) 代表取締役 稲沢辰次

組合創立十周年記念の組合時報の創刊号をお祝い申上げます。

関西植木(株) 代表取締役 今里忠夫

國破れて山河あり、城春にして草木青し。

終戦後十数年の大阪は真にこの感が深められました。焦土化した大阪の復興に緑を取り入れた近代都市としての街造りを手掛けた二十幾星霜。

今一度過去の歩みを振り返り、緑化百年の大計のもとに緑と平和の未来都市大阪を育てよう。

関西造園土木(株) 取締役社長 杭本 正

光陰矢のごとしという諺がありますが、全く月日の立つの早いもので、組合が結成されてから早や十周年を迎え、万博を契機として組合員各位の賢明な努力により、組合の真価を十二分に發揮せられ、全国でも自他共に認める優秀な組合となりました事は、御同慶に耐えません。

緑化推進の時、組合員各位一致団結して業界発展の原動力として、なお一層の活躍を切望いたします。

関西緑地開発(株) 代表取締役 岡田次平

組合十周年を迎えましておめでとうございます。

組合員各位のたゆまないご協力によりまして、立派な組合に発展いたしました。

創立当時をしのび、感無量の思いです。

今後共一層の御発展を祈ります。

閑秀園 代表者 川本博美

阪神造園高等職業訓練校を創設してもらい、非常に喜ばしいことだと思いますが、大阪府下の各大学高校（公私立を問わず）に専門の造園科を新設されるように運動をいていただきたいと思います。

近鉄興業(株)造園土木建設部 代表取締役部長 高天義一

創立十周年に際し、一言お祝いを述べさせていただきます。「造園施工管理技術者」の資格制度も確立され、業界の発展が益々期待されます。従いまして今後我々組合員が一致団結し、社会的地位および技術向上を目標として『明日の造園施工業界』を築いていきたいと考えております。

(株)京阪神グリーン 代表取締役 木山匡司

組合創立十周年、心からお慶び申し上げます。私、この業界に入り二十七年。その間、皆様の御指導と社員一同の協力により、現在のような会社形態を保てるようになりました。

その間、大した業績も残しておりませんが、今後何か皆様のお役に立てばと思っております。高知県宿毛市付近で新しい樹木の栽培に取り組んで居りますので、機会あれば是非御来場下さい。

金剛植物園 代表者 左近長一

組合創立十周年記念の創刊号をお祝い申上げます。

私も、このかがやかしい十周年記念に一組合員として参加出来ます事は光栄の至りでございます。

今後はなお一層組合員としての誇りと自信をもって造園業界の発展と緑化事業に貢献する覚悟でございますので、宜しくお願ひ申上げます。

(株)三芳園 代表取締役 西富春男

組合十年の歩みは、ただ親睦を深める年の積重ねではなく、基礎作り、万博工事を通じての団結、存在の宣揚等誠に意義深い歴史であった。その間造園会館並びに立派な新組合員を確保し、名実共

に私達のよりどころとなった事は、誠によろこばしい事である。この上は組合員としての誇りと自信をもって、益々この道に精進の決意を新たにするものである。

三容興産(株) 代表取締役社長 当麻英夫

組合創立十周年を迎え、誠に感激に堪えないところであります。組合設立の目的は、一社や二社ではできない色々な事柄を多勢の力を結集して目標に近付けて行くということで、ただ目先の利害に捕われてはいけないことはもちろんあります。

今回新しく組合時報の発刊を計画され、大いなる進歩であると思います。

(株)昭和造園土木 社長 坂上種博

組合発足以来十年。組合を設立した当時は、全国の業者から万博のために設立した組合といわれてきましたが、しかし、私達は全国造園連合会が発足するので正式な組合を設立したまでの事です。結果的には、万博工事に全組合員が一致団結、一大活躍をし、業界に例のない組合として全国の業者から感嘆され、そして今日を迎えた。

(株)青紅園 代表取締役 中島幸太郎

個々の集まりが一団となり、行動を共にするとの偉大さに改めて感嘆し、その業績の一役を荷ったことの誇りが、新たな活動を生みだす原動力となることを認識すれば、よりいっそうの組合活動の発展を願わざにはいられません。

わが社も長い歴史と経験を生かし、緑化事業の発展に貢献するつもりです。どうぞよろしく。

(株)関造園土木 代表取締役 関 春夫

組合紙発刊誠にお目出度いことと心から喜んでおります。当社も組合の一員として、都市緑化に大いに役立ちたいと念願致しております。

尊農社緑地(株) 代表取締役 梅原 功

従来緑化と全く関係なかった大手企業が、続々

とこの業界に進出してきています。強大な資本と営業基盤の広域性から、序々に業界に影響をもたらさずにはおきますまい。

やはり我々既存の業者としては、企業の近代化に務め、体質の改善をはかり、これから企業競争に立ち遅れないように自力をつけていくべきではないでしょうか。

田中建設(株) 社長 田中克典

古い言葉で恐縮です。

旧海軍部内では総ての動作の前に十五分前、五分前というのがありました。これは現在の社会生活には適用する言葉であると信じております。

会社への出勤、作業の開始、会合の場合など、これに事前の準備を併行すれば、仕事の能率向上、安全、工事の進捗に役立つのではないか、と社員一同努力している次第です。

(株)田中造園土木 代表取締役 田中正一

造園という言葉、これは人間にとっては常に親しみのある響きとなって返ってくる。

それが生み出す緑は、我々の生活に快適なリズムを与えてくれる。

それゆえ、生活環境と造園とは十分な調和を必要とする。

我々の役割は個々の企業の立場を離れても、なお自然の保護育成、社会環境の充実に務めなければならないと感じる。

これは人間の義務でもある。

(株)竹中庭園 専務取締役 竹中栄次

創立十周年おめでたい限りであると共に組合設立に奔走した頃が懐しい。当時組合員の中で一番若かった小生も最近は中年組もいい所で十年の重みを味わう昨今である。そこで若手の方々にお願い。組合活動にもっと積極的意欲的に取組んで戴きたい事。役員にお任せという遠慮は返上し、組合も若手の方々に仕事をどしどし委任すべきと痛感するが如何。

(株)辻本龍松園 代表取締役 辻本己之助

アパートの窓越しの植木一鉢で心がなごみ、豊かな気持ちにしてくれる植物、ましてや緑いっぱいの公園で、思う存分に自然を満喫するのは樂しく健康的である。

「緑と青空」をテーマにかけるわが社は、自然の「緑と青空」を大切に守り、また育成し、明るい公害のない社会作りに役立つ事に、使命と誇りをもって一同努力し、また、業界の発展に協力してまいりたいと思っております。

(株)庭樹園 代表取締役 岩内富三郎

大阪で行われた万博工事を契機に組織した組合で十年。

対外的にも造園界のリーダーとして認められるようになったのも、歴代理事長はじめ役員皆さんのが献身的な奉仕のたまものと思います。

とくに、組合を作るに当たり、御苦労された今は故・初代理事長森氏、大阪造園の植木氏のことが偲ばれます。

東光園緑化(株) 大阪支店長 池田邦寛

自 戒

今日、社会から本当に求められているものは何か。

私共一言に造園、緑化、そして環境整備事業に取り組んではいるものの、世の中の意識が高くなるにつれ、求められることは幅広く深い知識である。自分では今まで何一つ満足するものが無い。一生に一つでも満足できるものをと考える今日この頃である。

南海造園土木(株) 社長 辻 正俊

我々業界人は、長くつかわれた造園技術を大切に守り、残された造形の美しさを保存し、よりよく育てるに励んできました。

これも大事なことがらですが、時代は画期的な公共緑化の事業をも要求している現在です。

視野を広め、相互扶助の精神を涵養すること等

もまた、造園マンの義務と心得て組合活動にも、
大いに協力しようではありませんか。

(株)西川造園 代表取締役 西川晴之助

近年、造園業界は大手資本の業界への殴り込み
に対し、当惑と混乱の渦中で自ら産業基盤のもろ
さを露呈したが、造園緑化産業の特殊性を認識す
るならば、これら大手資本の大半は、自ら手を引
かざるを得ないだろう。

今こそ業界はその前近代的体質を払拭し、造園
エキスパートとしてのテクノクラートとイデオロ
ギを育成すべきだ。

阪急園芸(株) 代表取締役 荒木秀雄

我々造園に關係する者として、「地球はみどり
に」と常に考える所以であるが、それにしてはただ
単に木を植えてふやす事も大切であるが、むしろ
木を植える時に数は少なくなても、将来立派な
木に成長出来るよう十分な下地を作り、また植える
時に一本の木も絶対枯らさないよう、常に愛情
と技術をもって大切に育てたいと思うものである。

富士造園土木(株) 社長 金岡秀輔

本組合が創立して十年、急速な発展をとげた事
は歴代の理事長をはじめ、役員の建設的に施策の
よろしきを得たことと、全組合員が協力一致した
貢献度を高く評価致します。

今般組合時報創刊に当たり、業界や組合の将来
の発展のため、直接編集を担当される方の苦労を
ねぎらうと同時に、今後の御発展を希望致します。

(株)明治園 代表取締役 口丸伊一

「光陰矢の如し」と申しますように、月日のた
つのは早いものです。当社も組合の構成会社とし
て加盟させて頂いており、大変光栄に存じております。

また、結成当時に播種された木々も中木に成長
しております。

わが組合も木々のごとく、大木に。

いやもっと、もっと立派な銘木に組合員一同で
はぐくもうではありませんか。

(株)山都屋大阪営業所 所長 額田一彦

阪神造園建設業協同組合設立十周年おめでとう
ございます。

弊社は、山から都へ緑を送る屋として、社名を
「山都屋」となづけ、緑化事業を岡山にて昭和十八年より続けております。

その後、当地に営業所を開設し皆様方のお世話
になり、緑化事業を行っておりますが、今まで以上に情報の交換、技術及び地位の向上をめざして
努力したいと思っております。

また、組合時報の体裁にソフト感覚を創出する
為に“組合時報”かこい欄“み、ずのたわごと”
と“編集後記”の様に、毎号変わらない題文字を行
書体で筆書することにし、書道家に依頼して書いて
貰ったものを原本として使用し、現在迄継続して
ゐる。組合時報の記事の構成としては、当初か
ら下記の記事配分として、現在迄にはゞ定型化し
た様である。

組合時報

編集後記

み
ず
の
た
わ
ご
と

- 第一面 時事（緑化事業に関連する啓発、指導、行事、計画等）
- 第二面 組合事業活動報告（役員会委員会）
 - 組合事業関連記事
 - 職業訓練校関係記事
 - 国家試験（検定）関連記事
 - その他
- 第三面 講演会、講習会（研修会）
 - 寄稿（み、ずのたわごと等）コーナー
 - 関連業界行事
 - その他
- 第四面 寄稿（自由発表その他）
 - 関連団体行事
 - 連載コーナー（木之実樹の花・野草・山草）
 - 組合員の動静（組合員の住所、本社、代表者、人事移動、敬弔等）
 - 編集後記

ちなみに第一面に所載した記事と執筆者名を下記に一覧表として掲げると、別表のとおりです。

●連載コーナー

「み、ずのたわごと」欄を設けた事については、業界紙としては、概ね堅苦しい報告や発表等の記事が多くなり、読み辛いことをさける試みとして、内容は自由として、匿名又はペンネームを使用することも任意として、欄の名称の如く「み、ず」様に土の中（緑地業の基本作業と縁がある）の「たわごと」で、つぶやき（不平不満）、比喩、示唆、放言等を投稿して貰う場所を設けたもので、初刊以来殆んど毎号連続して掲載してゐる。

木之実樹の花の欄については、樹木に関する研究、啓蒙の記事を所載するが、徒らに植物図鑑や学究用書籍類の引用記事にならない様、緑地業務の実務や現場知識を応用した読み易い実務に役立つ記事内容を掲載することを意図したコーナーにしたいとの企画を試みたものである。

野草と山草についても、組合時報の発刊時季に合致した野草、山草類をソフトタッチに紹介するコーナーとして、イラストを挿入して、時には挿話的な筆致も取入れて、軽い読みものとすることを企画されたものである。

投稿、発表欄には、組合時報に対して、組合員各位は勿論のこと、特に組合役員の方達に組合時報の内容について深い理解と関心を持って貰う意味において、役員が予め出番を定めて、自由課題で記事を投稿して貰う事を企画して、概ね第4面の上部でスペースを当てており、又作品紹介として、組合員の築造した作品（庭園、施設、設計等）を紙上で発表し、製作上の意図、築造上の環境、問題点等を指摘して、造園技術の向上啓発に資する為のコーナーとして利用することにしてゐる。

●特輯記事

海外造園研修と交流

51.10.20 5号 造園マン・アメリカ研修の旅として研修報告を、当麻英夫氏（組合理事長）外7氏にて執筆。

56.1.1 22号 東南アジア研修旅行（マレーシア、シンガポールの庭園と植物園を訪ねる）として、阪上秀雄氏（組合理事長）外2氏にて執筆。

58.7.15 32号 欧州の造園視察に参加してとして、竹中栄治氏（組合理事長）外7氏にて執筆。

公共樹木在庫調査報告

公用緑化事業に使用する樹木類の入手難易を○を良、○をや、△を難、×は不能として表示し樹木125種と地被類16種、蔓物7種を4頁を費して、下記の号で発表した。

- 58.10.15 33号
- 59.1.1 34号
- 59.4.1 35号
- 59.7.1 36号
- 60.1.1 38号

発行日	No.	主　　題	副　　題	執　筆　者
50, 9, 27	No. 1	組合創立10周年を迎えて	創立祝辞	阪神造園建設業協同組合理事長 当麻 英夫ほか
51, 1, 1	2	新年を迎えて	50年の回顧と 51年の展望	同 上 理事長 当麻 英夫 理事 木村源次郎
51, 4, 15	3	大阪府・市の緑化行政		大阪府土木部 主幹 田中安太郎 大阪市公園局建設部長 入江 重悦
51, 8, 20	4	日本住宅公団における 造園	団地植栽懇談会に 参加して	日本住宅公団宅地事業部専門役 佐藤 岳三 京阪神グリーン代表取締役 木山 匡司
51, 10, 20	5	大阪南港の緑化事業		大阪市港湾局南港開発部 主幹 足立 幸一
52, 1, 1	6	都市公園と淀川河川 公園整備		建設省近畿地方建設局建設専門官 富田 祐次
52, 4, 1	7	高速道路と植栽		日本道路公団大阪建設局施設課 藤本 豊
52, 7, 1	8	第12回通常総会開く	新任・退任の あいさつ	阪神造園建設業協同組合 新任理事長 阪上 秀雄 前任理事長 当麻 英夫
52, 10, 1	9	中之島公園・緑による 水辺の修景		大阪市公園局
53, 1, 1	10	官民こぞって緑化の 推進を		建設省都市局都市緑地対策室長 平野 侃三
53, 4, 1	11	大阪府泉南郡に大規模な 公園式霊園を造成		大阪市環境事業局
53, 7, 1	12	大阪市下水処理場の緑化		大阪市下水道局建設部 山田 啓成
53, 10, 1	13	神戸の顔としての神戸の 公園		神戸市公園緑地部長 矢木 勉
54, 1, 1	14	都市公園の整備と造園業 の役割		建設省都市局公園緑地課建設専門官 塩島 大
54, 4, 1	15	大阪の公園とみどり	昭和54年度の展望	大阪市公園局建設部長 入江 重悦
54, 7, 15	16	神戸市須磨離宮植物園	四季に楽しめる 花の園	神戸市土木局公園緑地部 管理課須磨離宮公園長 川辺 豊
54, 10, 15	17	今後の都市公園 豊かな社会を創造	大きい都市公園 の役割	建設省近畿地方建設局道路部建設専門官 石原憲一郎
55, 1, 1	18	府民のオアシス 「山田池公園」	森と池の自然美活 かした	大阪府土木部公園課主幹 公園長 谷村健一郎
55, 4, 1	19	新しい“海の文化都市” の創造ポートピア81	緑化施設も整備	(財)神戸ポートアイランド博覧会協会 涉外広報課長 松尾 政男
55, 7, 1	20	飛鳥と公園と造園と		建設省近畿地方建設局飛鳥国立公園出張所長 服部 朋世

55, 10, 1	21	大阪市の公園とみどり—昭和55年度事業の展望	質の向上と多様化・市民の健康づくりに寄与	大阪市公園局建設部長 佐藤 泰
56, 1, 1	22	国土の緑化と今年		国務大臣・国土庁長官・北海道開発庁長官 原 健三郎
56, 4, 1	23	四季の森づくり 大泉緑地	花木で景観を強調	大阪府南部公園事務所 工務課長 松島 光明
56, 7, 15	24	第16回通常総会開く	就任あいさつ 退任あいさつ	阪神造園建設業協同組合 新理事長 竹中 栄治 前理事長 阪上 秀雄
56, 10, 1	25	新しい街づくりと公園づくり	住宅・都市整備公団が発足	日本住宅公団関西支社宅地事業部専門役 笛木 担
57, 1, 1	26	新年のごあいさつ		衆議院議院 原田 憲
57, 4, 1	27	日本住宅・都市整備公団 都市の公園整備を推進する	潤いのある都市 環境へ	住宅・都市整備公団奈良公園建設事務所長 三浦 順彦
57, 7, 15	28	花と緑のヨーロッパ・ フロリアード82	美の祭典：満開の チューリップ	(財)大阪市公園協会常務理事 入江 重悦
57, 10, 10	29	カナダ・アメリカ太平洋 岸地区の樹木生産農場を 訪ねて	ポット樹木の栽培 システム化に見る べきもの	京阪神グリーン代表取締役 木山 匡司
58, 1, 1	30	年頭の所感		建設省都市局公園緑地課長 勝浦 康之
58, 4, 10	31	第1回全国都市緑化フェア 服部緑地で開催	花と緑の祭典・ 住民の意識高揚は かる	第1回全国都市緑化フェア準備班
58, 7, 15	32	南港ポートタウンの公園 緑地	市民に親しみと安 らぎ与える町の創 造めざす	大阪市港湾局企画振興部技術主幹 安藤 茂男
58, 10, 15	33	第1回全国都市緑化 フェア開催	花と緑の祭典グリー ングロー大阪 阪神造園建設業 協同組合が協力	阪神造園建設業協同組合事務局
59, 1, 1	34	年頭所感		大阪府土木部参事 公園課長 清水 正之
59, 4, 1	35	“緑の町づくり”めざす 花の見本市「おおさか」 , 84	緑ゆたかな町づく りへ	大阪市公園局建設部長 佐藤 泰
59, 7, 1	36	近畿緑化事業の現状と 課題	緑豊かな道路空間 を創出するため植 樹帯	建設省近畿地方建設局企画部建設専門店 小松 清
59, 10, 15	37	中国の緑化事業を見る	“緑の万里長城” 築こう12年計画大 規模な緑化運動	大阪市公園局建設部 緑化課長 秋田 豊
60, 1, 1	38	みどりの都市づくり		衆議院議院 原 健三郎
60, 4, 1	39	いよいよ「くにうみの 祭典」開幕	金県全土を公園化・ 安らぎと生きがい 見出す	兵庫県おのころアイランド推進本部 山本 康典
60, 7, 1	40	鶴見緑地で花と緑 の国際博覧会を		大阪市公園局長 塩谷 馨
60, 10, 1	41	創立20周年記念式典 を挙行	明日の飛躍めざし 一層の結束誓う	阪神造園建設業協同組合事務局

全国都市緑化フェア

●第1回全国都市緑化フェア

——グリーングロー大阪——

花と緑の祭典、都市緑化フェアは、昭和57年6月、都市計画中央審議会の報告の中で「都市緑化に関する住民の意識の高揚と知識の普及を図るための中心的な行事として全国都市緑化フェアを開催すること」が提言され新しい事業として実施された。

第1回全国都市緑化フェアは、大阪府と(財)都市緑化基金が主催で、昭和58年9月23日から11月23日まで盛大に開催され、「21世紀(あす)へはぐくむ花と緑の大坂」(学ぶ)(つくる)(ふれあう)(ひろめる)を開催テーマとして服部緑地で展開された。

崇高な基本理念・基本計画のもと会場計画はじ

め数多くの展示・催しものが計画され官民あげて協賛協力していく中で、当阪神造園建設業協同組合もその一翼を荷ない組織をあげてとり組んだ次第である。

都市緑化フェアの主旨からも全国的に地方公共団体から協賛された1、花の大通り及び円型花壇内の自治体出展および2、郷土の森の出展について組合に依頼があり、さらに3、植木まつりのイベント協賛、4、庭園見本園の組合員出展、5、テーマ館・植物園の修景等々を行なった。

これらの推進にあたっては、つとに役員会等で再三審議をつくし、フェア対策特別委員会を編成し、それぞれの委員会においてプロジェクト毎に次のように分担して関係機関との調整をはかりつきめ細かく実施した。



特別委員会の結成と担当

大花壇ほか一事業委員会、郷土の森一技術委員会、植木まつり一企画涉外委員会、見本庭園一教育厚生委員会。

花の大通りと円型（自治体）花壇

花の大通りとシンボル広場から円型花壇にいたる間、長さ 215 メートル、巾 2.5 メートルの両側の花いっぱいのみちであり、豊中市ほか北摂 7 市、堺市ほか河内・泉州の都市ブロック及び団体による協賛出展で、期間中 2 回のパターンで施行された。前期はダイヤモンド型でサルビアの赤（ホットジャズ）と紫（ファリナセアビクトリア）19,600 株及びクサツゲ（30,000 株）が主体で、後期は、レインボー型で赤（サルビア）、紫（同）、緑（アキランサス）、白（インパチェンス）、黄（マリーゴールド）、橙（同）、ピンク（ベゴニア）計約 40,000 株の 7 色の虹に模様替えされた。

また円型花壇内の自治体花壇は、滋賀・京都・兵庫の各府県と札幌・京都・大阪・神戸・北九州・福岡の各指定都市の協賛によるものでロックガーデンなど変化に富むけんらんな花の絵巻がくりひろげられた。

この都市の夏は、例年ない異常な暑熱と寡雨の悪条件のもとで育苗から植付管理にいたる関係委員のご苦労は大変なものであった。

第 1 回都市緑化フェアの開催と同時開園された「都市緑化植物園」は、フェアを永久に記念する遺産であり、府として始めての植物園である。いわば「フェア」の置き土産とも感じられるが、先端技術を導入した装置温室を中心にツバキ山や各種の見本庭園・郷土の森を配置したすばらしい景観づくりであった。

この西面園路添いに記念協賛である郷土の森が創設された。これは、東京都ほか 21 府県、大阪市ほか 8 指定都市、豊中市ほか府下 29 市が参加献木されたものでイチョウほか 36 種、2014 本にものぼる大作業であった。

植木まつりは、フェア期間中、臨時の出店形態をとり組合協賛で企画涉外委員会が担当した。お



祭り行事に不可欠の植木市は、中央のレストハウスに面する南北 100 メートルの出店で、2 カ月に及ぶ長期間、各委員並びに池田市細河園芸農業協同組合のご尽力と出店者各位のご理解をえて開催した。担当委員会としては、再三に及び「フェア実行委員会」とも調整を重ねたことはもちろん、フェアの主旨に基き秩序あるお祭り協賛として参加し、多数の入園者にアピールするため、キメ細かい配慮を加えた。即ち、アーチ型大看板をはじ

めカラフルなミニテント、まつりのユニフォーム(袴天)、エフの統一などお祭りのもり上げに苦心したところである。

出店は、伏寅園、谷茂園芸、中種園芸、紅葉園、常磐園、マスミ園芸、南楽園の各位と弘栄造園土木(株)、川端造園石材(株)の皆様方であり深甚の謝意を表する次第です。

「見本庭園」

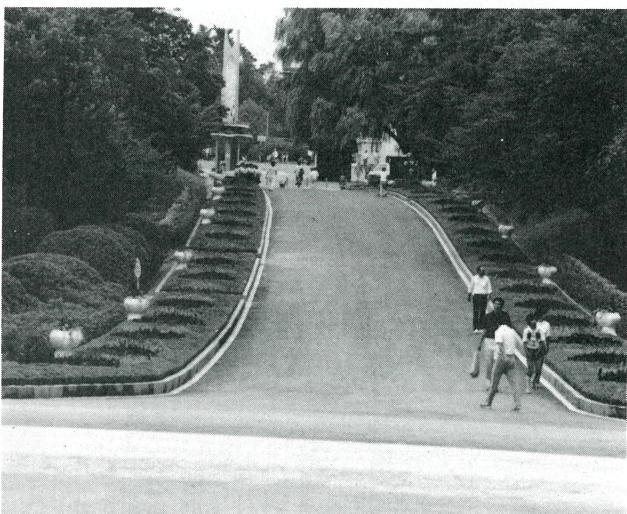
郷土の森に沿って計画された庭園「見本園」は、当組合が協賛し、和・洋の作庭に次の11社が出展した。

旭緑化建設(株)、岩辻緑地建設(株)、内山緑地建設(株)、関西植木(株)、(株)三芳園、(株)昭和造園土木、(株)関造園土木、(株)田中造園土木、(株)竹中庭園、阪急園芸(株)、(株)山本定樹園

●花の大通り

第1回全国緑化フェア会場のメイン通りに、位置し、服部緑地公園の円型花壇と、緑化フェアのメインゲート広場を連絡する重要なスペースである。

花の大通りは、大阪府の各自治体が出資して造る出展花壇で、会期中、各自治体の市町名の立札が、縁石、フラワーボックスには、各自治体のマークが印刷されて、大阪府全体の、緑化フェアを演出している。



会期中、前期は、ダイヤ型の花壇で、後期は虹のパターンの花壇を造るものである。

花壇造成前に、周辺の整備で、低木、高木の一部を移植すると共に、整枝剪定をおこない、花壇を一段と引き立てる作業を行った。縁石据付、散水設備、等を行い、客土は山土とピートモスを十分に混入して、花壇を造成した。前期のダイヤパターンには、縁取りに、クサツゲを用い、サルビアの赤色、紫色、約20,000株を植込んで開会式を迎えた。後期花壇は、虹のパターン、で花は、アキランサスの緑色、インパチェンスの白色、サルビアの赤色、紫色、桃色、ベゴニアの桃色、マリーゴールドの橙色、黄色、計4万株で虹を色どった。開催中、来園者に一部こわされたり、雨による被害等もあって、毎日早朝より、散水及び、いたんだ花の取替など、いつもお客様に、喜んで見ていただけるよう十分に配慮した。閉会後、この花壇は、残念ながら、管理等の関係上、撤去してしまいましたが、緑化フェア記念花壇として、府民の皆様に親しんでもらえるよう、いつまでも設置してほしかったと残念に思います。



●郷土の森植栽工事

技術委員会

第1回全国都市緑化フェアの一環として、服部緑地内都市緑化植物園に、各都道府県及び各市町村等、協賛された地方公共団体の、シンボル樹木植栽工事を担当した。昭和58年9月23日が、オープンの為、植樹時期的な面、工期的な面、或は、地方公共団体から直接樹木を搬入して植付けられる分、或は、樹木及び植付け共、組合で施工分、等の樹種、数量、植付け場所、入荷日程等の調整に、緑化フェア実行委員会参事、山崎氏、大阪府北部公園事務所工務課長、森本氏他担当係員の方々、当組合より担当の、関、今里が参画、特に工期が少ない為、日夜協議を重ねた結果、9月10日頃に最終的な決定を見た。参考迄に工事概要は、イチヨウ他36種2014本、客土、植付けと、それに伴う移植、補植、整備等の関連工事である。工事各様、請負金額は、

郷土の森植栽工事 1,220万円

同移植及補植工事 95万円

(事業委員会附属)

同花卉植付業務 171万円

同記念植樹関連工事 340万円

(但し記念植樹関連工事は、皇太子・同妃両殿下
行啓が10月7日に予定されていた為、9月23日オ
ープン後、10月7日迄に施工)

の4件となった。施工前に、前以って組合員各社に、使用予定樹木の見積りを提示願った資料に基
き、技術委員会で検討して発注、猶工程に併せて
納入して頂くやう手配を行った。施工については、
第一造園共同企業体（大阪造園土木株）、（株）三芳園、
関西植木株及び、近畿造園共同企業体（旭緑化建
設株）、（株）植捨組、田中建設株、（株）関造園土木の
2企業体が担当、9月12日～9月21日迄の工程に
基き、各社の中堅現場代理人を派遣して頂き、舗
装、土止工事等を出合いの悪条件の中、日夜綿密
な施工計画に基づき工程会議を繰返し、連日30人
位出動施工に当った。中でも緑化植物園管理棟前
広場の、けやき株立ち（約2t）植付け工事は、



広場のコンクリート舗装の仕上げが完了した時で、
約20米の距離があり、その上高圧線が通って危険
な為、大変難工事であった。関西電力株から担当
員を派遣して頂き、45tものクレーントラックを
使用、深夜作業で施工された事と、9月22日の工
期2日前に、予期しなかった花き約2万本植付け
及び、関連業務に、組合員各社より140人動員、
2日間で立派に完成させた事、又皇太子殿下行啓
による、記念植樹工事の準備から、両殿下お手植
えを、目の当たり拝見させて頂いた事等は、第一回
全国都市緑化フェアと云う記念すべきイベントだ
けに、組合員関係者一同、生涯忘れ得ぬ印象とな
り、又組合歴史の一頁となる事だろう。

協賛事業

●花壇展に協賛出品

毎春、中之島公園で大阪市と大阪花まつり委員会主催の「春の花壇展」が催されているが、当組合では、これに協賛し、昭和44年には5花壇を、同45年からは組合員名簿の順位に従って毎回、10社からの花壇出品している。また、昭和47年からは、出品作に対し審査して優秀花壇を表彰している。

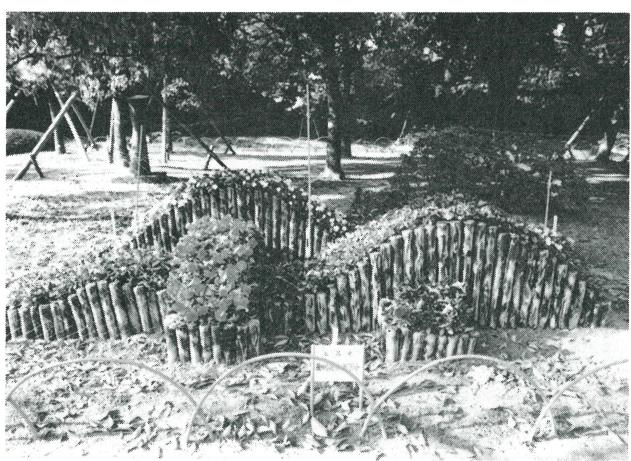
▼昭和60年の優秀花壇（下掲4社）



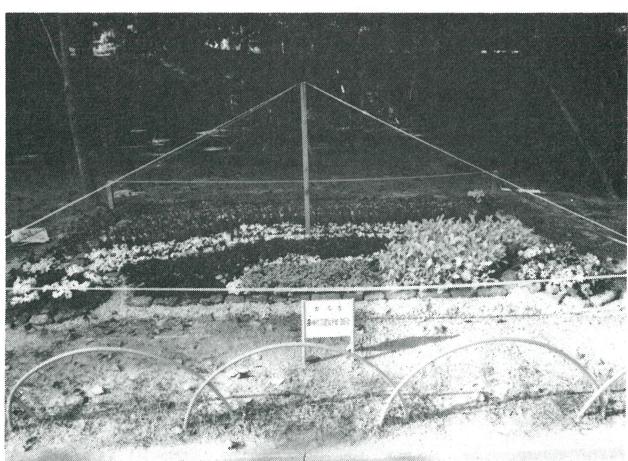
優良賞 加茂佐造園(株)



優秀賞 大阪造園土木(株)



アイデア賞 関西植木(株)



努力賞 植村高樹園

(株)、関西緑地開発(株)、近鉄興業(株)、京阪神建設(株)、(株)三芳園

第3回（S 46年度）出展

三容興産(株)、(株)昭和造園土木、(株)青紅園、田中建設(株)、(株)竹中庭園、辻本龍松園、庭樹園、(株)西川造園、阪急園芸(株)、富士造園土木(株)

第4回（S 47年度）出展

旭植物園(株)、荒木造園(株)、(株)山都屋大阪営業所、(株)辻本龍松園、(株)青紅園、(株)庭樹園、(株)明治園、富士造園土木(株)、田中建設(株)、東光園緑化(株)大阪営業所

第5回（S 48年度）出展

大阪市の都合により中止となる。

第6回（S 49年度）出展

(株)植捨組、関西植木(株)、植村高樹園、加茂佐造園(株)、(株)岩辻園芸農場、関西造園土木(株)、大阪造園土木(株)、内山緑地建設(株)大阪支店、関西緑地開発(株)、植村造園土木(株)

第7回（S 50年度）出展

田中建設(株)、(株)庭樹園、近鉄興業(株)造園土木建設部、(株)京阪神グリーン、(株)三芳園、三容興産(株)、(株)昭和造園土木、(株)青紅園、(株)竹中庭園、(株)辻本龍松園

第8回（S 51年度）出展

阪急園芸(株)、(株)稻治造園工務所、東光園緑化(株)大阪支店、(株)明治園、閑秀園、(株)大阪緑化、金剛植物園、(株)山都屋、(株)西川造園、富士造園土木(株)

第9回（S 52年度）出展

(株)植捨組、植村高樹園、(株)稻治造園工務所、(株)岩辻園芸農場、南海造園土木(株)、尊農社緑地(株)大阪支店、(株)関造園土木、(株)田中造園土木、旭緑化建設(株)、荒木造園(株)

第10回（S 53年度）出展

大阪造園土木(株)、(株)京阪神グリーン、加茂佐造園(株)、内山緑地建設(株)大阪支店、植村造園土木(株)、(株)大阪緑化、関西植木(株)、関西緑地開発(株)、関西造園土木(株)、近鉄造園(株)

第11回（S 54年度）出展

(株)昭和造園土木、(株)青紅園、(株)関造園土木、田中建設(株)、(株)辻本龍松園、(株)三芳園、三容興産(株)、尊農社緑地(株)、(株)田中造園土木、(株)竹中庭園

第12回（S 55年度）出展

阪急園芸(株)、(株)明治園、南海造園土木(株)、(株)阪南造園、富士造園土木(株)、(株)山都屋大阪営業所、旭緑化建設(株)、(株)西川造園、東光園緑化(株)大阪支店、(株)庭樹園

第13回（S 56年度）出展

(株)植捨組、荒木造園(株)、(株)稻治造園工務所、大阪造園土木(株)、(株)岩辻園芸農場、内山緑地建設(株)大阪支店、(株)大阪緑花、植村高樹園、植村造園土木(株)、(株)山本定樹園

第14回（S 57年度）出展

(株)昭和造園土木、(株)青紅園、(株)関造園土木、加茂佐造園(株)、関西植木(株)、関西造園土木(株)、関西緑地開発(株)、近鉄造園(株)、(株)京阪神グリーン、(株)三芳園

第15回（S 58年度）出展

阪急園芸(株)、(株)辻本龍松園、(株)竹中庭園、(株)田中造園土木、尊農社緑地(株)、田中建設(株)、(株)庭樹園、東光園緑化(株)大阪支店、南海造園土木(株)、(株)西川造園

第16回（S 59年度）出展

(株)阪南造園、富士造園土木(株)、(株)明治屋、(株)山都屋大阪営業所、(株)山本定樹園、荒木造園(株)、旭緑化建設(株)、(株)稻治造園工務所、岩辻緑地建設(株)、(株)植捨組

第17回（S 60年度）出展

関西造園土木(株)、植村造園土木(株)、関西緑地開発(株)、(株)大西東山造園、植村高樹園、(株)大阪緑花、関西植木(株)、加茂佐造園(株)、大阪造園土木(株)、内山緑地建設(株)

●泉北ニュータウン住宅展示場 モデル庭園を出展

昭和53年、西日本最大の新都市として総面積約1,500ヘクタール、戸数5万3千戸、居住人口18万人の泉北ニュータウンの街造りが急ピッチで進められていた。この近代都市での住宅建設の啓蒙のため、大阪府企業局と(財)大阪住宅センターが主催となり、読売新聞社も参画して、泉北高速鉄道・光明池駅の東部1万8千m²の府有地に「泉北ニュータウン住宅総合展示場」が計画され、同年4月8日に開場式が盛大に行われた。

会場には、日本住宅公団（現・住宅都市整備公団）、大阪府住宅供給公社および民間メーカーによる30棟のモデルハウスがそれぞれの企画構想と形式によって築造されたが、大阪府から会場整備

のための緑化とモデル庭園展示の協力要請が当組合にもたらされた。

そこで、当組合では役員会にはかり、これに応じることになり、組合、協会員から参加を募集、後記の12社の協賛出展が決定し、各社それぞれ腕をふるって施工し、会場に花を添えるとともに、希望者の求めにも応じることとした。また、出展期間は一応3ヶ年を予定、春秋には植木市も開催することなどが申合わされた。

▲出展者

株庭樹園・株岩辺園芸農場・東光園緑化(株)大阪支店・南海造園土木(株)・(株)昭和造園土木(株)・三容興産(株)・(株)竹中庭園・植村高樹園・尊農社緑地(株)・旭緑化建設(株)・(株)青紅園・(株)京阪神グリーン



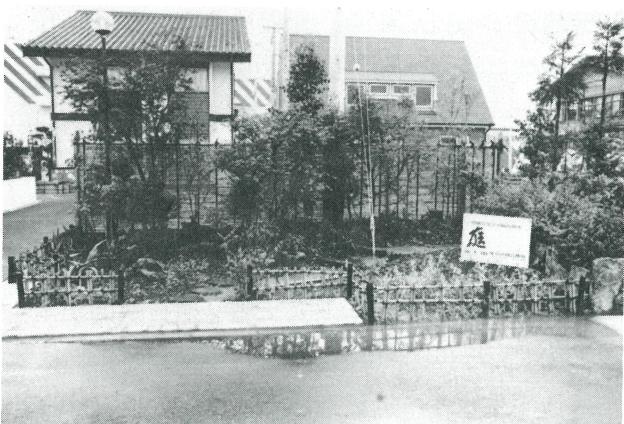
植村高樹園



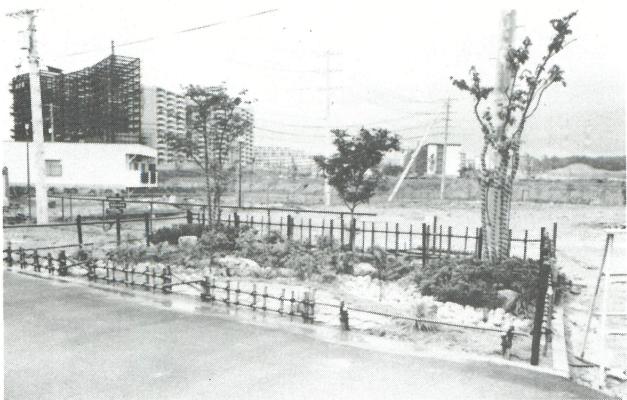
三容興産(株)



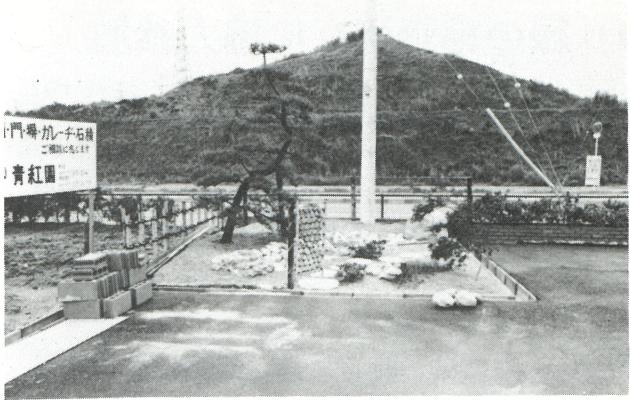
昭和造園土木(株)



(株)岩辺園芸農場



旭緑化建設(株)



(株)青紅園



尊農社緑化(株)



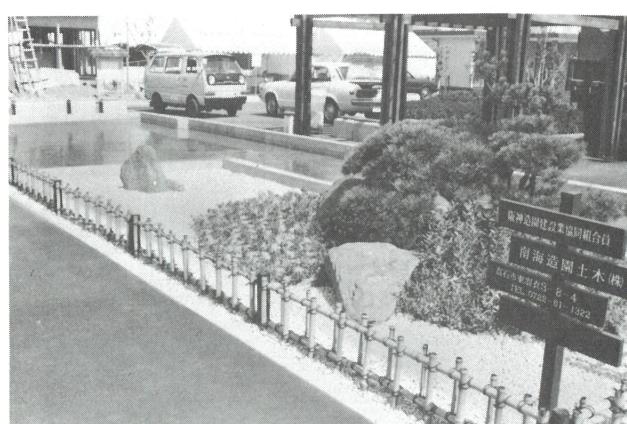
(株)竹中庭園



(株)庭樹園



東光園緑化(株)大阪支店



南海造園土木(株)

(株)京阪神グリーン

住宅展示場外まわりの
生垣植栽の施工及び
園芸売店を協賛出展

● 「緑の相談所」に協力参加

56年秋、大阪府と大阪市が時を同じくして「みどりの相談所」を開設されたが、当組合はこれに協力し、府には垣根と見本庭園を、市には相談所に必要な整備用品類を寄贈した。

■ 大泉緑地「緑の相談所」

大阪府営の大泉緑地は、年々その整備が進み、昭和56年現在60ヘクタールが開設され、府民の利用に供されつつあったが、同年10月24日、緑地の中央線北部を占める大泉池の南に接して建設された大休憩所の内に「緑の相談所」が開設され、オープニングセレモニーが行われた。

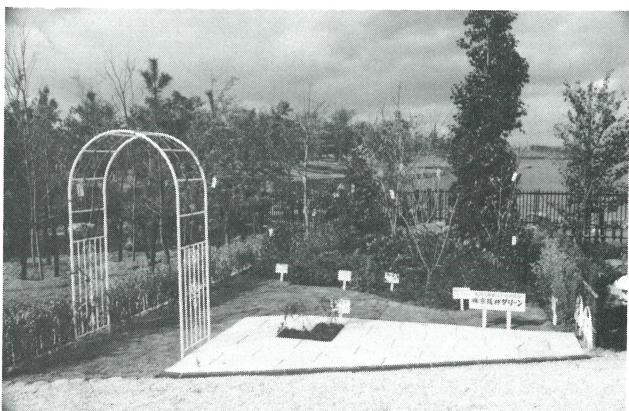
この日、大休憩所には開所式場が設けられ、右側の常設展示場及び相談室には大阪花き連その他による洋らん、菊、ベゴニア類や観葉植物の鉢物等がはでやかに飾られた。また、休憩所の南部正面にはパンジーによる大花壇となり、東西両側には植木苗、鉢物の即売所が設けられたが、隣接の西側は造園的修景が施され、当組合有志6社が生垣と和洋、両様式の小庭園を出展し府民の参考に供した。



大泉緑地「緑の相談所」開所式であいさつする岸大阪府知事

花の咲く樹を用いた小庭園 明るい小住宅の洋風庭園を、ということで、思い切って樹木は全部カラフルな花木のみを用い、特に出品期間の都合により、春咲きの樹木を選定した。

その中で入口のアーチに這わした「キバナノウゼンカズラ」中木の「ウラジロタイザンボク」「アメリカナツツバキ」低木の「フイリアベリア」「ベニバナシャリンバイ」「カルミヤ」等は新しく改良された園芸品種でこれからの中庭園樹木に用いられると思う。



(株)京阪神グリーン

和洋の庭 洋風庭園の様式を加味しながら植物素材に和風樹木を使用したので結果的には和洋折衷庭園となったが、洋風式構造の室内からのアプローチとして切石階段を据え、扁平石の延段石をもってテラスとして建築との接点を整えた奥に、石造構造物を配置して視点を構成した。生活様式に相応しながらフリーな構想で企めたものである。

要するに老幼共に親める庭として欲張った効用を狙ったつもりである。



南海造園土木(株)

四季を楽しむ庭 近代的西洋式庭園として、池、花壇、ベンチ、フェンス、グリーンベルト等を小空間に曲線美、色彩美を生かして地割りし、若い世代に好まれる花木を主に配植し、花壇には、お好みの花を植えて、植える楽しみ、開花の楽しみ、四季の色の変化の楽しみを見て頂き、心のやすらぎを増す庭に仕上げた。



関西植木(株)

石組みの庭園 施工するスペース全体を一つの額縁と見なして周辺をヤブランで縁取りし、その中に日本古来の石組みの基本を主として組みながら、誰が見てもわかり易いように作庭した。

園内を散策する方にも、石組みやつくばいの石の役割を知ってもらうために、基本に返って、個々の名札を立て、明示し、また、平面図を看板化し、石組みや工作物の名称を対称しながら見てもらう様に説明をつけた。



岩辻緑化建設(株)

枯水流れの庭 自然景観の創出をこころみて作庭しました。従って出来るだけ自然形の樹形のものを選んで落葉樹林が主体となり、点景物として常緑樹を配植して自然樹林の趣きを創り岩間の湧水が渓流となり、次第に緩流となるさまを枯れ山水として表現した。あくまでも人工的な形跡を残さない様に下木類や地被類の選択にも意を用いた。



株昭和造園土木

湖（うみ）を写す庭 限られた空間に背景の池を借景とした落ち着いた閑びのある庭を設計意図として庭園の基本様式を組み入れた、一般的に見てわかり易い庭にした。中央砂利敷を湖に見立て借景の池との一体感を持たせ、雄大な風景感と奥行きの深さを表現すると共に飛石を沢渡り風に配し切石で模様に変化をもたらした。ポイントには蹲踞と織部燈籠を据え、控えの洲浜には岬燈籠を配して庭の重量感と落ち着きを図ってみた。



竹中庭園(株)



大阪市長居公園「みどりの相談所」
開所に際し、寄贈目録を贈呈

■長居公園「みどりの相談所」

市の南部に70ヘクタールの面積を有する長居公園内の植物園の一角に新設されたこの施設は、小規模ながら清楚な粋いとモダンな構想の建物で、ゆったりとした室内中央部相談室、付属の展示、講習室等を備え、極めて利用し易い機構である。開設以来一般市民の園芸愛好者による利用度は極めて高く、専属のベテラン指導員により常時熱心な質疑応答が行なわれている。

当組合では、この設立記念とともに、設備の充実に資するため、備品資材等を寄贈した。

●花の見本市「おおさか」 協賛花壇出展

大阪市では市政100周年を記念して計画中の花の博覧会イベントとして昭59・4・14～22の間、鶴見緑地において花の見本市おおさか、84を開催したが、組合はこの事業に協賛し次の組合員10社がそれぞれ花壇を出展し大いにイベントをもり上げた。

植村高樹園、植村造園土木(株)、内山緑地建設(株)大阪支店、大阪造園土木(株)、(株)大阪緑花、加茂佐造園(株)、関西植木(株)、関西造園土木(株)、関西緑地開発(株)

■花の見本市「おおさか」'85

続く昭和60年は第2年度として4・20から5

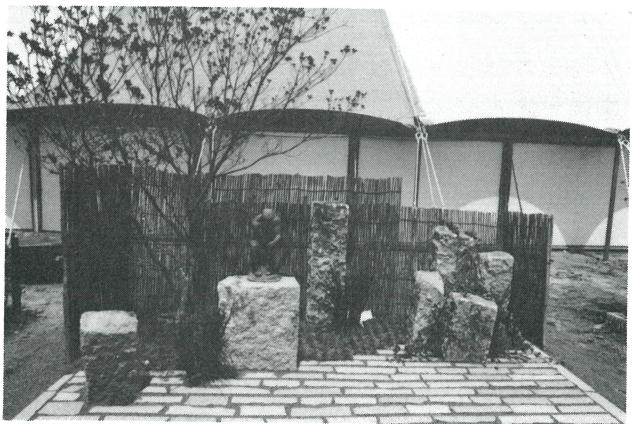
・6まで17日間、盛大に開催され当組合から次の10社が協賛出展し多大の好評を博した。

なお、花の見本市「おおさか」は、より一層拡大しもり上げるための発展的に花と緑の博覧会(仮称)とし国際的な庭園博を大阪に誘致しようと目下官民あげて活発な運動が推進されているところである。

▼昭和60年(4月20日～5月6日) 出展作品



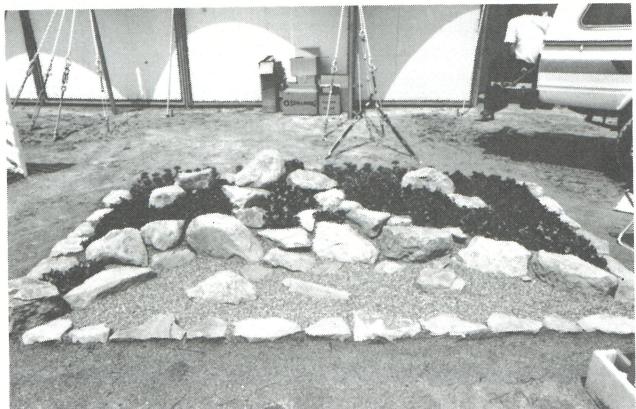
田中建設(株)



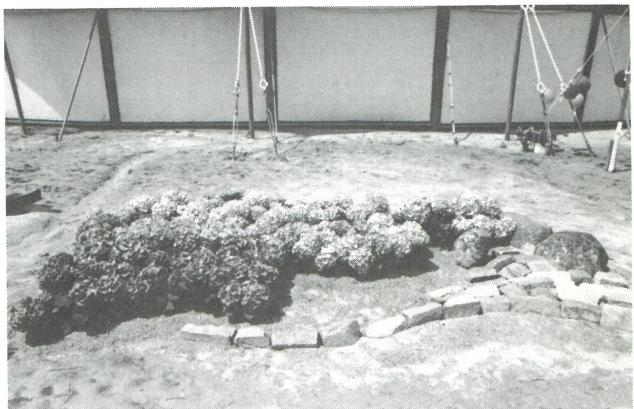
尊農社緑化(株)



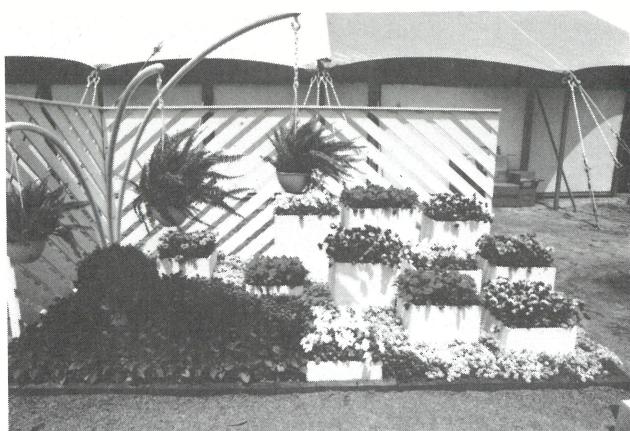
(株)竹中庭園



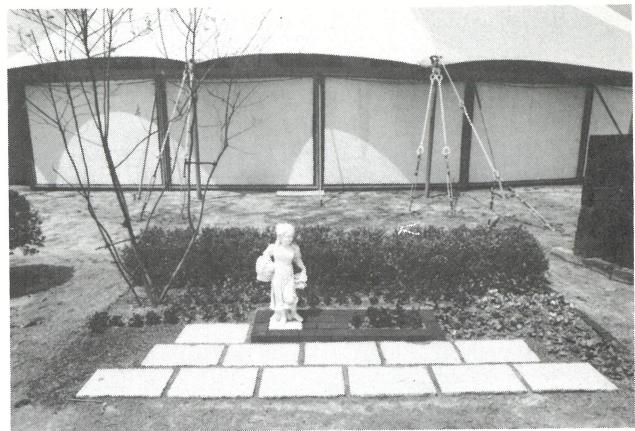
(株)京阪神グリーンン



(株)辻本龍松園



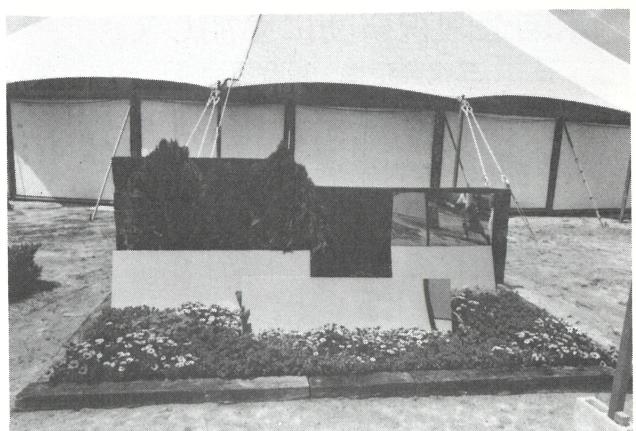
(株)関造園土木



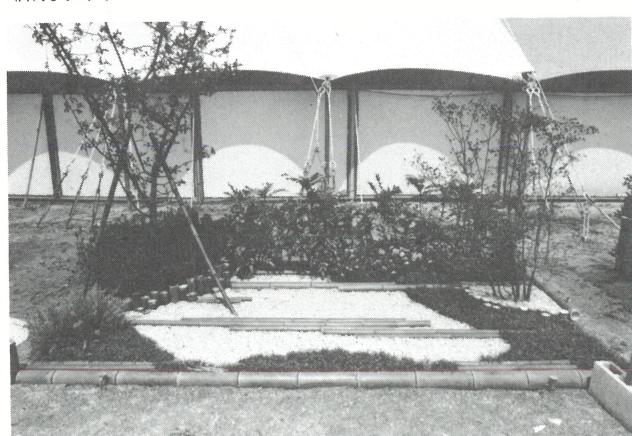
(株)昭和造園土木



(株)青紅園



(株)田中造園土木



(株)三芳園

海外造園研修

当組合では、海外の著名な公園や造園会社等を見学し、海外造園技術の取得と組合員のグローバルな目を養うことを目的に、海外造園研修を行っている。

昭和41年のモントリオール万国博準備状況視察、48年の西ドイツと欧州造園研修に次いで、この10

年間では、51年に「アメリカ研修の旅」、55年には組合創立15周年記念事業の一端として、マレーシア・シンガポールの庭園と植物園を訪ねる「東南アジア研修旅行」、そして58年には西ドイツのミュンヘンで行われた第4回国際造園博覧会の視察を中心とする「欧州造園視察」を行った。

●『造園マン＝アメリカ研修の旅』

●昭和51年9月11日～20日

●参加人員28名

●サンフランシスコ、ヨセミテ、ロサンゼルス、ハワイ

〈米国造園視察団に参加して〉

三容興産(株) 視察団団長 当麻 英夫

今回、阪神造園建設業協同組合、阪神造園業協会主催のもとに米国造園施設視察団を結成し、9月11日から20日までの10日間の視察の旅に出た。

団員総数28名添乗員1名計29名である。

今回の視察旅行はサンフランシスコ、ヨセミテ、ロサンゼルス、ハワイを回りそれぞれ現地の業者、生産業者やロスアンゼルスの公園課、カリフォルニア州立大学の教授をしておられる上杉先生らと交歓交流し、また案内をして戴いて大いにその目的を達し、使命を果すことができたのは幸であった。

以下自分ながらに見たこと感じたことを列記して団長としての旅行記にかえたい。

①サンフランシスコでもロスアンゼルスでも都市の整備には一貫性をもっていると聞く。

建築する時は市役所の係員から植栽はこのリストの中から選びなさい。

建物はこのように。



色はこんな色にしなさいという風に指示され、市民もこれに従うと。(若干の補助はあるとか)なるほど陰でそのような努力が払われているのかと良く判った。

議員さんやボスの圧力など全然無いらしい。

良く見習うべきことと思う。

②何処へ行っても花が美しく咲いている。

雨が少ないので時々水をやることで花が永持ちする由。

③ヨセミテの絶壁は高さ2000メートルもあり、これを上るのに三日かかるが、上の時は必ず事前に管理事務所へ届けるようになっている。

管理事務所では双眼鏡で見ていて駄目だと判ったらレインジャー部隊が出動しヘリコプターで救出するらしい。

④日本人は繊細な心使いを喜ぶ。食事にしても幾品もの料理を欲しがるがあちらではカロリー本位で万事大まかである。わが国も段々そのように

なると思う。

⑤日本人はハワイは特別として皆大いに活躍している。心強い限りである。

⑥とにかく米国は広い。カリフォルニア州で日本がスッポリはいる。うらやましい限りだ。

私も今20年若かりせばと残念でならない。

終りに出発の時、また到着のとき夜分にもかかわらず多勢の方々の歓送迎を受け全員無事何のトラブルも無く、帰国できたことを心から感謝し帰国の言葉としたい。

〈カ州造園組合員との交歓会〉 南海造園土木(株) 辻 正信

6日目（16日）の夜は宿舎であるコンチネンタル・ハイアット・ハウスで、上杉教授を交えたカリフォルニア州造園組合との交歓会が行われた。

この日、会場では先方の都合でまず上杉教授によるスライド上映に始まり、加州の風景からランドスケープへの発展、広大な国土、新興国家である点、欧州の影響などについての説明に始まりました。そして当麻理事長のあいさつ、続いてカリフォルニア州造園組合理事長、B近藤氏のあいさつ、続いて当麻理事長よりB近藤氏、上杉教授へ記念品が贈呈されました。

次に、加州造園組合の北住氏より、加州造園業界の状況説明がありました。

当地の造園業界はランドスケーパー、植木生産業者、官公庁請負業者、官公庁職員及び園芸用機械の供給業者等からなり、その年間総生産（販売）額は約十五億ドルに達する等々と。そして相互の質疑応答は次の様でした。

Q 日本の業界では先程話された程細分化されていないのですが…。

A 各々の業務内容、基準の強化が大事と思われます。

Q 造園業界の免許のようなものがあるのですか。

A はい、州の消費者保護局が発行します。消費者保護局は、消費者及び雇用関係の保護を目的とし、100ドル以上の工事には免許が必要です。

米国ではメンテナンス業者とランドスケーパーは分離しており、メンテナンス業者は法律で保護されていますが、薬剤散布の規制には苦労しています。

ここで持参した日本庭園のハミリ記録映画を上映し、阪上会長があいさつをされました。

終了後、再び質疑応答が続きました。

Q フリーウェイの法面のつたについて、日照地と日陰では差がありますか。

A 一般には北側の法面の方がいいようです。

Q 入札の方法は？

A 公開指名入札です。これには市民権が必要です。

Q フリーウェイのつたの数量は非常に多いのですが供給の状態はどうなっていますか。

A 十分な供給能力があります。

Q 法面の急な所ではどのような処置をしますか。

A ビニール網で保護します。

Q 何年前からつたを使用していますか。

A 約10~13年で、サンディエゴフリーウェイが初めてです。

Q アイビーを法面のグランドカバーに使った場合のコストはどの位ですか

A 64本で3ドル57セントで m^2 当たり36本位用います。

Q 工賃はどの位ですか。

A 組合員、非組合員によって異なるが、一時間当たり約7~14ドルです。

Q m^2 当たり1,000円以上かかると日本では無理です。

日本でも防音壁につたを実験的にはわせる事が行なわれているが、コンクリート表面の高温に耐えられるでしょうか。

A 温度差はこちらでも40度位あります。

Q 零度以下まで気温が下がるのにバーム類はいいじょうぶですか。

A こちらでは亜熱帯植物が多いですから一でも中には失敗する事もあります。

Q ダイカンドラは日本では数年経つとはげて来るけれども、こちらはどうですか。

A 砂地に近い状態にして植込めば10年以上もします。

Q アフターケアはどうしていますか。

A 毎日、少量でもいいから水をやることが大事です。

Q 公共事業で発注される工事は造園工事については造園業者単独に発注されるのかどうでしょう。

A ほとんどの場合、ゼネコンが存在します。そしてそれの下請（サブコン）となります。

Q では、指名業者は特定の業者にしほらされているのでしょうか。

A ある程度の土木工事は業者によっては受けています。

しかし、ある程度規模が大きくないと公共事業は受けません。むしろ、民間工事の方が魅力があり、重点を置いています。

Q 一般のガーディナーは組合に加入していますか。

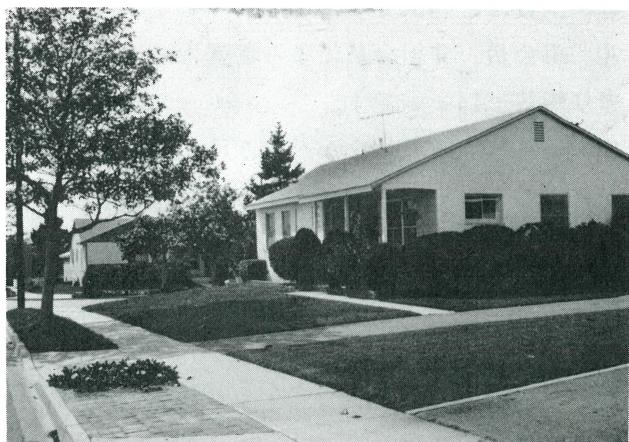
A 普通の労働者は組合には加入していません。

Q 労働力が不足した場合にはどのようにして調達するのですか。

A 大きい仕事の場合には組合員を雇用します。

Q バーミューダーグラスは多く使われているのですか。

A 南部地区に多いです。一般にティフグリーン



が多く、4種類あります。

Q 他にどんなグランドカバーが用いられているでしょうか。

A アフリカンデージー（紫と白の花）アフリカン、カレンジュラー（水が少なくてすむ）、カヨテ、ブッシュ等です。

Q 日本側業界の今後の見通し、そして日本と米国ではどの程度差がありますか。

A 荒地の緑化に官民一体となってあたっております。

最近は業者の数は増えましたが、不況のため工事高は減少しています。

Q 日本では公共事業と民間工事とではどちらの方が工賃が高くつくのでしょうか。

A 公共の方が安く、民間の方が高いです。

Q 日本では民間での工事が少ないので、公共事業もやらないと成り立っていきませんが、米国では民間需要があるので、ガーディナー業が成り立つんではないでしょうか。

A 民間の需要がおおいので公共事業には力を入れていません。

Q メンテナンスの受注の条件はどうなっているのでしょうか。

A 新規工事のメンテナンスはやりません。そして受注は1カ月単位でやります。

Q 米国では平均的に造園業者でどの位の規模であれば成り立っているのでしょうか。

A 20人位で年間約50万ドルの売上げです。

公共事業をやると、年間約150万ドルの売上げであればペイします。

Q 造園職人で5年間位の経験者はどの位の日給ですか。

A 日本では約7,000円～8,000円です。

Q 大学卒の者はどれ位ですか。

A 約9万～10万円です。

Q 店の者が独立してやっていく時にはどのようなになっているのですか。

A 現在では“のれん分け”的な事は行なわれていません。

Q 米国の場合、工事費に占める材料費の割合はどうなっているんでしょうか。また人件費、利益は？

A 材料費はだいたい3～4割です。

Q 雇用の条件などはどうなっていますか？

A 作業員の移動は多いです。契約の時の条件は別にこれといってありません。

Q 日本にはなぜ大きなナーセリーがないのです

か。

A 需要がそれ程ないと土地が狭いので……

以上で有意義なミーティングを終りましたが、最後に「日本の造園企業の中で米国で研修してみたいと思われる人がいれば、いつでもわれわれは受け入れる用意があります」

との心嬉しい挨拶を受けて解散となりました。

〈ロス市公園局の表敬訪問記〉

(株)イハラグリーン大阪支店 神山 一郎



9月15日、ロサンゼルス市公園局を表敬訪問…視察団より、三容興産、植捨組、竹中庭園、三芳園、イハラグリーンの5社が、市役所におもむき、公園局ジョーンHワード責任者に面会するこどが出来ました。

ロス市の年間予算120億円、この内、新設工事に15億円、維持管理に105億円が使われ、工事は業者に発注、管理は市職員約1,000人で、直営方式をとっている等々、いろいろ親切な説明をいただきました。

当視察団では組合当麻理事長より表敬訪問記念として楯を贈呈しておわかれしました。

またこの地ではカリフォルニア州立大学の上杉助教授の御案内により、終日有意義な視察が出来ましたが、時間不足が心残りで、もう一度ゆっくり視察したい念にかられました。

アンバサダー大学（キリスト教の短大）は、緑でおおわれた校内、日本式の流れ庭園、西洋式庭

園を見学しましたが、とりわけ目についたのは地被類として、デイコンドラが禿げることなく、よく繁茂していたことです。

施工の時ピートを多用し、灌水設備があることが、よい結果をもたらしているようです。

維持管理はすべて学生が行なっています。

サン・ギャブリエル・ナセリーは、ロス市のすぐそばで、植木はすべてポット仕立て展示即売され、更に園芸用資材も多種多様のものがおいてありました。

特に目立ったのは、カラフルな鉢類等豊富に陳列され、インテリヤに大いに利用されていることでした。

ピート、肥料類、農薬では硫酸、ニコチン、ベンレート、キャプタン剤が目にとまりました。

ノザキ、ヤスタテ各ナーセリーはロス市の近郊で、高圧電線の下にある空地を利用してます。

ヤスタテナセリーは、約40万m²の面積に、350種類、年間300万鉢を生産販売し、その80%は州外、アリゾナを販路の大半としていて、従業員は55名（メキシコ人）が多いです。

鉢に植込んで7～8カ月で売れるよう努力しているとのこと。

挿木によって作られた木は、それぞれの用途にわけ、1～5～15ガロン用以下の空缶、または木製鉢に植込まれて養生されます。

アメリカでは、官民をとわず、取引のすべては

鉢の大小が規格であり、樹木の形状寸法は無関係とのことでした。

要するに植込む後の成育に重点がおかれているのです。

従って、いかに軽く作り、コンテナーにより多くの鉢を積込み輸送するかが経営上の問題になっています。

これら鉢用の土は、ピートモスまたはオガクズ2対1の配合割作で作られていました。

邦価で1ガロン鉢が75~85セント、5ガロン鉢は2ドル75セント内外、15ガロン鉢は15ドル位で消費者渡しはその2.5倍、卸値1.5ドルを越すと3倍位のことでした。

●『東南アジア研修旅行』

●昭和55年10月2日~6日

●参加人員24名

●マレーシヤ、シンガポール

〈緑化事情を訪ねて〉

(株)植捨組 研修旅行団団長 阪上 秀雄

昭和41年11月、当組合は第1回の海外研修団を組織して広く世界に交流を求め、技術研鑽と緑化事業視察の目的で、万国博覧会開催地モントリオール（カナダ）ニューヨーク等各地を歴訪したのを皮切りに、機会を求め、欧州各国に、アメリカ西海岸及びハワイにとび、新しい時代に対応すべく研鑽して来ましたが、此の度組合創立15周年記念事業の一端として、第4回目の海外研修団は24名の参加者で編成され、緑化事業視察団として10月2日4泊5日の予定で、大阪空港から一路緑と太



陽の国、マレーシアのクアラルンプールへと飛び立ちました。

国際都市クアラルンプールを象徴する美しい大きな公園、緑の芝生にかこまれた二つの湖があり、近くには迎賓館や白亜のモダンな国会議事堂などが点在し、国立博物館ではマレーシアの歴史、文化、風俗、芸術の資料が展示されているといわれています。

バーツ洞窟とヒンズー教の仏像を拝し、世界最大の錫の露天堀りの雄大な採取場を見学、南国の花々や果実林やゴム園が長々と続きます。

新しく開発されたという椰子油採取用の椰子園が美事に整然と植付けられ、その巨大な姿はやきつくような太陽に向かって力強くそそり立っていました。

自然の美しさと神秘を堪能さすスケールの大きさ、変化とスリルに富んだ自然をとり入れた公園の規模は、私達緑化事業にたずさわる者には何とも言えない魅力がありました。

「ガーデン・シティ」と呼ばれるだけあって、一年中緑の芝生と熱帯樹が茂り、島全体が公園都市のようだといわれるシンガポールは淡路島程の島国であり、私達の組合と同じく建国15周年を迎



えたのであります。

1965年、マレーシア連邦から独立して完全な主権国家となりました。

底抜けの青い空、風そよぐ緑の熱帯樹、ちりひとつ落ちていない清潔なペーブメント、近代的な建物がそびえ立つという希望にあふれた商業都市です。また最大の目抜き通りオーチャードロードは美しくタイル舗装され、タバコの吸がらひとつ落ちていないし、緑樹が深々と影を落し、美しい花が咲きこぼれていました。そしてベンチやカフェテラスでは、各国の観光客が楽しく語り合っているというほほえましい街でありました。

32ヘクタールのボタニックガーデンには、3千種を超える樹木が茂り、色とりどりの蘭の花が甘

い香りを放って咲き乱れています。マウント・フェバーに登ると市街、港湾がみどりの中に浮かび上り、緑化政策が高い水準で実施され緑の中の街づくりに励む国民一人一人の努力が窺われたことでした。タイガーパームガーデンやジュロンバードパーク、中国庭園、日本庭園等、緑の美しい環境は、数えればきりがないくらいですが、その詳細は、またの機会に紹介したいと思います。

街に緑ではなく、緑の中に新しい街づくりをと恵まれた緑と太陽のもとに着々と建設される常夏の国シンガポール。230万国民の熱意と努力に敬意を表すると共に今回の海外研修における見聞が、今後の国土緑化の事業に微力ながら貢献出来得れば幸甚の至りと存じながら筆を止めます。

〈研修旅行に参加して〉

(株)庭樹園代表取締役 当内 勲

じめっとした熱帯地方特有の気候に迎えられ、台湾経由、シンガポールで乗換え、約10時間の空の旅は無事目的地のクアラルンプールに到着しました。

当初の予定では、19時40分に着く予定でしたが、シンガポールで飛行機の整備不十分で1時間以上出発が遅れ、ヒルトンホテルに着いた時は、現地時間22時近くになっていました。

日本とは時間差が1時間半あた日本時間でいうと23時30分となるのです。

皆なれない海外旅行の手続と長時間にわたる空の旅で疲労し、早速、各室に分散したのでした。

翌2日目は朝7時にモーニングコール。前日は夜遅く到着したのでホテル付近の様子はわからなかったが、ホテルからの朝の展望は日本の景色とは一転し、緑にかこまれたというよりも、ジャングルに覆われたと形容する方がぴったりで、うっそうとしたヤシやゴムその他熱帯樹の森が開け、目の前には競馬場の芝生がまぶしい程グリーンに映え、2、3頭の馬を調教しているといったエキゾチックな景観で、前日の疲労もいっぺんに吹飛び、今日の行程でどんなすばらしい所が見られる

かと、みな元気いっぱいありました。

9時、地元観光業者のガイドと共にバスで出発、レイクガーデンに向いました。

ここはクアラルンプールを象徴する唯一の美しい大公園で、緑の芝生と二つの湖とがよく調和し、近くにはモダンな国会議事堂や迎賓館があり、あたかも緑の中に浮び上った宮殿のようで、立派な建物がありました。





また、広大な公園内の道路や芝生の中にもゴミひとつ見当らない程に清掃され、芝生も芝刈除草が行届いてよく管理され、一部では肩掛け草刈機で除草している姿も見られましたが、我々の商売上「管理費がたいへんだろうな」と皆で話合ったことでした。

レイクガーデンの入口付近には国立博物館や国家記念碑などがあり、ここでは現在のマレーシアになるまでのポルトガルとかオランダ、イギリス等の植民地支配から独立し建国するまでの国民の苦労の程もしのばれたのでした。

その他の施設では国立回教寺院、大統領官邸などを見学し昼食の予定場所、竹葉亭に向いました。

さて、ここの庭は日本料理店というイメージを強調するために造られた池を中心とした庭で、駐車場から料亭玄関までのスペースに池を堀り、玄関へは橋を渡って左右の庭を見回しながら入ってゆく日本的な庭なのです。

池の石は日本のように豊富ではなく、現地の石とか台湾石で石組され、樹木は主に竹を使用していましたが、日本の料亭のように滝組より水を流し、池を清くして魚でも泳がしておれば、更に庭も立派になるのにと、後の管理の悪いのが残念に思われたのでした。

おかみの話では、駐車場拡張のため、一部の庭を取りこわしたこと、造られた当時は、もっと奥行もあり立派であったろうと想像した次第でした。

竹葉亭で昼食後、ジャヤ・プリンスホテルの庭を見学に参りました。

ここも竹葉亭と同じく、中根金作先生の作庭で“庭”的52号にも紹介された石を主体とした庭です。

玄関ロビー前の庭は枯山水の庭で、台湾石と白砂利と芝生で明るくあっさりとした庭でした。

作庭当時の写真を見ると、もっと奥行があり、変化もあったようですが、樹木が大きくなってしまい、見えなくなっていました。

グリル前の庭は滝を主体に流れを造り、池に落す石組で、石は台湾石を使用した日本庭園です。

庭を造るに当って、現地のインド造園家をつかって作庭されたとのことで言葉は通せず、また日本庭園など見たこともなく、ましてや石など取扱ったことのない現地人を使って、この様な立派な庭を造られたには、さぞ大変なご苦労があったと感じました。

日本とちがい、四季の変化もなく、1年中生長している樹木などは、竹葉亭の竹にしろ、ジャヤ・プリンスホテルの樹木にしろ、当時造られた時の何倍かに成長し、我々専門家が見た場合、何か荒れてた感じを受けると同様、熱帯地方での樹木の管理のむづかしさを感じたものでした。

この様な地方での日本庭園は、シンガポールの星和園のような広大な敷地で、国の管理で専門の技術者が常駐している環境でないと何時迄でも日本庭園のよさが維持できないと思います。

しかし、少し荒れてはいたが、竹葉亭の庭は、現地に就任している日本人にとっては、庭の石組や燈籠など、日本庭園に接し、異国にあって心の静まるものがあると思います。

ジャヤ・プリンスホテルの見学を終え次は郊外のバーツ洞窟やゴム園、ゴム工場に向いました。

バーツ洞窟への途中、世界最大の錫の露天堀鉱、ホンファット鉱山を訪れました。

マレーシアは世界一の錫の生産地で、広大な鉱山には堀り出された白い地層が露出しており、ど

の様にして錫が出来るのか、製造工場を見学して見たく思いました。

バーツ洞窟は切立った岩場に掘られた洞窟で、273段もの階段を登り、洞窟の奥にはヒンズー教の仏像が安置された古い遺跡で、今なお多くの信者があるとのことでした。

帰路でゴム工場やゴム園を見てまわりましたが、特に今回の研修で目にしたのは、日本と違い地震のないマレーシアではビルの建築はいたって簡単な構造で、特に柱の細いこと、鉄筋等を少ししか使っていないので、これでよくもつものだと関心したものでした。

また、民家の近くには熱帯地方特有の自然の恩恵でマンゴー、パパイヤ、ココナット、ドリアン

等の果樹類が豊富に出来、何の苦もなく食糧が得られるためか、現地の人々は至ってのんびりしている様でした。

今回のマレーシアの研修は一日しかなく、クアラルンプールの一部しか見学出来ませんでしたが、研修旅行を終え、先づ感じることはマレーシアとシンガポールの格差の大きいことでした。

例えば、シンガポールの街は公園にして街路にしろ、住宅にしろ世界一美しく整備され、建築も進み活気あふれる先進国であるのに対し、マレーシアは街並を見ても住宅や人々の生活など、どれをとっても何十年も遅れていると思われますが、然し自然の恩恵に浴す現地の人々にとっては、天国にちがいありません。

●『欧洲の造園視察』

●昭和58年6月5日～19日

●西ドイツ（ミュンヘン）、ギリシャ（アテネ）、スペイン（マドリッド）、フランス（ニース）、スイス（ルツェルン、インターラーケン、ジュネーブ）

〈欧洲の造園視察に参加して〉 (株)竹中庭園 竹中 栄治

組合事業として10年前に開催された西ドイツのハンブルグで行われた I G A (国際造園博覧会)に参加して、はや10年が経過しました。今年同じく西ドイツのミュンヘンで行われている第4回国際造園博覧会に組合事業として視察旅行を行う事に役員会で決定し、13人（ご夫人4人）の応募者があり出発する事になりました。期間は6月5日から6月19日までの15日間の予定でした。

今回は10年前に回ったコースを省いて違ったヨーロッパを視察することになり、先ず西ドイツのミュンヘンで2泊し、I G Aを見学してギリシアのアテネに3泊。アテネからスペインのマドリッドに飛んで2泊。マドリッドからフランスのニースに行き、フランスの造園業者との懇談会を持ち、2泊した後スイスのルツェルンで1泊、アルプスのユングフラウヨッホを観光してインターラーケン

に一泊しジュネーブで最後の夜を過して帰国するという一般のヨーロッパ視察旅行とは一味趣きを変えたコースを選択した次第です。

6月5日組合関係者の方々の多数のお見送りを受けて10時30分のキャセイ航空南回りで香港に向ったのですが飛行時間は北回りと全く同じだという近畿ツーリストの話でしたが、伊丹から台北、台北から香港に着き約4時間の待時間を利用して香港市内見学。香港からはルフトハンザ航空でバンコック→カラチ→フランクフルトと経由しましたので実質20数時間かかり、大変疲れて先行きが心配されたのですが、一行お陰様で元気にミュンヘンに到着する事が出来ました。

到着後直ちにミュンヘンの市内見学に移ったのですが、生憎の雨でしたが午後からは晴れ上り、その後の旅行中ではニースで短時間、一度小雨に



見舞われただけで後は全くの快晴。

本当にいろいろというか快適な旅行を楽しむ事が出来ました。

I G Aについては関西造園土木(株)の花房氏が詳しく書かれると思いますが、全体の感じとしては10年前のハンブルグでのI G Aと比較して非常に規模も大きく(総面積72ヘクタール)内容も充実されているという事が強く印象づけられました。経費も225億円程かけた由で、その成果が端的に表われている感じでした。

ただ草花関係が春咲きの後の端境期で、秋咲用の草花との植替えの最中でしたのでゴージャスな草花の密植にお目にかかりなかった事が残念でした。

会場内には大木6,000本、中灌木10万本、総て新植した樹木がほとんどという事でしたが、1978八年ごろから造成準備に着工した由で、樹木がかなり落ち着いている感じでした。造園出展は日本を含めて25カ国との事ですが、地中海庭園には余りに見るべき物が少なく、私共にはやはり中国、日本の東洋造園の方が造園技法としても卓越したもの

のがあると再認識したような次第でした。

ニースでは最大手の造園会社カステリー社を訪問見学しましたが社長及び専務の歓迎を受け、お二人のご案内で同社の農園及び施工された造園を見学させて戴いた。

従業員約30人位で年商は約8億円という事でしたが社長は叩き上げの造園家という感じで職人気質の氣骨のある方でした。造園手法としては地中海庭園の特徴ある造園設計でしたが、やはりカラフルな草花を多量に灌木がわりに使用されている点で非常に明るい開放的な感じがしましたし、また、植栽樹木も亜熱帯系統のパーム類が多く、芝生のグリーンと良くマッチしている点が強く印象づけられました。

ただ石組み等は地中海地方特産の石灰岩系統のものを無造作に積み重ねた感じの物が多く、もう少し石組みに配慮と技術が欲しいという感じがしました。

ただ石組みの間に草花を適当に配植してありますのでそれでカバーしているというような感じでした。施工箇所の中で分譲別荘住宅の造園工事を見学し工費について質問したところ約3千万円位という事で、日本と工費の点についてもそう大差なく変わらないなという思いが致しました。

おみやげに万博日本庭園のパンフレット等を持参してプレゼントしたところ、大変喜ばれ、東洋造園、特に日本庭園の美しさに造園家として大変興味を持っていると、熱心に見ておられたのが強く印象に残っております。

〈「I G A 83」を訪ねて〉

関西造園土木(株) 花房 彰雄

10年に一度、緑のオリンピックと、銘打って開催されました世界最大の国際造園、園芸展を視察する機会を与えて頂き、この上ない体験と、多くの新しいものを発見できた事は、何かすばらしい個人的財産を得たような気持ちで、今日現在もいっぱいです。

さて、20時間余りの飛行機の長旅も、西ドイツ、バイエルン州の首都、ミュンヘンに降り立った瞬間には、疲れは消え、夢は一層大きく「新しいものを、いっぱい見つけるぞ」と私の胸はふくらんだものでした。

南ドイツの文化、交通、商工業の中心地、ミュ

ンヘンは多くの名所旧跡、たとえば広大な庭園を誇るニンフェルブルグ離宮、そして美術館、博物館等が市内に数多く存在し、一回の訪問ぐらいでは、とても見尽くすことはできないとのことでした。ともあれ、何といっても好ましいのは、天下周知の美味しい「ミュンヘン・ビール」です。西ドイツの紹介は別稿にあるようですので、今回の視察のメインイベント、IGA'83の様子を紹介させていただきましょう。

正式名称を「IGA'83」(International Horticultural Exhibition)と呼ばれる第4回国際造園博覧会は、10年に1度、西ドイツ各地で開催される国際的イベントです。会場はミュンヘン市の南西部に位置し、10月にビール祭りが行なわれるという、オクトーバーフェストの隣の住宅地の中になります。面積は72万m²という広大な敷地で、その中に延べ2万m²に及ぶ室内展示場や庭園、花壇、植樹面積はなんと20万m²、そして遊園地が3万m²といった概要です。また会場の中には、IGA電車と称して、一周6kmにわたりミニ電車が走っているのです。駅が5カ所もあるのでわれわれ見学者にとっては、大へん楽に数多く見学することができました。

さて今回のIGA'83の最大のテーマは「世界庭園」ということですが、これは4つの基本テーマ（国際性、都市の中の自然と樹木、緑を中心とするレクリエーション）をベースに会場が組立てられているのですが、このうち国際性ということはかなりのウェイトが置かれ、25カ国が参加しています。

そこでまず最初われわれの目にとまったのは、各国独自の造園技術、建築及びその文化、生活環境の一端をすばらしく披露していたことでした。

特に中国、タイ、インド、ネパール、日本、いわゆる東洋の庭園ですが、欧州進出（出展）が初めてといわれる、中国の庭園には注目すべきところが多かったのでした。もちろんこの他にも国際の名にふさわしい、各国の樹木、花等の展示、ショーにも目を見はるものがたくさんありました。

しかし、何といっても第一番目のテーマよりも、われわれ施工業者としては、実質的に、知り、見るべきものは、第二番目に掲げている、「都市の中の自然」ということの重要性を考慮したいと思います。調和のとれたエコロジー、酸素供給源としての樹々、また、植物、動物、人間の生活環境、こうしたものを造り上げていく技術こそ、われわれに課せられた使命であると、痛感した次第でした。実際この会場のすぐ近くには、住宅街、交通機関がたくさんありましたが、あたりの騒音は一切遮断され、誠に静かな会場であったのでした。というのは、72万m²の土地は、もともと平坦な土地であったらしく、それを真ん中の部分を掘り下げて、池、流れ、沼等を造り、その掘った土を両側に盛り上げて、周りは山というか堤防のようにし、これによって周辺の騒音を、遮断していたからでした。また、この盛土した山から池までの斜面を利用しての庭園、植樹技術は、わが国と立地条件の違いこそあれ、大いに関心の寄せられることがありました。そして、この博覧会終了後は、この地区の住民20万人のための公園として、緑の保養地として利用されると聞きました。この他にも紹介すべき、多彩なテーマがいっぱいあるのですが、うまく整理もできないことは心残りです。

最後に、わが国のような過密住宅地区の公共緑地施設がわれわれの生活価値をどれだけ高めるかを思い知らされたのでした。

竹中庭園) 石崎修一 (富松造園) 赤堀義則
(株植捨組) 沢田直行 (株昭和造園土木) 南光
勇 (南海地所株) 宮崎真佐宏 (宮崎弘樹園) 山中
均 (山中山樹園) 吉行三男、福本伸司 (日の丸
植物園) 菊田健八郎 (株大阪緑花) 曾我正昭 (東
大阪市公園協会) 田中恵一 (万苗園) 以上 33 名
訓練校の歩みは、毎年同じことのくりかえしと
いうこともできるので、冗を省いて昭和 52 年度
以降については、特に変わったことだけを記録す
ることとしたい。

即ち毎年 4 月に入校式、10 月ごろ職員・指導員・訓練生合同の見学研修会、1 月末技能照査実技試験、2 月に学科試験、3 月に修了式を行うと
いうパターンになっている。

●昭和 52 年度 第 5 期訓練校の記録

(S. 52. 4 — 53. 3)

■理事長並びに運営委員の更迭

組合理事長が当麻英夫氏から阪上秀雄氏に変更
になったので運営委員は次記のとおりになった。

■運営委員 阪上秀雄 (委員長)、当麻英夫、西
谷作太郎、坂上種博、木村源次郎、木山匡司、竹
中栄治、今里忠夫、辻 正俊、当内 熊、荒井好
昭、前田勝良の 12 氏

■講師と指導員

年度末 田治校長の逝去により加藤副校長がそ
の職務を継承した。

指導員は変更なく前年通り職務を遂行した。

■労働大臣表彰を受く

既に 136 名の技能士補を世に送った当校の母
体である組合に対し、技能者養成の優良事業所と
して、大阪府職業訓練課からの推せんにより 11
月 1 日 東京都千代田区霞ヶ関の久保講堂で開催
された第 7 回「全国職業訓練大会」において石田
労働大臣より功績表彰を受け、阪上理事長が上京

受理して帰阪し、理事会に報告後府職業訓練課に
も謝意訪問した。

■修了生名簿と所属

野村隆輔 (関西植木株) 寺本正義 (東光園緑化
(株) 大阪支店) 吉田和彦、津賀真一、中井末雄、佐
藤忠正 (稻治造園工務所) 森 秀雄 (株) 明治園)
植木信一、橋本誠二 (株) 植捨組) 松宮信幸、能田
孝明 (日の丸植物園) 阪上和彦 (作樹園) 阪上健
二 (幸楽園) 阪上一夫 (裁華園) 林 憲正、藤田
眞人 (三容興産株) 森田勝美 (日産緑化(株) 大阪支
店) 阪本貴美男 (ダイワ緑地(株)) 宮里朝和 (塚本
造園) 菅生屋 貢 (松美園) 中村 勤 (株) 大阪緑
花) 落合正和 (株) 京阪神グリーン) 山田武司 (株)
竹中庭園) 北野 悟 (植村高樹園) 東條一幸 (株)
岩辺園芸農場) 杉 茂典 (株) 三芳園) 西尾貢一
(深井園芸組合) 益田紘二 (自営)

以上 28 名

■敬弔 田治校長の逝去

昭和 53 年 1 月 7 日 訓練校設立以来、校長と
して非常な熱意をもって校務の運営と訓練生の指
導に当たられて来た田治六郎先生が逝去せられた。
誠に残念の極みであった。

●昭和 53 年度 第 6 期訓練校の記録

(S. 53. 4 — 54. 3)

■運営委員、講師と指導員の動勢

運営委員 阪上秀雄 木村源次郎 木山匡司
竹中栄治 坂上種博 (以上組合選出) 辻 正俊
岩辺 勝 田中正一 田口十三彦 荒井好昭 (以
上協会選出) 当内 熊 (常任指導員代表)
西谷作太郎氏 (4 月 16 日逝去)
当麻英夫氏 (9 月 13 日逝去)

講師、指導員と副校長の異動

田治六郎 (逝去) 赤瀬多佳雄 清水正之氏 (退任)

山本繁雄氏 (増補)

指導員は従前通りであったが 10 月 1 日付をもっ

て山崎太郎氏が参事、副校長となる。

■訓練生の募集と特別聴講生の承認

世相の反映か前年に比し 4 名を減じて 24 名（組合 13、協会 2、他 9）であったが、日の丸植物園主、三好武一氏の推せんによるセアー・ウッド・デン・カーカアマル君（パキスタン人 41 才）とサマー・ラール・セスター君（ネパール人 35 才）が特別聴講生として入校した。

両君は共に日本庭園勉学のため、外務省を通しての留学生であり、国際親善にも役立つものであった。

■修了者名簿と所属

木山 総、岡崎 靖（株）京阪神グリーン 川口隆臣（大阪造園土木）萬代芳三（株）西川造園 松原 修（植村高樹園）川田和久（三容興産）山本 弘（さくら商運（株）堺支店）田中貞夫（泉州緑化研究所）成田悟司（株）大阪緑化 久田 博（株）田中造園土木）米谷俊幸、今里 宏（関西植木）金岡多木三、畠中善夫、西村照代（株）西村植木）吉田一裕（吉田興産（株）造園部）藤田 勇（株）植捨組）上本一男、大下浦武雄（株）三芳園 中西 哲（中西園芸）山本利明（山本松樹園）上田晴夫（実生園）
以上 22 名

弔報

組合副理事長 西谷作太郎氏には去る 4 月 16 日、不幸病の侵すところとなりご逝去。

更に当年秋 9 月 13 日には当麻英夫氏が折角のご養生も甲斐なく、忽然としてご他界された。ご両所とも組合理事であり訓練校設立以来運営委員として鋭意指導を続けて来られた功労者であった。こゝに謹んで哀悼の誠を捧げ、永くその名をとゞめる次第である。

●昭和 54 年度 第 7 期訓練校の記録

（S. 54. 4 —— 55. 3）

■運営委員 講師、指導員の動勢

運営委員 阪上秀雄、木山匡司、坂上種博、木村源次郎、竹中栄治、辻 正俊、岩辻 勝、田中正一、田口十三彦、荒井好昭、当内 熊の各氏

講師 入江重悦氏の都合により加藤忠雄氏が製図の指導に当たられた外変更はなかった。

指導員 常任 7 氏外 17 氏は変更なく前年通り訓練生の実技訓練の計画、実施、監督を担当された。

修了者名簿と所属

上田喜一（株）大阪緑花 高橋洋介（株）田中造園土木）寺栖達也（関西植木）森口 誠、寺田彰（守口園芸）伊達清信（日の丸植物園）橋本学（株）山本定樹園）阪上 厚（朝陽植物場）野村清次（自営）大隅 豊（株）竹中造園）下中一志（植音造園）田畠正利（大阪造園土木）太田政孝（太田造園）柳 梯二郎（南海地所）阪上昭夫（（財）東大阪公園協会）上野茂樹（上野造園）
以上 16 名

尚、今期で修了者は計 202 名となった。

■第 1 期 二級技能士訓練課程開設

昭和 48 年以来、運営して來た養成訓練、（期間 1 ヶ年）の外、本年より新規に造園実務経験者を対象として知事の認可を得、13 日（100 時間）の短期訓練課程を開設した。

入学資格 高卒者で造園に 3 年以上（造園科卒は 2 年以上、または実務経験 5 年以上）

教科 造園及び公園 施工法 材料 製園 関係法規 安全衛生等

講師 現養成訓練担当の吉田、下志万、山本繁、三好、上山、加藤（忠）山崎の諸講師。

特典 修了者には「二級造園技能検定」の「学科試験」が免除される。その他建設業許可・雇用保険加入者には訓練派遣奨励金が支給される。

日程 7月7日（土）～9月22日（土）
13日間

尚、本課程は経験者と年令の関係もあり受講態度極めてよく真面目であったことから講師陣の好評を得ていたことを特記する。

■修了者氏名と所属

阪口正之、松島忠夫（南海地所（株）造園・芸センター）中山裕二（株）養樹園 森芳健次、野浦茂明（野浦造園）池田義一（三容興産）井上 保、北條慶次（西尾植物園）表谷正樹（株）阪南造園 森義博（泉北興業（株））榎本恵一（株）大阪緑地 大仲藤運（株）京阪神グリーン 酒本 一（株）大阪緑花 奥本正祐、福田 茂（株）関造園土木 中村保男（中村造園）永岡 彰（旭緑化建設（株））梶尾正、小坂源司（北攝興産（株））寺田 勝（株）ガーデンサービス 上野寛史（上野造園土木）住友達也（株）昭和造園土木 計22名

毅、川田正明、松本寿男、大阪清人 以上22氏

■大阪府 職業訓練大会で受賞

昭和55年11月21日、表記大阪府大会は、大阪府中小企業文化会館講堂で開催され認定職業訓練担当功労者として常任指導員 辻 正俊氏、認定職業訓練校模範修了者として、関西植木（株）、坂上民雄君（二期生）（株）岩辺園芸農場、村田信三郎君（三期生）が大阪府知事表彰を受けた。

■修了者名簿と所属

西垣敏明（株）大阪緑花 寺田徳四郎（株）ガーデンサービス 滝川徹人（ユキマサ造園）片山正雄（王子緑化（株）大阪支社）下別府信夫（株）大西東山造園 阪上 進（株）植捨組 伊藤寛司（有）ヒノマルナーセリー 福田 至（株）稻治造園工務所 松本好一（松本造園）岩崎博司（岩崎造園）木村昌治（川田正樹園）小浜勝範（財）東大阪公園協会 松井保明、田村 悟（株）竹中庭園 中西稔浩（近鉄造園（株））榎本和祐（南海地所（株））遠矢健二（さくら商運（株）堺支店）竹田彰三（株）阪南造園 以上18名

■第2期 二級技能士訓練課程の実施

期間 S55年7月3日～9月25日
会場 造園会館 3F

S. 55年度 2訓 修了生名簿と所属

木村 清 坂本雅昭（株）庭樹園 東本賢一（長美園）糸賀公一（株）寿造園 北尾 茂（平和造園）芝本隆司（芝本農園）神木健二（泉産業（株））杉田幸夫、平岡義昭、千田正明（寛樹園）田中一男（自営）前田一雄（株）大平緑化 稲垣 淳（株）泉州緑化 上尾 眞（上尾農園）井畠敬一（井畠造園土木）沢野賢次（沢野園芸）澤野一彦（澤野園芸） 以上17名

■第1期 測量 丁張実技講習会の開催

訓練法に基づく技能向上訓練課程で造園機械基本作業コースとして表記訓練を実施する事になった。

■ S. 55年度 二級技能士訓練課程学課担当表

日 時	9 : 00 ~ 12 : 30	講 師	13 : 00 ~ 16 : 30	講 師
7月3日(木)	入校式 安全衛生	山崎	造園の意義 様式変遷	吉田
" 10"(木)	関 係 法 規	山崎	庭園 庭園の施設	吉田
" 17"(木)	器 工 具 段 取 り	山本	公園 の 発 祥 分 類	吉田
" 24"(木)	自 然 公 園	吉田	段 取 り 工 法	山本
" 31"(土)	施 工 法	山本	都 市 公 園	吉田
8月2日(土)	関連工事の種類 工程	下志万	施 工 計 画	山本
" 7"(木)	都 市 公 園	吉田	関連工事 の 施工法	下志万
" 21"(木)	造 園 植 物 材 料	三好	造 園 植 物 材 料	下志万
" 23"(土)	施 工 計 画	山本	造 園 植 物 材 料	三好
" 28"(木)	石 材 そ の 他 の 材 料	上山	製 図	加藤
" 30"(土)	造 園 植 物 の 管 理	下志万	製 図	加藤
9月4日(木)	測 量	加藤	関連工事用材 料	上山
" 11"(木)	測 量	加藤	学科補習 学科試験	山崎
" 25"(木)			修 了 式	

●昭和56年度 第9期訓練校の記録

(S. 56. 4 —— 57. 3)

■組合役員の更迭

本年5月29日の第16回通常総会で任期満了に伴い役員が改選され、新理事長として竹中栄治氏副理事長には坂上種博、今里忠夫氏が選任された。また、阪上前理事長及び木村源次郎の両氏は相談役として従前通り訓練校のため尽力されることになった。

■運営委員

講師 指導員の動勢

運営委員長に竹中栄治組合理事長が就任した外講師、指導員には異動がなかった。

■大阪府職業訓練大会で知事表彰を受く

S. 56年10月26日(月) 大阪市北区中之島SABホールでの大阪府職業訓練大会で認定職業訓練功労者として植村清一氏(常任指導員、植

日時 S. 55年11月12日(水) 19日(水)
26日(水) 12月3日(水) 4日間

会場 府営大泉緑地

講師 小林利二氏

指導員 広瀬豊弘(創景奄代表) 稲木 稔(株山都屋) 奥田正彦(株三芳園) 林 広一(東光園緑化株) 永井圭一(株稻治造園工務所) 倉内健治(株庭樹園) の各氏

修了者 22名

■第1期 設計製図実技講習会の開催

これまた、造園基本作業コースに属する主要な訓練課程であり、下記の様に実施した。

日程 S. 56年1月10日(土)17日(土)21日(水)
24日(土)28日(水)31日(土)2月4日
(水)7日(土)、8日間

会場 雇用促進事業団 関西技能開発センター

講師 吉田徳治、加藤忠雄、小山博通各氏

修了者 24名(組合12協会11外1)

村高樹園主) 同模範修了者として赤堀義則君(株植捨組)が知事表彰を受けた。

■修了生名簿と所属

阪上俊彦(株明治園) 浅井敬司(植村高樹園)
増井 勉(岩辺緑化建設(株)) 林 健一(株大西東山造園) 前田 勉(日産緑化(株)大阪支店) 松本史也(株国光園) 仙石清和(南海地所(株)) 斎藤由信(株青紅園) 上野伸幸(さくら造園土木(株)) 池内鶴秀(植忠造園) 北尾 肇(中秀造園) 福永栄一(植福造園) 阪上賢一(株東樹園) 大塚達男、東川 伸(守口造園土木) 菊川照雄、福本修司(有ヒノマルナーセリー) 脇本 肇((財)東大阪公園協会) 溝上 徹(植留造園) 福西貫也(株稻治造園工務所) 以上 20 名

■第3期 二級技能士訓練課程の実施

本年をもって3回を数える表記訓練(造園科100時間訓練)は7月8日から始まり9月19日(土)に終った。

修了者 20 名

訓練生名簿と所属

植村良英(大阪造園土木(株)) 大角 勝、大角光雄、大角ヒロ子(株京阪神グリーン) 西尾浩次(株大阪緑地) 広岡 彰(広岡造園) 茨木和幸(株茨木春草園) 大崎健勇、山本文男、西谷政孝(株関造園土木) 大中三栄子(大中造園) 奈須正典、井上成夫(奈須造園) 明石勝美、福田文哉(明石興業(株)) 植田良昭(植田造園) 松本 充、浜田速稔(株タイキ) 速水 清、中川澄夫(株中野造園) 20 名

■第2期 測量 丁張技能講習会の開催

日時 S. 56年10月17日(土)～28日
(水)、4日間

会場 学科は造園会館、実技は大泉緑地

講師 小林利二氏

指導員 広瀬豊弘、稻木 稔、奥田正彦、林廣一、永井圭一、倉内健治の諸氏

修了者 46名(初習21、中習25)

■第1期 造園土木工事実技講習会の開催

日程 S. 56年11月11日(水)～20日
(土) 学科及実習 6日間
場所 府営、服部緑地及び大泉緑地
講師 山崎 清(大阪府北部公園事務所工務課長) 松島光明氏(同南部公園事務所工務課長)
修了 20名

■第2期 設計製図実技講習会の開催

日程 S. 57年1月9日(土)～2月3日
(水) 8日間 64時間
場所 関西技能開発センター
講師 吉田徳治、加藤忠雄、小山博通各氏
修了者 24名

●昭和57年度 第10期訓練校の記録

(S. 57. 4—58. 3)

本年は昭和48年開校以来、10年を重ねた記念すべき年である。依って、年度末には記念式典を開催して祝ったが、訓練は例年の通り行われた。

■講師 荒木芳邦氏に代わり石田 猛氏(元大阪府立園芸高等学校教諭)新任として黒田和雄氏(大阪府北部公園事務所長)山本 讓氏(大阪府東部公園事務所長)の2氏が参加され、計21氏となる。

■修了式

日時 昭和58年3月15日(火) 15時
場所 造園会館 3F
修了生 20名

■修了者氏名と所属

松岡繁行(株植捨組) 浜田洋光、寺口長雄(有ヒノマルナーセリー) 小池武司(小池園芸) 若生武(株若生商店) 長柄宏和(東光園緑化(株)大阪

支店) 山田吉弘 (関西植木(株)) 安井宏昭 (株)興陽造園) 松本正幸 (株)渡辺緑化メンテナンス) 向井幸生 (株)大西東山造園) 大仲甚太郎、松村正男 (西尾植物園) 辻仲隆典 (松本造園) 阪上久人 (植福造園) 竹川雅祥 (竹川園芸) 寺田和男 (株)竹中庭園) 津田慎司 ((財)東大阪市公園協会) 山中芳夫、石田純史、樋口雅一 (株)山中徳樹園)
以上 20名

■開校 10周年記念式の開催

修了式に引き続き会場を移して挙行した。

日時 同日 17~19時

会場 東急イン (北区堂山町 2-1)

参加者 修了式参列の来賓、講師、P.T.A.会員、指導員及び、第1期以来の修了生代表各期2名宛招待

記念式典

挨拶 竹中理事長 経過報告 加藤校長

感謝状贈呈 講師 森 忠文、前窪伸雄、中根金作、下志万嘉彦、吉田徳治、奥野孝夫、山本隆一郎、三好武一、上山正二、荒木芳邦、木村源次郎、小山博通、小林利二、宮崎研一、山本繁雄、山内六郎 の諸氏 (所属略)

指導員 松岡啓恵、高田秀雄、石岡喜代磨、高橋正輝、北尾喜深和、辻本巳之介、当内 肇、広瀬豊弘、林 宏一 の各氏 (所属略)

表彰状贈呈

校長加藤亮太郎、教育主任大八木武夫、常任指導員、阪上秀雄、辻 正俊、岩辻 勝、植村清一、西富義夫、当内 熊、森 敬介 (所属略)

上記の様に記念式典を終わって祝賀会に移り一同歓をつくして 19時散会となった。

■第4期 二級技能士訓練課程の実施

昨年に引き表記訓練は次の様に行われた。

修了者 13名

場所 造園会館 3F

講師 山崎、吉田、山本、三好、加藤、上山
以上 6氏

■二級技能士訓練課程修了生名簿と所属

西野秀夫 (株)大阪緑地) 城島 勉、堀井進一、松本隆則、森岡峰男 (株)オージー産業) 松井真盛 (株)河内造園ランドプラン) 出口哲雄 (石切運送(株)) 橋本 守 (有)ヒノマルナーセリー) 和上賀一 (泉美興業(株)) 長嶺敏成、高倉清市 (株)土井庭苑) 有馬 薫 (山中山樹園) 福田陽一 (クラレ緑化産業(株)) 計 13名

■第1期 竹垣、つくばい施工実技講習の開催

日時 S. 57年 8月 18日・19日 2日間16時間

場所 東大阪造園石材事業協同組合敷地

指導員 植村、当内、川田、川端各氏

修了者 39名

■第3期 測量 丁張技能講習会の開催

日時 S. 57年 10月 17日 (土) ~

27日 (水) 4日間

場所 造園会館 3F 学科 (1日間)
大泉緑地 実技 (3日間)

講師 小林利二氏

指導員 広瀬、林、奥田、宮本、稻木、合田、山口の諸氏

修了者 45名 (初習 26、中習 19)

■第2期、造園土木工事実技講習会の開催

日程 S. 57年 11月 6日 (土) ~ 19日

(金) 4日間

場所 造園会館 3F

講師 山崎 清 (大阪府、北部公園事務所工務課長) 山田剛二 (ヤンマー農機(株)建機営業部主任) の 2氏

修了者 22名

尚、この講習会修了者には「大阪府知事証明の修了証書」及び「車両系機械運転技能特別修了証」が交付された。

■第3期 設計製園実務講習会の開催

日程 S. 58年 1月 8日 (土) 2月 5日 (土)

各日 9～16時半まで 8日間
会場 造園会館 3F
講師 吉田徳治、加藤忠雄、小山博通の3氏
修了者 23名

●昭和58年度 第11期訓練校の記録 (S. 58. 4～59. 3)

10年をもってひとくぎりとする通念からすれば、改めて新規進発の年とも云えよう。

本校の母体である組合も年度始めに第18回通常総会を開催し、新旧諸事業が検討されたが役員改選も行われ、これに伴う訓練校運営委員も一部の変更を見た。

■運営委員の新組織

委員長 竹中栄治 委員 坂上種博、今里忠夫、稻治 清、辻 正俊、岩辻 勝、関 春夫、森 敬介、当内 黙、西富義夫、奥野 正
以上 11氏

■講師 本年度における講師陣は前年と変化なく、予定通り学科の指導に当たられた。

■指導員 前年と変わりなく、たゞ一部指導員の臨時補充として 宮本歳一(株)稻治造園工務所)、前原謙一、東田福一(岩辻緑地建設株)の各氏に出動願った。

■養成訓練生の募集

前年通り、組合、協会を中心として連合会その他に呼び掛けて募集した結果、26名が入校した。

■訓練の経過

養成訓練は例年の通り予め設定された年間カリキュラムに従い、多少の組替はあったが概ね順調に進行し、年中行事たる講師・指導員・訓練生の合同研修も行われた。

■修了生氏名と所属

西村康弘(株)西川造園 藤本隆之(株)昭和造園
土木) 安井昭治、前田幸兵(前田総合緑化) 今岡
頌(株)田中造園土木) 樽井修二(樽井造園) 鎌
谷定信(大阪造園土木) 小野義夫(株)若生商店)
西井嘉伸、島井 聰(有)ヒノマルナーセリー) 奥
井光次(奥井造園) 江南 徹(ナニワスレート) 株
今里栄一(今里天晴園) 岩辻伸元(岩辻緑地建設
株) 上内良文、吉田啓嗣(株)関西テック) 松藤新
蔵(さくら造園土木) 松本 敦(株)植勘) 小塚
聰(財)東大阪公園協会) 松浦岩夫、長谷川清
巳(南海地所) 石橋隆史(緑園) 山本洋文(株)
大西東山造園) 柳本重之(柳本造園)

■第1期 一級技能士訓練課程の開設

訓練制度の進展に伴い本年度から従来の2訓に代わり表記訓練が実施される事となった。

入校資格は次表の通りである。

受講者の経験年数、年令、期間等諸般の条件を考慮の上、カリキュラムを作成し、適任講師を依嘱して学科訓練に備えた。

■入校式と経過

日時 7月13日(水) 9時

場所 造園会館 3F

経過 当日定刻、山崎副校長により開式
加藤校長の挨拶の後、直ちに学科が始まったが、このコースは比較的高年令者が多く、(平均39才) 何れも真面目に受講した。

かくて9月10日、学科補習があり、学科訓練を経て短期講習を終わった。

修了生氏名と所属 新吉 晃、木村泰三郎(株)
竹中庭園) 中嶋 昭(中嶋造園) 西口勝巳(古睦
園) 森 正志(三宅造園) 山口義信、益田勇夫
(株)渡辺緑化メンテナンス) 西村 新(恒新造園
(株)杉田忠夫(植忠杉田園芸) 吉川義一(日産緑
化(株)大阪支店) 北中直哉(北中造園) 高岡 保
(高岡造園) 北尾 博(北尾造園) 井畠敬一(井
畠造園土木) 東本賢一(長美園) 高岡 豊(豊樹

区分	2級技能検定の受験に合格した後	左記以外の場合
普通訓練課程の養成訓練修了者	4年	9.5年
大学卒業者(4年生)	5年	8年
高校卒業者(造園科)	5年	10年
高校卒業者	5年	12年
実務経験のみの者	5年	14年
職業訓練指導員免許者	0年	2年

1級技能士訓練課程訓練実施計画表

月日	午前		担当講師	午後		担当講師
	9:00~12:30			13:00~16:30		
7月13日(水)	入校式	安全衛生	山崎	造園の意義	造園の様式と変遷	吉田
"16"(土)	関係法規		山崎	庭園	庭園の施設	吉田
"20"(水)	自然公園		伊藤	公園の発祥	分類	吉田
"23"(土)	都市公園		山本	器具	工具段取り	川上
"30"(土)	工法		川上	施工	計画	山本
8月3日(水)	工法		川上	施工	計画	山本
"6"(土)	関連工事の種類工程及び施工法		伊藤	造園	植物の管理	三好
"10"(水)	関連工事の種類工程及び施工法		伊藤	材料	(石材その他)	上山
"24"(水)	材料(植物)		三好	材料	(石材その他)	上山
"27"(土)	材料(植物)		三好	仕様	及び積算	小山
9月3日(土)	製図		加藤忠	仕様	及び積算	小山
"7"(水)	製図		加藤忠	測量		加藤忠
"10"(土)	学科補習		山崎	学科	試験	

2日間 16時間

園) 高岡勝弘(高岡造園) 以上17名

■第1期 積算実務講習会の開催

日時 S. 58年7月4日(月) 5日(火) 6日(水) 3日間(24時間)

場所 雇用促進事業団関西技能開発センター
講師 辻正俊、梅沢清太、西富義夫、安藤則道、小山博通の5氏

修了者 25名

■第2期 竹垣 つくばい施工実技講習の開催

日時 S. 58年8月18・19日

場所 東大阪造園石材事業協同組合敷地

講師 植村清一、川端安治、当内勲各氏

修了者 39名

■第4期 測量 丁張実技講習会の開催

日時 S. 58年10月15日(土) 19日(水) 22日(土) 26日(水) 29日(土) 5日間 40時間

講師 小林利二氏

指導員 林広一 稲木稔 坂上信明 山口英雄の諸氏

参加者 15名 (初習7名 中習8名)

経過 訓練方式として例年の様に初習、中習に分け、初習組は15、19両日は学科、22、26、29日の3日間は実技演習を行った。また、中習組は1日学科を少なくし、4日間とした。

技術修得には測量器械に可及的に馴染むことが必要であるが、この点今回も少人数であったことは幸であった。

■第3期 造園土木工事

建設機械運転技能講習会の開催

日時 S. 58年11月24日(木)より
4日間

学科 第1、第2日 造園会館 3F

講師 谷村、伊藤両氏担当により造園土木工事
(土木工学基礎) 16時間

第3日 造園会館 3F

講師 キャタピラー三菱(株)近畿支社教習所
大貫所長による造園工事用機械の構造と取扱について指導を受けた。 8時間

実技 第4日 茨木市下井町、同教習所で指導員数氏担当で車両系建設機械運転実技指導を受けた。 8時間

経過 本講習会は上記の運転技術の習得を目的としている関係上、日本道路協会発行の道路土木施工指針及び建設業労働災害防止協会発行の車両系建設機械運転者教本を全員に渡して教習の便とした。

尚、この訓練は機体重量3トン以上の車両系建設機械の運転に必要な資格を要することから引き続き開催の予定であるが、今回は特に在学中の普通訓練生のため、第3、4日の講習に全員参加させた。

更にこの講習は、向上訓練の一環として実施したので、認定訓練派遣等奨励給付金が支給される外、車両系建設機械運転技能講習修了証が交付された。 24名

■第3期 設計製図実務講習会の開催

日程 S. 59年1月11日(水)～2月4日
(土) 8日間 64時間

会場 造園会館 3F

講師 吉田徳治 加藤忠雄 小山博通氏

修了者 33名

●昭和59年度 第12期訓練校の記録

(S. 59. 4～S. 60. 3)

■運営委員 講師 指導員の動勢

運営委員 委員長 竹中栄治 委員 坂上種博、今里忠夫、稻治 清、辻 正俊、植村清一、関春夫、森 敬介、当内 眞、西富義夫、奥野 正、岩辻 勝 12氏

講師 校長 加藤亮太郎 副校長 山崎太郎
講師 中根金作、森 忠文、伊藤健司、吉田徳治、奥野孝夫、山本隆一郎、三好武一、川上弘道、石田 猛、木村源次郎、小山博通、小林利二、加藤忠雄、前窪伸雄、山本繁雄、山内六郎
以上 18氏

常任指導員 阪上秀雄、辻 正俊、岩辻 勝、植村清一、西富義夫、当内 真、森 敬介、指導員 松岡啓恵、坂上信明、高田秀雄、石岡喜代磨、高橋正輝、北尾喜深和、口丸伊佐夫、山口英雄、天川義博、高峰照幸、当内 肇、川田正明、湯浅孝光、広瀬豊弘、林 広一 以上 22氏

修了生氏名と所属

荒木庸作 (株)阪南造園 猪之間佐登司 (株)関西テック 西村 等 (恒新造園) 上尾俊和 (上尾造園) 澤田富男 (株)南海造園緑化センター 田中高士 (植村高樹園) 中川隆蔵 (菊水造園) 小林武俊 (若松造園) 和田芳美 (株)大西東山造園 森 祐文 ((財)東大阪公園協会) 段中康典、井畠勇人 (株)関造園土木 中尾浩之 (株)関西総合環境センター 岡村浩三 (大志園) 大角純一 (株)昭和造園土木 藤原幹二 (関西植木) 西岡功行 (有)ヒノマルナーセリー) 細見功一 (細見造園) 以上18名

■第2期 一級技能士訓練課程訓練の開催

前期の経験により広く各方面から募集したが、就学条件の関係から志願者は案外少なく15名であった。

訓練実施内容は前例に準じ、短期実効の方針によって推進した。

■修了者氏名と所属

稻垣 淳（株泉州緑化）藤井靖弘（藤井植物園）
高元一征（株タイキ）塙本義和（株関西総合環境センター）南川晴紀（株南海造園緑化センター）
薮 広司（植留造園）西植和永（西植造園）山下和男（山下造園）鳥山和重（井上造園）広岡 彰（広岡造園）松村 進（松村緑地建設）右梅孝次（北野園）井上 章（神於緑化土木）大屋嘉平（大屋造園）福山龍己（株阪南造園）

■第1期 病害虫防除実技講習会の開催

日時 S. 59年6月23日（土）～7月4日
(水) 4日間

会場 山西福祉会館（初日のみ）
造園会館 3F（3日間）

日程 講師 講義内容

6月23日（土）

午前 植木類を加害する害虫の種類と発生

午後 農薬による害虫の防除

6月27日（水）

午前 害虫の防除

午後 害虫の実物鑑定

講師 大阪府農林技術センター
主任研究員 木村 裕氏

6月30日（土）

午前 植木類に発生する病気の種類と伝染

午後 農薬による病気、雑草の防除

7月4日（水）

午前 病気の防除

午後 病気の実物鑑定と防除

講師 大阪府病害虫専門技術員 奥野孝夫氏

修了者 54名

奥野孝夫氏

■第2期 積算実務講習会の開

日時 S. 59年8月2日（木）3日（金）

4日（土） 24時間 3日間

会場 雇用促進事業団関西技能開発センター

講師 辻 正俊、石岡喜代磨、小山博通

安藤則道、梅沢清太、西富義夫

修了者 19名

■第3期 竹垣 つくばい施工実技講習会の開催

日時 S. 59年8月17、18日（土）

場所 東大阪造園石材事業協同組合敷地

修了者 37名

指導者 植村清一、当内 黙、辻 正俊

阪上秀雄、西富義夫、森 敬介、岩辻 勝

■第4期 造園土木工事・建設機械運転技能講習会の開催

日時 S. 59年11月20日（火）22日

（木）27日（火）28日（水）4日間

場所 造園会館 3F及びキャタピラー三菱

（株）近畿支社教習所

講師 高田誠二、神部四郎次、大貫昭夫、三村一夫の諸氏

修了者 29名

■第4期 設計製図実務講習会の開催

日時 S. 60年1月12日（土）～2月6日

（水） 8日間 64時間

場所 造園会館 3F

講師 吉田徳治 加藤忠雄の両氏

修了者 18名



都市緑化フェアに関する組合事業等について組合員集会を1回開催。本年度は大阪府・(財)都市緑化基金主催の緑化フェアが服部緑地において開催され、当組合は花の大通り、郷土の森、見本庭園、植木まつりをはじめ諸行事に協力するとともに、中之島植樹祭(都市緑化月間)に協賛を行なった。なお第1回全国都市緑化フェアについては別掲。

60・5・21 第20回通常総会(昭和59年度) 於
神戸市有馬町有馬グランドホテル 本年度実施する活路開拓調査指導事業のテーマについて組合員集会1回開催。さらに大阪市主催花の見本市に協賛して組合員10社が第1回花壇を出展した。花の見本市協賛の花壇出展については別掲。

●定款に定められた事業及び委員会並びに共同企業体構成

■定款に定められた事業

- ① 組合員の取り扱う農薬、工事写真等の資材の共同購買
- ② 組合員の行う造園工事の樹木調査、剪定枝処理等の共同受注
- ③ 組合員の事業の促進のための共同宣伝に関する事業
- ④ 組合員が必要とする造園会館の管理運営
- ⑤ 組合員の必要とする事業内職業訓練校の管理運営
- ⑥ 組合員に対する事業資金の貸付(手形の割引を含む)及び組合員のためにするその借入れ
- ⑦ 商工組合中央金庫、中小企業金融公庫、国民金融公庫、銀行、相互銀行、信用金庫、信用協同組合に対する組合員の債務の保証又はこれらの金融機関の委任を受けてする組合員に対するその債権の取立て

- ⑧ 組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上組合事業に関する知識の普及をはかるための教育及び情報の報供
- ⑨ 組合員の福利厚生に関する事業
- ⑩ 前各号の事業に付帯する事業

■委員会構成(昭和60年9月現在)

1、企画渉外委員会(7名)

委員長	(株)稻治造園工務所	稻治 清
副委員長	田中建設(株)	田中弘志
委員	(株)植捨組	阪上貞雄
	植村造園土木(株)	植村三郎
	(株)青紅園	中島美弘
	(株)西川造園	西川晴之助
	富士造園土木(株)	緒方 勉

2、事業委員会(7名)

委員長	(株)庭樹園	當内 默
副委員長	(株)田中造園土木	田中正一
委員	(株)大阪綠花	古川暢昭
	(株)辻本龍松園	辻本裕一
	(株)明治園	口丸伊佐夫
	(株)阪南造園	荒木忠雄
	(株)大西東山造園	大西新豊

3、技術委員会(7名)

委員長	(株)関造園土木	関 春夫
副委員長	関西植木(株)	今里忠夫
委員	岩辻緑地建設(株)	岩辻 勝
	内山緑地建設(株)	
	大阪支店	真島洋三
	東光園緑化(株)	
	大阪支店	池田邦寛

4、教育厚生委員会(6名)

委員長	植村高樹園	植村清一
副委員長	(株)昭和造園土木	坂上種博
委員	旭緑化建設(株)	中西信行
	関西緑地開発(株)	岡田博文
	近鉄造園(株)	村田義久

(株)山本定樹園	山本浩己
5、広報委員会 (6名)	
委員長 南海造園土木(株)	辻 正俊
副委員長 大阪造園土木(株)	木村源次郎
委 員 荒木造園(株)	斗内 正
関西造園土木(株)	池内吉一
尊農社緑地(株)	梅原 功
(株)京阪神グリーン	木山匡司
6、財務委員会 (3名)	
委員長 (株)三芳園	森 敬介
副委員長 (株)山都屋大阪営業所	稻木 稔
委 員 加茂佐造園(株)	稻沢佐一

■組合顧問・相談役・役員

顧問 衆議院議員	原 田 憲
同	原 健 三 郎
大阪府議会議員	酒 井 豊
前大阪府議会議員	原 田 孝
前大阪市議会議員	天 野 要
公認会計士	西 尾 一 夫
弁護士	安 富 敬 作
相談役 元組合理事長	木 村 源 次 郎
前組合理事長	阪 上 秀 雄
参 与	田 中 安 太 郎
役 員 理事長	竹 中 栄 治 (株)竹中庭園 代表取締役)
副理事長	坂 上 種 博 (株)昭和造園 土木 代表取締役)
同	今 里 忠 夫 (関西植木(株) 代表取締役)
専務理事	岡 田 和 夫
常務理事	山 崎 太 郎
理 事	森 敬 介 (株)三芳園 専務取締役)
同	植 村 清 一 (植村高樹園 代表者)
同	辻 正 俊 (南海造園土 木(株) 代表取締役)
同	関 春 夫 (株)関造園土

木 代 表 取 締 役)	稻 治 清 (株)稻治造園
同	工務所 代 表 取 締 役)
同	當 内 真 (株)庭樹園 代 表 取 締 役)
監 事	田 中 弘 志 (田中建設(株) 代 表 取 締 役)
同	田 中 正 一 (株)田中造園 土木 代 表 取 締 役)

■共同企業体構成 (昭和60年9月現在) ○印は代表者

企 業 体 名	構 成 員
第一造園 共同企業体	○関 西 植 木 株 式 会 社 大 阪 造 園 土 木 株 式 会 社 株 式 会 社 三 芳 園 株 式 会 社 大 西 東 山 造 園
近畿造園 共同企業体	○株 式 会 社 関 造 園 土 木 社 旭 緑 化 建 設 株 式 会 社 株 式 会 社 植 拙 组 田 中 建 設 株 式 会 社
京阪神造園 共同企業体	○株 式 会 社 竹 中 庭 園 株 式 会 社 京 阪 神 グ リ ー ン 南 海 造 園 土 木 株 式 会 社 株 式 会 社 阪 南 造 園
兵庫造園 共同企業体	○株 式 会 社 田 中 造 園 土 木 株 式 会 社 昭 和 造 園 土 木 株 式 会 社 辻 本 龍 松 株 式 会 社 明 治
三和造園 共同企業体	○内山緑地建設株式会社 大阪支店 富士造園土木株式会社 関西造園土木株式会社 株式会社山本庭樹園
大阪中央造園 共同企業体	○尊農社緑地株式会社 植村造園土木株式会社 株式会社西川造園 株式会社奈須造園
関西造園 共同企業体	○近鉄造園株式会社 阪急造園芸株式会社 株式会社山都屋大阪営業所 東光園緑化株式会社大阪支店
新大阪造園 共同企業体	○株 式 会 社 稲 治 造 園 工 務 所 株 式 会 社 青 紅 園 関 西 緑 地 開 發 株 式 会 社 加 茂 佐 造 園 株 式 会 社
西日本造園 共同企業体	○株 式 会 社 庭 樹 園 植 村 高 樹 園 岩 辻 緑 地 建 設 株 式 会 社 株 式 会 社 大 阪 緑 花 園

●組合員

企 業 名	代 表 者 名	所 在 地	電 話 番 号	許 可	許可番号
旭 緑 化 建 設(株)	代表取締役 中西 信行	〒541 大阪市東区平野町3-28 甘糟ビル6F	06(226)1735	大 臣	般-57 69445
荒 木 造 園(株)	代表取締役 荒木 芳邦	〒563 池田市鉢塚2-9-8	0727(61)1298	知 事	特-57 10753
(株)稻治造園工務所	代表取締役 稻治 清	〒562 箕面市新稻2-3-2	0727(23)0003	知 事	特-57 41848
岩 辻 緑 地 建 設(株)	代表取締役 岩 辻 勝	〒586 河内長野市日野1520	0721(53)7300	大 臣	特-58 10277
(株)植 捨 組	代表取締役 阪上 貞雄	〒665 宝塚市雲雀丘2-1-8	0727(59)9505	大 臣	特-59 8263
植 村 高 樹 園	代 表 者 植村 清一	〒581 八尾市山畑366	0729(41)8182	知 事	特-57 36796
植 村 造 園 土 木(株)	代表取締役 植村 三郎	〒569 高槻市大畑町11-7	0726(95)0466	大 臣	特般59 6651
内 山 緑 地 建 設(株) 大 阪 支 店	支店長 真島 洋三	〒532 淀川区西中島7-1-26 新大阪地産ビル309号	06(304)7967	大 臣	特-58 545
大 阪 造 園 土 木(株)	代表取締役 高岡 功	〒530 大阪市北区堂山町14番20号	06(361)0619	知 事	特-57 9877
(株)大 阪 緑 花	代表取締役 古川 賀昭	〒532 淀川区西中島6丁目8-9 花原第一ビル305号	06(304)3190	知 事	般-58 56259
(株)大 西 東 山 造 園	代表取締役 大西 新豊	〒581 大阪府八尾市郡川372	0729(41)6541	大 臣	般-59 9756
加 茂 佐 造 園(株)	代表取締役 稻沢 佐一	〒531 大阪市大淀区中津1丁目17-23	06(371)9101	知 事	般-57 10496
関 西 植 木(株)	代表取締役 今里 忠夫	〒550 大阪市西区千代崎2-22-21号	06(581)3401	知 事	特-57 14877
関 西 造 園 土 木(株)	代表取締役 杭本 克彦	〒652 神戸市兵庫区下沢通2-2-21号	078(575)0451	大 臣	特-58 7662
関 西 緑 地 開 発(株)	代表取締役 岡田 博文	〒562 箕面市大字粟生外院463-2	0727(29)3317	知 事	般-57 10908
近 鉄 造 園(株)	代表取締役 中沢 種次	〒542 大阪市南区谷町9丁目5番15号 中田ビル4F	06(762)6425	大 臣	特-57 7240
(株)京阪神グリーン	代表取締役 木山 匡司	〒543 大阪市天王寺区堂ヶ芝1丁目 11-16 桃陽ビル	06(771)5754	知 事	特-58 57183
(株)三 芳 園	代表取締役 西富 春男	〒553 大阪市福島区鶯洲5-3-4号	06(458)4814	大 臣	特-58 6160
(株)昭 和 造 園 土 木	代表取締役 坂上 種博	〒532 大阪市淀川区宮原1-7-13-514	06(384)8783	大 臣	特般57 3192
(株)青 紅 園	代表取締役 中島 幸太郎	〒589 南河内郡狭山町池尻512	0723(65)2441	知 事	特般57 10398
(株)関 造 園 土 木	代表取締役 関 春夫	〒565 豊中市上新田1-10-9	06(871)2783	知 事	特-59 4430
尊 農 社 緑 地(株)	代表取締役 梅原 功	〒536 大阪市城東区野江1丁目11番1- 201号	06(932)1001	大 臣	特-58 3418
田 中 建 設(株)	代表取締役 田中 弘志	〒664 伊丹市荒牧田字東鍵田7	0727(81)1659	大 臣	特般57 8622
(株)田 中 造 園 土 木	代表取締役 田中 正一	〒532 大阪市淀川区十三東3-14-17	06(304)1128	知 事	特-57 7111
(株)竹 中 庭 園	代表取締役 竹中 栄治	〒547 大阪市平野区長吉出戸3-1-55	06(799)1128	大 臣	特-59 8353

企 業 名	代 表 者 名	所 在 地	電 話 番 号	許 可	許可番号
(株)辻本龍松園	代表取締役 辻本巳之介	〒661 尼崎市田能1149	06(491)9307	知事	特-57 202803
(株)庭樹園	代表取締役 當内 黙	〒543 大阪市天王寺区石ヶ辻町3-12 宝栄ビル	06(773)0661	知事	特-59 2461
東光園緑化(株) 大阪支店	支店長 新垣 和昭	〒550 大阪市西区立売堀3-1-1	06(541)3623	大臣	特般57 1303
(株)奈須造園	代表取締役 奈須 正好	〒560 豊中市中桜塚2-20-6	06(841)1330	知事	特-57 47475
南海造園土木(株)	代表取締役 辻 正俊	〒592 高石市東羽衣3-8-4	0722(61)1322	知事	特-58 13489
(株)西川造園	代表取締役 西川晴之助	〒573 枚方市北中振3-27-17	0720(33)8998	知事	特-59 2664
阪急園芸(株)	代表取締役 岩崎 徹	〒530 大阪市北区角田町8番47号 阪急グランドビル内	06(834)0721	知事	特-59 4196
(株)阪南造園	代表取締役 荒木 庸次	〒557 大阪市西成区天下茶屋東2丁目 1-20	06(651)1133	大臣	特-58 6046
富士造園土木(株)	代表取締役 金岡 昭雄	〒665 宝塚市山本東2-6-17	0797(88)0501	大臣	特-59 8295
(株)明治屋	代表取締役 口丸 伊一	〒664 伊丹市荒牧字大道28	0727(81)1540	大臣	特-59 8147
(株)山都屋 大阪営業所	所長 稻木 稔	〒537 大阪市東成区中道2-5-15 森ノ宮ハイツ310号	06(981)0421	大臣	特-59 547
(株)山本定樹園	代表取締役 山本 浩巳	〒530 大阪市北区天神橋3-8-7 誠昌ビル202号	06(352)1171	大臣	般-59 6386

■事務局職員 (S 60・9現在)

参 与 田中安太郎、専務理事 岡田和夫
 常務理事 山崎太郎、事務主任 待場壮造
 教育主任 西山信三、会計主任 西内美実
 会計副主任 木村忠雄、事務副主任 三谷清水

事務局嘱託員

服部緑地・都市緑化植物園相談員
 樽本 清、楠田奈津子
 万博日本庭園派遣 浅中久男、大泉緑地カキツ
 バタ園派遣 堀内繁夫

●組合員物故者

氏 名	死 亡 年 月 日	所 属 企 業 名	摘 要
森 俊一	48. 8. 26	(株)三芳園 代表取締役	
植 村 一 郎	48. 11. 19	植村造園土木(株) 代表取締役	
富 川 武 男	49. 5. 20	関西植木(株) 代表取締役	
當 内 富 三 郎	50. 11. 4	(株)庭樹園 代表取締役	
岩 田 辰 太 郎	51. 11. 28	大阪造園土木(株) 代表取締役	元組合副理事長
植 村 新 一	52. 1. 17	植村造園土木(株) 会長	
岡 田 次 平	52. 8. 26	関西緑地開発(株) 代表取締役	
田 治 六 郎	53. 1. 18		元阪神造園高等職業訓練校長
辻 三 郎	53. 1. 18	南海造園土木(株) 会長	
西 谷 作 太 郎	53. 4. 16	(株)三芳園 専務取締役	元組合副理事長
当 麻 英 夫	53. 9. 13	三容興産(株) 代表取締役	
岩 辻 忠 兵 衛	56. 7. 25	岩辻緑地建設(株) 監査役	
稻 沢 辰 次	59. 2. 18	加茂佐造園(株) 代表取締役	
富 川 竹 次 郎	59. 7. 17	関西植木(株) 会長	元組合理事
中 西 登	60. 5. 13	旭緑化建設(株) 会長	
木 原 五 市	60. 8. 3		元阪神造園建設業協同組合理事長

●社名、代表者の変更等

(昭和51年度以降)

- 51・12・1 近鉄興業(株)造園土木建設部は、社名を近鉄造園(株)と変更、代表取締役に佐藤佳隆氏就任
- 51・12・21 尊農社緑地(株)大阪営業所は、大阪支店に昇格、支店長に大崎俊一氏就任
- 51・1・1 (株)稻治造園工務所は組織変更し代表取締役に稻治清氏就任
- 51・4・1 (株)山都屋大阪営業所は所長として稻木稔氏就任
- 51・9・20 (株)岩辻園芸農場は代表取締役に岩辻勝氏就任
- 52・10・27 (株)竹中庭園は代表取締役として竹中栄治氏就任
- 52・11・12 関西緑地開発(株)は代表取締役として岡田博文氏就任
- 54・4・1 東光園緑化(株)大阪支店は支店長に常務取締役支店長富永孝之氏就任
- 54・8 内山緑地建設(株)大阪支店は、支店長に真島洋三氏就任
- 54・9・30 富士造園土木(株)は、代表取締役に金岡昭雄氏就任
- 54・11・7 阪急園芸(株)は、代表取締役に檜垣正一氏就任
- 55・5・28 旭緑化建設(株)は、代表取締役に中西信之氏就任
- 56・7・24 近鉄造園(株)は、代表取締役に中沢種次氏就任
- 56・8・1 (株)岩辻園芸農場は、社名を岩辻緑地建設(株)に変更
- 57・9・7 (株)大阪緑花は、代表取締役に古川暢昭氏就任
- 58・4・1 (株)山本定樹園は、代表取締役に山本

浩巳氏就任

- 58・5・30 阪急園芸(株)は、代表取締役に岩崎徹氏就任
- 58・10・12 大阪造園土木(株)は、代表取締役に高岡功氏就任
- 58・11・15 東光園緑化(株)大阪支店は、支店長に新垣和昭氏就任
- 59・4・26 加茂佐造園(株)、稻沢佐一氏は代表取締役に就任
- 59・5・31 関西造園土木(株) 杭本克彦氏は代表取締役に就任
- 60・6・18 (株)辻本龍松園 辻本裕一氏は代表取締役に就任

●組合の表彰状・感謝状の受理

- 42・3・24 大阪市長 中馬 馨殿より感謝状——大阪市緑化運動推進用として緑化巡回車の寄贈により
- 45・9・13 通商産業大臣 宮沢喜一殿より感謝状——日本万国博日本庭園運営の成果により
- 50・9・18 大阪府中小企業団体中央会会长 太田十殿より表彰状——健全な組合運営と共同事業の充実により
- 50・9・27 大阪市長 大島 靖殿より感謝状——樹木クスの寄贈により
- 50・10・4 大阪府知事 黒田了一殿より感謝状——樹木の寄贈により
- 50・11・4 大阪府知事 黒田了一殿より感謝状——技能検定推進の寄与により
- 50・12・1 兵庫県知事 坂井時忠殿より感謝状——樹木の寄贈により
- 50・12・23 日本万国博記念協会会长 芦原義重殿より感謝状——樹木の寄贈により

51・3・7 大阪府知事 黒田了一殿より感謝状
——くらしと森林展及び第14回花と緑の運動春のフェア協力により

51・11・10 大阪府知事 黒田了一殿より感謝状
——技能者養成に寄与したことにより

52・11・1 労働大臣 石田博英殿より表彰状——技能者養成に寄与したことにより

56・3・10 神戸ポートアイランド博覧会協会会長 宮崎辰雄殿より感謝状——会場施設建設の優良工事により

58・11・23 大阪府知事 岸 昌殿及び(財)都市緑化基金 会長水上達三殿より感謝状——第1回全国都市緑化フェアの協力協賛により

59・4・4 大阪府知事 岸 昌殿より感謝状——大阪府緑化基金の寄附により

60・8・27 大阪市長 大島靖殿より感謝状
——大阪市都市緑化基金の寄附により

60・9・28 創立20周年を記念し、植樹・基金を寄附したことにより、大阪府知事 兵庫県知事 大阪市長よりそれぞれ感謝状を受く

●組合員の受章表彰等

(昭和51年度以降)

●関西造園土木(株) 代表取締役杭本正氏は51年度秋の叙勲に黄綬褒賞を受章

●当組合は、訓練校の功績に対し技能者養成の優良事業所として昭52・11・1 労働大臣石田博英殿より表彰

●大阪府中小企業団体中央会第10回大阪大会にて功労賞として当麻英夫、坂上種博の両氏、優秀賞に西内美実氏が太田十会長より表彰される

●大阪造園土木(株)木村源次郎氏は53・5・31黄綬褒賞を受章

●大阪府中小企業団体中央会第11回大阪大会 (53・9・25) にて当麻英夫、阪上秀雄、竹中栄治、辻本綾子の各氏が表彰される

●大阪府中小企業団体中央会第12回大阪大会 (54・9・4) にて木村源次郎、加藤亮太郎、三上貞治の各氏が表彰される

●大阪府中小企業団体中央会第13回大阪大会 (55・10・15) にて横尾秀雄、植村清一、大八木武夫の各氏が表彰される

●昭和55年度大阪府職業訓練大会 (55・11・21) にて辻正俊氏が大阪府知事より表彰される

●昭和56年度大阪府職業訓練大会 (56・11・26) にて植村清一、赤堀義則の両氏が大阪府知事より表彰される

●都市公園法施行25周年記念大会 (56・10・25) にて、阪上秀雄、池内吉一、小林利二の各氏が建設大臣より表彰、また金岡秀輔氏は建設大臣感謝状を受く

●当組合が、大阪市緑化の相談所へ園芸用品の寄贈に対し56・12・12大阪市長より感謝状を受く

●関西造園土木(株)杭本正氏は、昭57年度春の叙勲により勲5等雙光旭日章を受章する

●(株)京阪神グリーン木山匡司氏は、57・7・13建設大臣より表彰される

●(株)竹中庭園 理事長竹中栄治氏は57・11・2 第15回中小企業団体大阪大会にて知事より表彰される

●前理事長、相談役・阪上秀雄氏は57・11・18 57年度大阪府職業訓練大会にて知事より表彰される

●(株)昭和造園土木、副理事長・坂上種博氏は58・5・3 大阪府知事より産業建設功労者として表彰される

●昭58・11・24 昭和58年度大阪府職業訓練大会にて加藤亮太郎、岩辻勝の両氏が大阪府知事より表彰される

●当組合は、大阪府緑化基金に寄附したことにより昭59・4・4 大阪府知事・岸昌殿より感謝状を受く

●前理事長 阪上秀雄氏は、昭59・4・29内閣総理大臣 中曾根康弘殿より黄綬褒章を受章する

●大八木武夫氏 (事務局教育主任) は、昭59・11・16 昭和59年度大阪府職業訓練大会にて大阪府知事より表彰される

●組合相談役 木村源次郎氏 (元理事長) は造園建設業功績により昭60・11・3 総理大臣中曾根康弘殿より勲5等端宝章を受章する。

●組合役員の異動

異動年月日	理 事 長	副 理 事 長	理 事	監 事	員外理事ほか
40. 9. 28	森 俊一 (株 三芳園)	岩田辰太郎 (大阪造園土木株)	富川 武男 (関西植木株)	稻沢 辰次 (加茂佐造園株)	
		坂上 種博 (株昭和造園土木)	木山 匡司 (京阪神建設株)	辻本巳之介 (辻本龍松園)	
			植村 新一 (植村造園土木)		
			竹中栄太郎 (株竹中庭園)		
			荒木 芳邦 (荒木造園株)		
41. 5. 26	同 上	岩田辰太郎 (大阪造園土木株)	坂上 種博 (株昭和造園土木)	同 上	
		金岡 秀輔 (株金岡養樹園)	富川 武男 (関西植木株)		
			木山 匡司 (京阪神建設株)		
			植村 新市 (植村造園土木)		
			竹中栄太郎 (株竹中庭園)		
			荒木 芳邦 (荒木造園株)		
43. 5. 26	同 上	金岡 秀輔 (株金岡養樹園)	富川 武男 (関西植木株)	同 上	木原五市 (参事)
		木村源次郎 (大阪造園土木株)	木山 匡司 (京阪神建設株)		
			植村 新市 (植村造園土木)		
			竹中栄太郎 (株竹中庭園)		
			当麻 英夫 (三容興産株)		
43. 7. 8	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
			阪上 貞雄 (株植捨組)		

			口丸 伊一 (株明治園)		
43. 7. 23	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
		坂上 種博 (株昭和造園土木)			
43. 11. 29	木原 五市 (参事)	同 上	同 上	同 上	
45. 5. 30	同 上	同 上	森 俊一 (株三芳園)	同 上	
			富川 武男 (関西植木株)		
			木山 匡司 (京阪神建設株)		
			植村 新市 (植村造園土木)		
			竹中 栄太郎 (株竹中庭園)		
			当麻 英夫 (三容興産株)		
			阪上 貞雄 (株植捨組)		
			口丸 伊一 (株明治園)		
46. 6. 7	木村 源次郎 (大阪造園土木株)	坂上 種博 (株昭和造園土木)	森 俊一 (株三芳園)	富川 武男 (関西植木株)	
		木山 匡司 (京阪神建設株)	阪上 貞雄 (株植捨組)	口丸 伊一 (株明治園)	
			当麻 英夫 (三容興産株)		
			竹中 栄太郎 (株竹中庭園)		

48. 5. 25	当麻 英夫 (三容興産株)	阪上 秀雄 (株植捨組)	木村 源次郎 (大阪造園土木株)	植村 清一 (植村高樹園)	加藤亮太郎
		竹中 栄治 (株竹中庭園)	木山 匡司 (京阪神建設株)	横尾 秀雄 (田中建設株)	(専務理事)
			坂上 種博 (株昭和造園土木)		
			西谷 作太郎 (株三芳園)		
			富川 武男 (関西植木株)		
			口丸 伊一 (株明治園)		
50. 5. 29	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上
52. 5. 21	阪上 秀雄 (株植捨組)	木山 匡司 (京阪神建設株)	木村 源次郎 (大阪造園土木株)	横尾 秀雄 (田中建設株)	同 上
		西谷 作太郎 (株三芳園)	坂上 種博 (株昭和造園土木)	辻 正俊 (南海造園土木株)	
			竹中 栄治 (株竹中庭園)		
			富川 竹治郎 (関西植木株)		
			植村 清一 (植村高樹園)		
			当麻 英夫 (三容興産株)		
53. 4. 16		西谷 作太郎 (死亡により退任)	森 敬介 (株三芳園)		
53. 9. 13			当麻 英夫 (死亡により退任)		
54. 5. 25	同 上	木山 匡司 (株京阪神グリーン)	木村 源次郎 (大阪造園土木株)	横尾 秀雄 (田中建設株)	同 上

		坂上 種博 (株昭和造園土木)	竹中 栄治 (株竹中庭園)	関 春夫 (株関造園土木)	
			富川竹治郎 (関西植木株)		
			植村 清一 (植村高樹園)		
			森 敬介 (株三芳園)		
			辻 正俊 (南海造園土木株)		
56. 5. 30	竹中 栄治 (株竹中庭園)	坂上 種博 (株昭和造園土木)	木山 匠司 (株京阪神グリーン)	當内 黙 (株庭樹園)	加藤亮太郎 (顧問)
	今里 忠夫 (関西植木株)	植村 清一 (植村高樹園)	田中 弘志 (田中建設株)	56. 6. 25	
		森 敬介 (株三芳園)			山崎太郎 (常務理事)
		辻 正俊 (南海造園土木株)			56. 6. 25
		関 春夫 (株関造園土木)			佐藤経夫 (専務理事)
		稻治 清 (株稻治造園工務所)			56. 10. 23
58. 5. 21	同 上	同 上	植村 清一 (植村高樹園)	田中 弘志 (田中建設株)	岡田和夫 (専務理事)
			森 敬介 (株三芳園)	田中 正一 (株田中造園土木)	58. 4. 1
			辻 正俊 (南海造園土木株)		
			関 春夫 (株関造園土木)		
			稻治 清 (株稻治造園工務所)		
			當内 黙 (株庭樹園)		加藤亮太郎 退任
					60. 3. 31
60. 5. 21	同 上	同 上	同 上	同 上	田中安太郎 (参与)
					60. 4. 1

第3章

成熟期への展望

緑の重要性が今ほど問われる時代はない。とりわけ、砂漠化が進む都市部では、まさしく緑が人々の心のオアシスとなっている。

潤いのある豊かで快適な都市空間、それともたらすものは、人と自然の共存以外にない。

今日、わが国および地方の緑化運動は、かつてないほどの高まりをみせている。その象徴ともいえるのが、昭和65年に大阪市鶴見緑地で開催予定の「花の万国博」だろう。

こうした時代にあって、当組合が推進する都市公園等の整備をはじめとした公共緑化造園事業は、極めて意義深い活動である。

当組合は、都市環境づくりの一翼を担うという社会的責任のもと、永年の経験と斬新な技術・ノウハウをもって緑化事業にたゆまぬ努力を傾けている。

とくに今日では敷地の造成・植栽・用排水等の基礎的工事、関連土木工事はもちろん、その特種性、価値感の多様化を考慮した各種施設の建設に至るまで、一貫した施工が問われる。我々はこのことを深く認識し、一層の研鑽につとめるとともに、信頼される組合として緑豊かな公共施設、および都市環境づくりに向けて、さらなる飛躍をつづけていかなければなければならない。

○編集後記○

20周年記念事業の一つとして「20年のあゆみ」を刊行することになり組合で新たに記念誌委員会を設けることになりました。そして組合の6委員会から選出願って構成された方がたは次のとおりであります。

記念誌委員会

委員長 辻 正俊（広報委員長）
委 員 木村源次郎（広報委員）
委 員 阪上貞雄（企画渉外委員）
委 員 當内 熱（事業委員長）
委 員 荒垣和昭（技術委員）
委 員 石岡喜代磨（教育厚生委員）
委 員 稲木 稔（財務委員）

そして第1回企画編集会議がもたれましたのは昭和60年3月5日（火）のことであり、さらに4月5日（金）第2回編集会議がもたれましたが、既刊「10年のあゆみ」を包括してどのように組み立てるかが論議されました。10年ひと昔というが20年となるとふた昔となりますので前の10年は要約しその後は各委員会活動を主体に記念誌委員により総括されることになりました。

以降、7月30日（火）、8月29日（木）、10月25日（金）、11月8日（金）と数次にわたり取材・

編集・校正などの作業を進めて来たところでありますが当初の編集方針に基づき、また限りある紙面の都合によって当該年度のさまざまな業務の詳報や各論の詳述は残念ながら割愛せざるを得ませんでした。20年の重みをひしひしと感ずるところであります。

漸く座談会「造園業界の展望を語る」の記事を脱稿した今、あれこれといっぱい忘れ物をしたような気がしてなりません。まこと不充分のそしりを免がるものではありませんがここに心より申証なくお詫びする次第であります。

お忙しいところ熱心にとり組んでいただいた記念誌委員会の方がたにあつく御礼を申し上げますとともにこの記念誌の刊行にご協力ご支援賜りました関係機関の皆さまはじめ組合員の皆さまに深く感謝申し上げます。

また阪神造園高等職業訓練校のあゆみをお寄せくださいました加藤亮太郎前校長に深謝申し上げます。

20年の節目を乗り越え今後益々組合皆様方のご清祥とご発展を末筆ながらお祈り申し上げまして筆を擱きます。

（60.11.15 事務局 岡田和夫）

組合20年のあゆみ

昭和61年1月 発刊

発行 阪神造園建設業協同組合

〒530 大阪市北区神山町2番2号

造園会館4階

TEL 06-312-4553